

「市民ワークショップ」報告書

平成 28 年 2 月

帯 広 市

目次

I. 市民ワークショップの趣旨と目的.....	1
1. 趣旨	1
2. 目的	1
II. 市民ワークショップの概要.....	2
1. 開催日時及び会場.....	2
2. ワークショップのテーマ.....	2
3. 参加者の状況	2
4. 当日のスケジュール.....	4
III. 議論のまとめ	6
1. 1日目	6
2. 2日目	15
IV. 市民ワークショップ参加者の意識.....	22
V. 参考資料	23
1. ワークショップにおける各グループの意見.....	23
2. 市民ワークショップアンケート結果.....	53
3. 配布資料（プレゼン資料）	57
①帯広市における公共施設等の現状	57
②公共施設に関する市民アンケート結果概要	77
③他の市町村における取組みについて	99

I. 市民ワークショップの趣旨と目的

1. 趣旨

高校生を含めた市民から直接、公共施設等のあり方に関する意見やアイデアを提案してもらい、市民の声や意見を、公共施設等に関する基本的な考え方等をまとめる「(仮称)帯広市公共施設マネジメント計画」の考え方に広く反映させる。

2. 目的

厳しい財政状況のなか、現状のまま全ての公共施設等を改修・建て替えることは現実的に困難である。また、今後の公共施設等のあり方を考えていくうえで、人口減少や人口構造の変化によって生じる市民ニーズの変化、施設の利用実態や利用者数の推移などについて、十分に議論・検証していく必要がある。

本ワークショップにおいては、「(仮称)帯広市公共施設マネジメント計画」の策定に向け、本市における公共施設の状況やその課題について、施設利用者である市民と認識を共有したうえで、これからの公共施設等に求められる役割、あり方等について一緒に考えることを目的とする。

Ⅱ. 市民ワークショップの概要

1. 開催日時及び会場

	日時	会場
1 日 目	平成 2 7 年 1 0 月 2 4 日 (土) 1 3 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0	帯広市役所本庁舎 1 0 階第 5 A ・ B 会議室
2 日 目	平成 2 7 年 1 1 月 8 日 (日) 1 3 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0	とかちプラザ 4 0 2 講習室

2. ワークショップのテーマ

(1) 1 日 目

- ・「公共施設は誰のもの？」

公共施設に関する印象、施設を使う理由、使わない理由を議論しながら、グループごとに議論の対象とする施設類型を選択

- ・「公共施設の必要性を踏まえつつ、課題を解決する方策を考える」

選択した施設類型について、必要性に対応しつつ、課題を解決する方策について議論、発表

(2) 2 日 目

- ・「私たちの生活圏における公共施設のあり方」

各グループで選択した生活圏において生活することを想像してもらい、各地区の公共施設の特性を確認したうえで、具体的な施設を取り上げながら、課題解決策を議論、発表

3. 参加者の状況

(1) 1 日 目

- ・参加者数 44 人 (男性 : 13 人、女性 : 31 人)
- ・平均年齢 33.8 歳

<年代別の状況>

(単位 : 人、%)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	計
人数	15	11	4	4	2	5	3	44
構成比	34.1	25.0	9.1	9.1	4.5	11.4	6.8	100.0

(2) 2日目

- ・参加者数 37人(男性:12人、女性:25人)
- ・平均年齢 34.9歳

<年代別の状況>

(単位:人、%)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計
人数	12	9	4	3	1	5	3	37
構成比	32.5	24.3	10.8	8.1	2.7	13.5	8.1	100.0

※1日目、2日目とも、高校生から70歳代までの市民が参加

4. 当日のスケジュール

(1) 1日目

時間	実施内容
13 : 00	(1) 開会のあいさつ ・今回のWSの趣旨や目的等について説明
13 : 05	(2) 市民ワークショップの進め方についての説明 ・WS全体の流れの説明と注意事項 ・ファシリテーターの紹介 等
13 : 10	(3) 帯広市の公共施設についての説明 ①帯広市における公共施設の現状と公共施設マネジメントの必要性 ②公共施設に関する市民アンケート結果概要
13 : 30	(4) 自己紹介等 ・各グループにて自己紹介、公共施設のイメージ、今回のアンケートに関する感想等をF Aからはじめて各自発表
13 : 50	(5) ワークショップ テーマ1 : 公共施設は誰のもの？ ・公共施設に関する印象 ・公共施設を使っているかどうか ・使う理由（必要性）と使わない理由（課題） ・各グループで議論の対象とする類型を選択（学校教育施設、集会施設、体育施設 等） ・各自の当該類型に対する印象、利用状況 ・当該類型の必要性と課題 テーマ2 : 公共施設の必要性を踏まえつつ、課題を解決する方策を考える ・テーマ1で取り上げた類型について、必要性に対応しつつ課題を解決する方策について議論 その他 : 次回議論する生活圏を決定
16 : 00	(6) 各グループの発表＋講評 ・各グループから議論した内容を発表 ・F Aからコメント
16 : 55	(7) 次回の説明

(2) 2日目

時間	実施内容
13 : 00	(1) 開会
13 : 05	(2) 他地域における取組の紹介 ・他の市町村における取組みについて
13 : 45	(3) 振り返り ・各グループにて前回の議論等について取りまとめ資料を参考に振り返る
13 : 55	(4) ワークショップ テーマ：私たちの生活圏における公共施設のあり方 ・選択した生活圏に公共施設の状況等を整理（地図上にマーク） ・解決策を提示 ・その生活圏において生活することを想像した場合、公共施設の必要性、課題を踏まえ、課題解決策を考える ＜課題解決策のとりまとめの類型＞ 方策1：施設の複合化・多機能化等による施設の総量抑制 方策2：類似施設の統廃合による施設数の適正化 方策3：計画的な保全による施設の長寿命化 方策4：施設整備面や施設運営面での民間ノウハウの活用 方策5：市民が主体となった施設の管理運営の推進 方策6：近隣町村との施設の共同利用の推進 方策7：その他
15 : 50	(5) 各グループの発表＋講評 ・各グループから議論した内容を発表 ・F Aからコメント
16 : 30	(6) W S のまとめ ・2日間のW S を踏まえたまとめ
16 : 40	(7) 今後の予定について ・市の公共施設マネジメントの今後の取組予定等について

※両日とも、参加者を6グループにわけ、各グループにF A（ファシリテーター：進行役）を配置。

Ⅲ. 議論のまとめ

1. 1 日目

各グループで取り上げた公共施設は、コミュニティセンター、とかちプラザ及び図書館の3施設であった。これは、コミュニティセンター及びとかちプラザは多くの参加者が日頃から利用していること、図書館については、高校生や大学生（属性では20歳代）の参加者が多いことから、選択されたものと考えられる。以下に、取り上げた施設に関して出された課題と提案（解決策）を整理する。

（1）コミュニティセンター

1) 認識や印象

課題	提案（解決策）
（施設認知） ・ 全般的に施設利用度や認知度が低い。 ・ コミュニティセンターで何ができるのか、何をする場所か分らない。 ・ 存在自体を知らなかった。 ・ 「コミュニティセンター」の名称から具体的な用途をイメージしづらい。 ・ 住宅地の中にあり、場所が分かりづらい。 （雰囲気） ・ 周辺に街灯が少なく暗い印象。 ・ 老朽化しており、入りにくい。 ・ 交通の便が悪く、周辺の防犯灯も少ないため安心して利用できない。	（周知方法） ・ コミュニティセンター見学会の実施。 ・ 施設見学会などを実施し、職員が施設の使い方をレクチャーする。 ・ 施設利用のしおりやリーフレット等を充実させ、施設の使い方や公共交通によるアクセス等を掲載する。 （雰囲気） ・ 街灯や看板を設置するなどして行きやすい雰囲気作りが必要。

2) 必要性

課題	提案（解決策）
（存在意義） ・人口が減っているのに施設数は減っていない。 ・会議等を開くことができる類似施設があるため、コミュニティセンターを利用する必要がない。 ・葬式などの利用はなくなっており、市民のニーズは変わっている。 ・機能面において他施設との重複感がある。	（地域交流促進） ・小学校などとともに、地域のイベント会場として利用する。 ・コミュニティセンターからサークルを作って人が集まりやすくする。 ・地域における様々な活動に利用されることにより、地域交流が実現（しようと）している。 （新サービス実現） ・施設の民営化または一部スペースを民間事業者に貸し出し、地域住民向けや若者向けのイベント等を開催する。 ・学校施設や民間施設の空きスペースなどを活用し、コミュニティ空間を確保する。 （設置目的の柔軟化） ・地域において多世代交流が可能な施設とする。 ・施設の設置目的を変え、子ども達の宿泊研修等でも使えるようにする。 ・施設の設置目的や施設名称自体を変える。 （施設配置） ・建設事業者等による寄付によるものもあり、必要性に基づいて設置されていないことから、数を絞った上で、地域の使い勝手の良い場所に設置する。 （機能統合） ・コミュニティセンターごとに機能を特化させる。（子育て向け、高齢者向けなど） ・福祉センター、学校施設との機能統合。

課題	提案（解決策）
	(収支面から着眼) ・施設の収支を意識して、地域住民が集うイベントや若い世代向けの講習会や教室等を企画する。 ・人口の減少に合わせて不要な施設は廃止し売却することで、他の施設の運営経費を捻出する。 ・寄付等も含め、地域がお金を出し合う。

3) 利用面

課題	提案（解決策）
(利用実態) ・ 使う人が偏っている。 ・ 若者の利用者が少ない。 ・ 特定のグループや団体が使っており、地域の住民が使いにくいイメージがある。 ・ 施設の稼働率は低いのに、利用したい時間帯が偏っており使いにくい。 ・ 若い人が入りづらい雰囲気がある。 (移動手段) ・ 住宅地にあるため、車利用者か徒歩圏内に暮らす人でなければ利用できない。 (利用方法) ・ 予約方法や利用料金が不明。 ・ 利用の仕方が分からない。 ・ 施設の予約状況が分かりづらく、いつ空いているのか分からない。 (イベント) ・ イベントが周知されていない。	(利用実態) ・ 多世代が参加しやすいようにする。 ・ 例えばコンビニを併設して、様々な年齢層が訪れるきっかけづくりを行う。 ・ 高齢者は午前中、子ども達は放課後、社会人は夜間に使うようにする。 ・ コミュニティセンターの体育館について、予約をしていない個人が自由に利用できる時間帯を設け、地域住民の交流を促す。 ・ 利用者の固定化が解消されないならば、利用料金を引き上げることも検討する。 (移動手段) ・ 地域を循環するコミュニティバスを1日数本運行し、利用者の交通手段を確保する。 (利用料金) ・ 利用料金を引き下げ、若い人でも気軽に利用できるようにする。 ・ 22時以降に利用する場合、夜間割増料金を徴収する。 ・ 利用料金を下げる。 (イベント) ・ 若者から高齢者まで楽しめる魅力あるイベントを企画する。 ・ 学校にポスターを掲示し、若年層へイベントなどを周知する。 ・ 定期的に若者が興味を持てるイベントを企画する。 ・ 大学生をターゲットにしたイベント等を企画する。

課題	提案（解決策）
	・若者の地域向けイベントを実施する。 ・広報の実施。（市広報誌、SNS、ホームページ、ローカル誌「しゅん」「Chai」を活用し、イベントをPR）

4）設備・機能

課題	提案（解決策）
・建築年次が異なることにより設備に差がある。 ・機能が中途半端。	

5）管理・運営

課題	提案（解決策）
（管理・管理コスト） ・維持管理コストが高い。 ・管理の仕方に課題あり。 ・職員の接遇が悪く、コスト意識も低い。 （運営） ・閉館時間の22時よりも前にバスがなくなるため、閉館時間まで使用できない。 ・会議等の用途で22時以降も使用したい場合がある。	（管理・管理コスト） ・オフィスやコンビニを入れて収益部分を増やし、財政負担を軽減する。 ・修繕や清掃等を地域住民が負担し、財政負担を軽減する。 ・大事に使って、維持費をかけない。 （運営） ・曜日毎に閉館時間に違いを設ける。 （例：月曜日20時まで、木曜日24時まで） ・利用促進策として、自習室の無料開放等。

(2) とかちプラザ

1) 認識・印象

課題	提案（解決策）
(印象) ・十勝地域の施設という性格も反映。 (経営) ・しっかりとした経営をしているか不明。	

2) 必要性

課題	提案（解決策）
(存在意義) ・価値のある施設である。 ・友人等と時間を過ごす場。 ・そもそもの目的が不明。 ・施設内容が十分ではない。	・公共バス（送迎バス）を出す。

3) 利用面

課題	提案（解決策）
(利用実態) ・有料会議室など一部施設の利用度が低い。 ・イベント等に参加すると出会いがある。 ・色々なイベント／機能（ホール、体育館、図書館、カフェ等）がある。	(利用実態) ・有料施設の利用者がいない時間帯は、無料開放するなど無料スペースを拡大し、利用促進を図る。 ・利用者ニーズに合わせて、狭い部屋を統合するなど使い勝手が良くなるような改装を行う。 ・空き部屋等の活用により、控室等の需要に対応する。 ・学習スペースを増やす。 (利用料金) ・イベントの使用料は、利用者に応じた価格設定とし、企業利用については値上げする。

4) 設備機能

課題	提案（解決策）
(駐車場) ・いつも駐車場が満杯。	(駐車場) ・近隣施設の駐車場との利用契約を結ぶ。 (開館前から使うことが出来るようにするなど、使い方に合わせた利用時間等の柔軟性が必要) ・南側スペースなどを一部駐車場に転用する。

5) 管理・運営

課題	提案（解決策）
(運営) ・利用申込み等の使い勝手の悪さがある。 ・予約が取りづらい。 ・I Tの活用が不十分。	(管理) ・学生バイトを使って経費を節減する。 (運営) ・利用申込方法や営業時間などの利用ルールを見直し、利便性を向上させる。 ・休館日を図書館とずらすなど、ほかの類似施設との開館日、利用時間等を調整する。 ・ネット（SNS）と電話で予約できるようにする。（できれば他の類似施設の予約システムも同時に構築する）

(3) 図書館

1) 認識・印象

課題	提案（解決策）

2) 必要性

課題	提案（解決策）
(存在意義) ・ 規模の割に蔵書が少ない。 ・ 高齢者向けの大活字本が少ない。	(蔵書充実) ・ 大学図書館や周辺市町村の図書館とシステム連携、蔵書の融通を行い、蔵書の質・量を強化。 ・ 図書館の来館者により快適にご利用頂く。 例) シニア層の利用を念頭に大活字本を増やす

3) 利用面

課題	提案（解決策）
(利用実態) ・ 本の好きな人だけが利用する印象がある。 ・ 施設に入りにくい。 ・ 図書館内が静かなので、少し会話するだけで周囲から睨まれることもある。	(利用促進) ・ 図書館の来館者により快適にご利用頂く。 例) 貸出手続を簡略化する、銀行のようにご案内係を配置する 例) 静かにする場所と会話して構わない場所の区分を明確化する ・ 施設の魅力をアピールする。 例) 楽しそうなポスターやチラシの作成、掲示、新聞折り込みでの配布 ・ ネット情報とは異なる形で本の魅力をアピールする。

課題	提案（解決策）
	・図書館ならではの情報創造を行う。 例）面白い本のあらすじを楽しく面白くPRする 例）〇〇な人（年齢別だけではなくシーン別）にはこんな本がおすすめ！ ・イベントの開催。 例）どの年代でも楽しめるような本に関するイベントを企画・開催する

4) 設備機能

課題	提案（解決策）
（駐車場） ・車を出してまで行こうと思わない。（駐車場に入りにくい、駐車時間の制限）	

5) 管理・運営

課題	提案（解決策）
（運営） ・貸し出し方法が分かりにくい、検索PCの数が少ないなど使い勝手が悪い。 ・施設が広いので資料を探すのが大変。 ・貸出等の諸手続が面倒。	（運営） ・サービス向上を図り、TSUTAYAに委託するなど指定管理者制度による運営に変更する。 ・施設の魅力をアピールする。 例）インターネットで書籍検索・予約ができることをアピール

2. 2日目

ワークショップでは地域を選択し、その地域の公共施設の状況を題材に、生活圏における公共施設のあり方について議論を行った。ただし、題材として使用した地域はあくまで題材であり、その地域固有の問題に関する解決策を検討するものではないため、ここでは、地域名を外して取りまとめを行う。

以下、各グループで出た意見を、ワークショップ時にとりまとめで使用方法別に、適宜分類化して、整理する。

方策1 施設の複合化・多機能化等による施設の総量抑制

分類	意見
複合化	・コミュニティセンター、福祉センター、自治会館といった階層を取り払った上で、地域にある集会機能を集約・統合した施設を作る。 ・コミュニティセンター、福祉センターと小中学校を複合化することにより、子供や地域の人々との交流の場を創出する。少子化の影響により、空き教室が増えるため、効率の良い利用、コストダウンにつながる。一方、利用時間、警備の面で配慮が必要になる。 ・小学校やコミュニティセンター、福祉センターを併せ、各世代が共同で利用できる施設を設置する。 ・近隣にある小学校、福祉センター、児童保育センターを統合、併設化する。 ・総合体育館は、立地場所が川に挟まれた場所で市中心部からの動線が大変不便（駐車場への動線が悪い）なため、総合体育館と隣接する警察署を敷地上統合して、敷地の有効利用を図る。（例えば、警察署の駐車場を体育館でのイベント時は利用できるようにする） ・帯広の森周辺は、森や畑が広がっている印象なので、小中学校・コミュニティセンター・スポーツ施設・市役所の出張所（窓口）・ショッピングセンターなどを同一の区画に整備し、利便性を向上する。（例：体育館は学校活動・市民利用双方を可能にする等）なお、課題としては、現在周辺に住んでいる住民との協議や、単年度に整備する場合の予算制約等が考えられる。

分類	意見
多機能化	・ とかちプラザ内に託児所を設けるなど、既存施設の子育て支援機能を強化する。 ・ 空き教室を活用する。なお、課題としては、市民と小中学生の利用時間等への配慮、警備体制の構築（警備員の配置が必要になる）、受付職員の配置などが考えられる。 ・ 小学校の空き教室を他の用途に使うなどして、複合施設化する。 ・ 小中学校に図書館や科学館の機能を組み込む。 ・ 児童保育センター機能については、余裕教室を持つ近隣小学校に移転統合する。小学校は原則として児童が歩いて通学できることが前提とされているはずであり、小学校への移転について、距離の問題等は発生しないと考えられる。なお、小学校への機能統合については、セキュリティ対策やこれまで統合されなかった理由の確認等が必要である。 ・ 児童保育センター（学童保育）の機能を、小学校の余剰教室を活用して統合することが有効である。 ・ 学校の敷地内に小さな図書館を作る。 ・ 夜間の中学校を市民開放して、市民向け講座を開設する。 ・ 学校図書館、体育館、調理室を一般開放する。
コミュニティ形成	・ 学校の多彩な建物機能を生かし、地域コミュニティの中心施設とすべき。

方策2 類似施設の統廃合による施設数の適正化

分類	意見
利用率による統廃合検討	・利用率の低いコミュニティセンターや福祉センターは廃止する。その結果、近所に施設がなくなる住民のためにはシャトルバスを運行する。 ・使用率が低い福祉センターを近くの保育所と統合（併設、増設）する。 ・利用率の低い福祉センターは、統廃合を検討する。高齢化、老朽化している地区を先に実施し、順次、時代の進展にあわせ手をつけていく。 ・福祉センターの利用率が低いため、利用者の多い地域にまとめる。 ・利用率が低い福祉センターを廃止し、近接するコミュニティセンターに集約化する。なお、課題としては、取壊し予算の確保や、現在の利用者への理解を得ることなどが考えられる。 ・利用率が極めて低い施設は廃止する。 ・利用率が低く、古い施設は、似たような機能の施設が近くにある場合は、統合すべき。 ・利用者数が少ない野球場を廃止し、学校のグラウンド等を代替施設として活用する。 ・コミュニティセンターを統合するとともに、図書館、郵便局、コンビニエンスストア、レストラン等、地域にとって必要な機能を統合整備する。
校区再編による利用者数の平準化	・児童生徒数の減少を踏まえ、小中学校を適正数に統合しても良い。 ・小学校間の距離が近い地域もあることから、小学校区を再編成する。 ・学校の児童数、生徒数が減少する中で、現在の学校規模を維持し続けることは、子ども同士の交流が減ることが懸念される。学校の統合などにより、子ども同士の交流を活発化したい。統合により通学が困難になる場合は、スクールバス等による通学方法も検討する。
不足施設の設置	・図書館がない地区には図書館を設置したい。（学校を統合した後の余剰地に整備等）なお、課題としては、蔵書確保のための予算措置の必要性などが考えられる。（図書館を整備するのではなく、コミュニティセンターなどに図書配達窓口を設置する等でも良い）

方策3 計画的な保全による施設の長寿命化

分類	意見
コミュニティ活性化	・コミュニティセンターは補修整備して、地区の中心として使用していく。
更新の考え方	・学校校舎は避難場所にも指定されているため、将来に亘って必要な学校校舎は計画的に保全することが必要である。 ・施設の状況（地域での配置、利用状況、建物構造、設備等）で、一定の基準を満たすものについて、長寿命化（施設内のバリアフリー化も含め）を実施することにより、長く大切に使う。 ・福祉センターは児童保育にも活用されているが、一部の施設で老朽化が顕著になっているので、小学校近くの施設から優先して更新することが必要である。 ・学校やコミュニティセンターなどは災害時の避難所も兼ねているので、地域住民が歩いて行くことができることを最優先とすべき。（子どもが歩いて通える距離でも、高齢者にとっては難しい場合もある） ・地区の防災という観点から、避難所に決まっている建物は優先的に建て替える。ポイントを絞った建替え計画を作成する。

方策4 施設整備面や施設運営面での民間ノウハウの活用

分類	意見
運営	・利用率の低い福祉センターに管理人を常駐させることは非効率であるため、ITを導入し、複数の福祉センターをリモート管理することにより、維持管理コストを削減する。 ・福祉センターの管理人が複数業務を行うことにより効率化を促進する。 (例：防災関連、道路管理、町内会の会計業務を受託)
民間施設併設、民間施設化	・コミュニティセンター内にカフェやショップなどの商業施設を誘致する。 ・児童保育センターの2階を学習塾に賃貸するなど、施設の一部を民間収益施設に賃貸することにより財政負担軽減を図る。(官民双方の相乗効果) ・空き教室を学習塾に賃貸する。
民間施設の公共施設利用	・マンションの1階をコミュニティセンターとして利用させてもらう。 ・福祉センターは町内会終了後に懇親会が開催されるため、居酒屋の2階を賃借するなどし、民間施設の一部を借り上げることにより財政負担軽減を図る。
民間化、民営化	・市立保育所の民間委託や売却が検討可能ではないか。 ・利用率が低い施設は、民間事業者運営に委託し利用者増加を図る。 ・施設の運営を民間事業者運営に委託し、サービスの向上やコストの削減を図る。 ・新総合体育館が開館される際は運営者のノウハウを活かして駐車場を利用しやすいようにする。現在は駐車場に入るまでの動線が良く分からず使いにくい。 ・帯広の森市民農園の民営化が可能ではないか。 ・墓地運営に関する民間委託が可能ではないか。 ・プラザ六中を宿泊施設やショッピングモールなどに転用する。(東地区は高齢者が多くなっており、地域の活力が低下している。若者が集まるような施設を設置し、活性化を図ることが必要)

方策5 市民が主体となった施設の管理運営の推進

分類	意見
住民自らが 行う公益活 動促進	・地域住民が見守る子どもの遊び場をコミュニティセンターや福祉センターなどに設置する。 ・コミュニティセンターや福祉センターなどの管理を地域住民で行う。地域住民同士の結びつきや世代間の交流を活性化。地域が仲良くなることで町内会活動なども活発になる。 ・児童保育センターに、地域の高齢者などからボランティアを募り幼稚園終了後の預かり保育に対応する。待機児童対策や地域コミュニティの活性化にも繋がる。 ・学校のプールやスケート場などの管理を地域住民がボランティアで手伝い、子ども達と一緒に地域住民も利用する。
市民による 地域管理	・福祉センターの管理を町内会など地域住民に委託することにより、維持管理に係る財政負担を軽減する。固定の委託費を事前に手渡し、当該予算内で工夫し、余剰が出た場合は町内会で使用できるなどのインセンティブも付与する。
コミュニテ ィ形成	・高校生が講師となって、お年寄りを対象にしたパソコン講座などを学校やプラザ六中などで開催し、お年寄りには若者に昔遊びや手芸などを教える。 ・保健福祉センターやプラザ6中などで、地域の小学生を対象とした映画上映会を開催する。現代版紙芝居という言い方ができる。

方策6 近隣町村との施設の共同利用の推進

分類	意見
共同利用	・プラザ六中や東地区にある福祉センターを距離が近い幕別町と共同で利用する。 ・帯広の森の各種スポーツ施設を周辺市町村と共同運営することが望ましい。 (十勝管内の町村民の利用もある)

方策7 その他の方策

分類	意見
利用促進	・福祉センターやコミュニティセンターの場所が分かりにくいので看板を設置する。 ・公共施設には洋式トイレを設置すべき。 ・利用促進策として、コミュニティセンターは保育園（幼稚園）、小学校、中学校からの利用を図る。特色を持たせて人が集まる場所にする。どの施設で何ができるかPRすべき。地域で利用可能な施設の見学会を実施する。
移動難民対策	・統廃合などにより施設が遠くなり不便になる住民の方には、施設の利用料金を安くするなどの対策をとる。 ・施設を集約化し、施設までの移動距離が伸びた場合、車を運転できない高齢者は利用が困難になる。今後、高齢者が増えていく中、高齢者も利用しやすいような対策（公共交通機関の整備等）も検討すべき。 ・帯広は運転免許を持っていない人が多いため、コミュニティバスを出す、コミュニティバスの料金を引き下げるなどして、利用利便性と移動利便性を高める。

IV. 市民ワークショップ参加者の意識

公共施設を取り巻く状況への関心や今後の公共施設のあり方等についてのワークショップ前後での意識変化、公共施設のあり方等を考えるうえでの市民参加の重要性及びその手法等について調査するため、参加者にアンケート調査を行った。主な結果は以下のとおりである。

(1) 公共施設を取り巻く状況への関心について

「大いに関心がある」と回答した割合が、ワークショップ実施後には、開始前と比べ約2割増加した。

(2) 今後の公共施設のあり方について

「役割・実態を検証し、市民ニーズや財政状況に見合うように縮減も検討」と回答した割合がワークショップ実施後には、開始前と比べ約1割増加する一方、「現状維持、順次建替え」と回答した割合が約1割減少した。

(3) 公共施設のあり方を考えるうえでの市民参加の重要性について

参加者全員が、「非常に重要である」もしくは「重要である」と回答した。

これらの結果は、ワークショップへの参加により、帯広市の公共施設の状況や課題等について理解が深まり、意識に変化が生じたことによるものと考えられる。

また、自由記載では、「改めて施設等について考える機会となり、よかった」、「知らない施設についてもくわしく知ることができ、勉強になった」、「ワークショップに参加して、公共施設等について、現状についての考え方が変わった」、「市民の意見を反映できる良い機会だと思う」といった意見があった。

V. 参考資料

1. ワークショップにおける各グループの意見

議論した結果（1日目）

グループ名：グループ1

テーマ1①：公共施設に関する印象

1. グループのメンバーが使う公共施設とその場面（例）

高校生：帯広市図書館（自習）、とかちプラザ（自習）、帯広の森

大学生：とかちプラザ（講演会、イベント参加）、市役所（行政手続）

主婦層：とかちプラザ（習い事）、コミセン（行政手続）

会社経営者：コミセン（子供が卓球）、とかちプラザ（講演会、イベント参加）、スインピア

シニア層：帯広市図書館

テーマ1②：議論の対象とした施設類型とその必要性

（1）コミセン

【印象】

- ✓ 利用されていない時も管理人が常駐している等、高コストなイメージ。
- ✓ 福祉センターとの違いがよく分からない。
- ✓ 古くて汚い。
- ✓ 所在地、利用方法が不明（市外から来た畜大生）。
- ✓ 自習室が有料のため、同級生も利用していない（高校生）。

【必要性】

- ✓ 町内会の集合場所など、地域コミュニティを維持するために必要な施設。
- ✓ 市役所の代替機能もあり、高齢者等交通弱者にとって利便性が高い。
- ✓ 無料の施設もあり、子供も使いやすい。

（2）とかちプラザ

【印象】

- ✓ 駅・バスターミナルが近く、周囲に駐車場も多いなど、交通利便性が高い。
- ✓ 一方、とかちプラザ自体の駐車場は少ない。
- ✓ ホール、会議室、ギャラリー、音楽スタジオ、スポーツジムなど様々な機能がある。
- ✓ 音楽スタジオやスポーツジムの利用料金は安く、使い勝手が良い。
- ✓ 有料会議室が利用されていない時が多いように思える。
- ✓ 施設利用カードの登録など利用申込方法が煩雑。
- ✓ 自習できるスペースがあるが、試験前は混雑していて使えない（高校生）。

【必要性】

- ✓ 交通利便性がよいため、幅広い世代が利用可能であり、市民活動に必要な施設。
- ✓ 多機能であることに加え、有料施設も廉価であり、学生にとっては必要な施設。

(3) 帯広市図書館

【印象】

- ✓ 様々な年代の人が利用している。
- ✓ 広くてきれいで使いやすい。
- ✓ 静かに勉強できるスペースがある。一方、試験前は席が空いていない（高校生）。
- ✓ 無料で利用できるため、色んな人が集まりやすい（一方、冬場は暖を取りに来て
いる人がいる）。
- ✓ 意外に本が少ない。読みたい本を探しに行ってもないことが多い。
- ✓ 大学の図書館を利用するため、行ったことがない（畜大生）。

【必要性】

- ✓ 子供にとって良書と巡り会う機会であり、必要。
- ✓ 幅広い世代が無料で利用できる教育・文化施設として必要。
- ✓ 貴重な文献の保存の場としての機能。
- ✓ 大学図書館は専門書が多いが、無料で一般書が読める場も必要。

テーマ2:施設類型の課題と解決策について

(1) コミセン

【課題】

- ✓ 維持管理コストが高い。
- ✓ 老朽化しており、入りにくい。
- ✓ 機能面において、他施設との重複感がある。
- ✓ 全般的に施設利用度・認知度が低い。

【解決策】

- ✓ 修繕や清掃等を地域住民が負担し、財政負担を軽減。
- ✓ オフィスやコンビニを入れて収益部分を増やし、財政負担を軽減。
- ✓ 福祉センター、学校施設との機能統合。
- ✓ 利用促進策として、自習室の無料開放等。

(2) とかちプラザ

【課題】

- ✓ 有料会議室など一部施設の利用度が低い。
- ✓ 利用申込み等の使い勝手の悪さ。

【解決策】

- ✓ 有料施設の利用者がいない時間帯は、無料開放するなど無料スペースを拡大し、
利用促進を図る。
- ✓ 利用申込方法や営業時間などの利用ルールを見直し、利便性を向上させる。

(3) 帯広市図書館

【課題】

- ✓ 規模の割に蔵書が少ない。
- ✓ 貸し出し方法が分かりにくい、検索 PC の数が少ないなど使い勝手が悪い。

【解決策】

- ✓ 大学図書館や周辺市町村の図書館とシステム連携、蔵書の融通を行い、蔵書の質・量を強化。
- ✓ サービス向上を図り、TSUTAYA に委託するなど指定管理者制度による運営に変更。

グループ名：グループ2

テーマ1①：公共施設に関する印象

1. グループのメンバーが使う公共施設とその場面（例）

学生	図書館、総合体育館・帯広の森体育館（部活）、市民文化ホール（演奏会）、コミュニティセンター（自習・選挙）、百年記念館・サラダ館（授業）、動物園・競馬場（レジャー）
主婦層	市役所（行政手続）、小学校（選挙）
シニア層	福祉センター（ボランティア活動）、とかちプラザ（友人との憩い）、文化ホール（芸術鑑賞）

2. 公共施設について

①良いところ

- － 仲間と集まる時に集まり易い（煩わしさが無い）
- － 時間を気にすることなく利用できる
- － 会場費が安い
- － 図書館やコミュニティセンターは自習用途でも使うことができる
- － 市役所 11 階の食堂は安いうえに居心地も良い
- － 森の交流館・十勝はとても静かで落ち着く施設
- － 行って楽しい公共施設であれば利用する

②改善されると良い点

- － どのようなとき、かつどのように公共施設を利用すると良いのかわからない
- － 例えば、福祉センターや農業センターがどのような公共施設かを知らない
- － そもそも公共施設がどこにあるのか等、存在を知らない
- － もっとイベントがあれば施設の認知度もあがるのでは
- － 交通アクセスが良い公共施設は使い易い
- － 高校生の場合、自転車（とバス）が交通手段なので、あまり遠くの施設には行けない
- － 駐車場台数が少ないと行きにくい

③公共施設の必要性を感じない方も

- － 今の自分は行く理由がない（例：福祉施設）
- － 行政手続の時など、必要最低限の公共施設しか利用しない

テーマ１②：議論の対象とした施設類型とその必要性

「図書館」 若者からシニア層まで多くの市民が集い、知名度も高い公共施設のため

テーマ２：施設類型の課題と解決策について

1. 帯広市図書館の良いところ

①ハードが充実している

- － 施設がきれい
- － 蔵書数が多い、特に子供向けや学生向けの蔵書が充実している
- － 静かで落ち着ける
- － 子供向け・自習スペースなど区分されている
- － カフェがある（書籍の貸出返却閲覧以外の目的でも利用可）

②場所が良い、使い勝手が良い

- － 無料で利用することができる
- － 人の出入りが多い公共施設なので入り易い
- － 駅近でアクセス良好、時間つぶしや待ち合わせにちょうど良い

③ソフトが充実している

- － おはなし会（読み聞かせイベント）が開催されている

2. 改善されると良い点

①施設特性が市民にとっての使いにくさに繋がることも…

- － 本の好きな人だけが利用する印象がある（施設に入りにくい）
- － 施設が広いので資料を探すのが大変
- － 図書館内が静かなので、少し会話するだけで周囲から睨まれることもある
- － 高齢者向けの大活字本が少ない
- － 貸出等の諸手続きが面倒

②駅近立地

- － 車を出してまで行こうと思わない（駐車場に入りにくい、駐車時間の制限）

3. そもそも図書館を利用しない方も

- － 必要な情報はインターネットや携帯電話から調べられる
- － 欲しい書籍は書籍小売店やインターネットで購入すれば足りる

4. 改善の方向性

帯広市図書館は素晴らしい公共施設だが、もっと多くの人にご利用頂ける公共施設にできるはず

①図書館に魅力を感じない人たちのために

(1)施設の魅力をアピールする

例) 楽しそうなポスター・チラシの作成掲示、新聞折込での配布

例) インターネットで書籍検索・予約ができることをアピール

(2)図書館ならではの情報創造を行う

例) 面白い本のあらすじを楽しく面白くPRする

例) ○○な人（年齢別だけでなくシーン別）にはこんな本がおすすめ！

→ネット情報とは異なる形で本の魅力をアピールする

②図書館の来館者により快適にご利用頂くために

例) シニア層の利用を念頭に大活字本を増やす

例) 貸出手续を簡略化する、銀行のようにご案内係を配置する

例) 静かにする場所と会話して構わない場所の区分を明確化する

③イベントの開催

例) どの年代でも楽しめるような本に関するイベントを企画・開催する

グループ名：グループ3

テーマ1①：公共施設に関する印象

1. グループのメンバーが使う公共施設（用途）

主婦(1名)：図書館

学生(4名)：コミュニティセンター（部活動・研修）、図書館（勉強）

就労層(1名)：図書館、市役所

シニア層(1名)：図書館、帯広の森（パークゴルフ）

2. 印象

良いところ

〈図書館〉

- ・図書館は新しく綺麗。子ども向けの本やイベントも充実している。
- ・図書館は、目的がなくとも暇な時間に立ち寄ることができ、憩いの施設となっている。
- ・職員の対応が丁寧（オススメの本を教えてくれる）
- ・本を読むスペースと学習スペースが分離されており、落ち着いて勉強できる。

〈コミュニティセンター〉

- ・利用者が少ないからか、予約が取りやすい
- ・多目的で利用することが可能（研修・部活動・会議）
- ・遅くまで開館しているため、仕事後でも利用しやすい

改善点

- ・コミセンは利用方法や予約方法が分からない。PR することが必要
- ・自家用車を持っていないと利用できない施設もある（図書館など）
- ・自家用車を所持していても、冬は車を運転して離れた施設に行くのが大変。
例えば市役所の窓口機能や図書館の貸出窓口を、市内各地のコミセンに設置してくれると利便性が向上する

不要論

- ・コミセン、福祉センター、農業センターの違いが分からない（同用途で使用されているのであれば、統合できるのでは？）
- ・日頃利用しない施設が多く、施設数は縮減できるという印象
- ・利用者が少ない公共施設を維持することで、若者たちの負担が増えるのであれば、廃止も検討するべき

テーマ1②:議論の対象とした施設類型とその必要性
「コミュニティセンター」 他用途で利用することができるというメリットがあるものの、利用方法等は周知されておらず、利用者も少ないことから、あり方を再検討する必要があると認識したため
テーマ2:施設類型の課題と解決策について
課題① 存在が周知されていない ・ コミセンで何ができるのか分からない（存在自体を知らなかった） ・ 予約方法や利用料金が不明 ・ イベントが周知されていない ・ 住宅地の中にあり、場所が分かりづらい 〈解決策〉 ・ 若者から高齢者まで楽しめる魅力あるイベントの企画 ・ 広報の実施（市広報誌、SNS、ホームページ、ローカル誌「しゅん」「Chai」を活用し、イベントのPR） ・ 学校にポスターを掲示し、若年層へイベントなどを周知 課題② 利便性が悪い ・ 閉館時間の 22 時よりも前にバスがなくなるため、閉館時間まで使用できない ・ 住宅地にあるため、車利用者が徒歩圏内に暮らす人でなければ利用できない ・ 会議等の用途で 22 時以降も使用したい場合がある 〈解決策〉 ・ 地域を循環するコミュニティバスを 1 日数本運行し、利用者の交通手段を確保する ・ 曜日毎に閉館時間に違いを設ける（例・月曜日：20 時まで、木曜日：24 時まで） ・ 22 時以降に利用する場合、夜間割増料金を徴収する 課題③ 環境の悪さ ・ 周辺に街灯が少なく暗い印象 ・ 若い人が入りづらい雰囲気がある 〈解決策〉 ・ 街灯や看板を設置するなどして行きやすい雰囲気作りが必要 課題④ 利用者の固定化 ・ 若者の利用者が少ない ・ 特定の団体がサークル活動で利用している印象

〈解決策〉

- 定期的に若者が興味を持てるイベントを企画する
- 利用料金を引き下げ、若い人でも気軽に利用できるようにする
- 例えばコンビニを併設して、様々な年齢層が訪れるきっかけづくりを行う
- 利用者の固定化が解消されないならば、利用料金を引き上げることも検討する

課題⑤ 老朽化

- 施設、設備（例：暖房）、備品（例：貸本）などの故障・損傷が見られる

〈解決策〉

- 建替や改築ではコストがかかるので、内装リフォーム（壁紙の張替えなど）を行い、施設を明るい雰囲気にする
- 利用者が少ない施設は近隣施設との統廃合を進めてもよい
- 古さを活かして「古民家」的な利用も行い、違う年齢層の利用者を取り込む

課題⑥ 運営意識の欠如

- 施設毎の運営コストが市民の目に留まりづらく、運営サイドが黒字化を意識した運営をしていないように見える
- 運営サイドが、利用者を増やすなど、収入を向上させる努力をしていない

〈解決策〉

- 魅力ある施設を併設し、利用者を増やす（課題④で挙げたコンビニの併設など）

グループ名：グループ4

テーマ1①：公共施設に関する印象

○良くわからない

- ・ 個別の施設について、その必要性、課題等は分かるが、公共施設全般について考えると、何を議論すべきか分からない。

○意義／目的があいまいなものがある。

- ・ 類似の施設がたくさんある。
- ・ 直してほしいところがあっても、どこに言えば良いのかわからない。

○金がかかりすぎ

- ・ 市が今後公共施設をどうしていきたいのかが見えてこない。
- ・ 負担と給付の関係が不透明。

テーマ1②：議論の対象とした施設類型とその必要性

<とまちプラザ>

○高い利用率

- ・ 予約が取りづらい／いつも駐車場が満杯
→価値のある施設である証左。十勝地域の施設という性格も反映している。
- ・ 色々なイベント／機能（ホール、体育館、図書館、カフェ等）

○交流の場

- ・ 友人等と時間を過ごす場
- ・ イベント等に参加すると出会いがある

<コミュニティセンター>

○地域交流の場

- ・ 地域における様々な活動に利用されることにより、地域交流が実現（しようと）している。

テーマ2：施設類型の課題と解決策について

<とまちプラザ>

○課題

- ・ 駐車場スペース／時間
→地域の交通事情にそぐわない
- ・ そもそもの目的が不明
→色々な設備／機能が集積していることは評価するが、本来の目的は何？
目的に従った施設整備がなされているのか疑問
- ・ 施設内容が十分ではない
→色々な利用をしているが、施設／設備面で不満な点が多々ある
- ・ しっかりとした経営をしているか

- ・IT の活用が不十分

→若者世代への広報が足りていないのは、IT の活用が出来ていないからではないか

→予約受付方法がIT 化されていないのは、無駄な経費につながっていないか

○解決策

- ・図書館と休館日をずらすなど、ほかの類似施設との開館日、利用時間等を調整する
- ・近隣施設の駐車場との利用契約を結ぶ（開館前から使うことが出来るようにするなど、使い方に合わせた利用時間等の柔軟性が必要）
- ・南側スペースなどを一部駐車場に転用する
- ・公共バス（送迎バス）を出す
- ・利用者ニーズに合わせて、狭い部屋を統合するなど使い勝手が良くなるような改装をおこなう
- ・空き部屋等の活用により、控室等の需要に対応する
- ・学習スペースを増やす
- ・ネット（SNS）と電話で予約できるようにする
（できればほかの類似施設も同時にシステム構築する）
- ・学生バイトを使って経費を節減する
- ・イベントの使用料について、利用者に応じた価格設定とし、企業利用については値上げする

<コミュニティセンター>

○課題

- ・何をする場所か分からない
- ・使う人が偏っている
- ・利用の仕方が分からない
- ・管理の仕方

→結局のところ、本来の目的に従った利用がなされていないことが、一番の課題ではないか。

○解決策

大きな目標「多世代交流が可能な施設とする」＝本来の目的

目標達成のための具体策（＝地域において多世代交流が可能な施設となるために必要なこと）

▽場所・施設数

- ・建設事業者等による寄付によるものもあり、必要性に基づいて設置されていないことから、数を絞った上で、地域の使い勝手の良い場所に設置する。
→小学校に併設。小学校の空き教室の活用も出来るのでは？

▽多世代が参加しやすいようにする

- 大学生をターゲットにしたイベント等を企画する
→畜大の野菜直売所として利用する
- 若者の地域向けイベントの実施
→高齢者等にも興味を持ってもらえるような演目の演奏会
- 小学校などとともに、地域のイベント会場として利用する。
→上記直売野菜を使った料理教室を小学校で開催→コミュニティセンターで食事会

▽維持管理

- 大事に使って、維持費をかけない。
- 寄付等も含め、地域がお金を出し合う。

グループ名：グループ5

テーマ1①：公共施設に関する印象

- ・古い
- ・何ができるかわからない
- ・利用の仕方がわからない
- ・設備が中途半端
- ・ネーミングが大事なのでは（施設の）

テーマ1②：議論の対象とした施設類型とその必要性

- ・コミセンを議論の対象とする。
- ・改善の余地が多く残されており、町内会活動の拠点ともなる身近な施設だから

テーマ2：施設類型の課題と解決策について

1 コミセンの理想と現実

(1) 理想

- ・多くの住民が利用できる施設
- ・住民同士のふれあいの機会の増加
- ・災害時の避難場所

⇒地域の活性化につながるもの

(2) 現実

- ・何ができる施設かわからない

⇒ふれあいの場になっていない？

2 課題

- ・古い
- ・ネーミングが分かりづらい
- ・周知不足
- ・建築年次が異なることによる設備の差
- ・機能が中途半端

3 理想の実現のために現実を踏まえた課題の解決策

- ・コミセンごとの機能の特化（子育て・高齢者）
- ・コミセンからサークルを作って人が集まりやすく
- ・コミセン見学会の実施

⇒コミセンに人が集まって交流の場の創出

⇒町内会機能の再生の場

解決の具体的な手法は？

グループ名：グループ6

テーマ1①：公共施設に関する印象

1. グループのメンバーが使う公共施設

図書館・・・幅広い年代層で利用されている
とかちプラザ・・・若年層がスポーツジムとして利用
コミュニティセンター・・・大学のサークル活動、高齢者の集まり
総合体育館・帯広の森体育館・・・高校の部活動、社会人のサークル活動

2. 公共施設について

- ・利用者が少ない割に職員が多すぎる
- ・特定の団体やサークルが使っており、気軽に利用できる雰囲気ではない
- ・交通の便が悪い
- ・駐車場が狭い
- ・夜間などは施設周辺が暗く安心して利用できない
- ・どのような施設があるのか分からない
- ・どのような目的で使っているのか分からない
- ・利用者は少ないイメージがあるが、自分たちが使いたい時間帯はいつも混んでいる
- ・時代が変わってきているのに、施設は設置された時と変わらずに運営されている
- ・人口が増え、景気も良かった時代に設置された施設が今も変わらずにある
- ・施設が老朽化しているイメージはそれほどない
- ・使い勝手自体はいいものが多い

テーマ1②：議論の対象とした施設類型とその必要性

「コミュニティセンター」

増加する高齢者や、女性の活躍に伴う子どもの居場所として、コミュニティセンターの果たすべき役割は多い

テーマ2：施設類型の課題と解決策について

1. コミュニティセンターの課題

①ハード面

- － 会議等を開くことができる類似施設があるためコミセンを利用する必要がない
- － 人口が減っているのに施設数は減っていない

②ソフト面

- － 職員の接遇が悪く、コスト意識も低い
- － 特定のグループや団体が使っており、地域の住民が使いにくいイメージ
- － 施設の稼働率は低いのに、利用したい時間帯が偏っており、使いにくい
- － 施設の予約状況が分かりづらく、いつ空いているのか分からない

- － どのような用途で使えるのか分からない
- － 「コミュニティセンター」の名称から具体的な用途をイメージしづらい
- － 交通の便が悪く、周辺の防犯灯も少ないため安心して利用できない
- － 若い世代の利用が少ない
- － 葬式などの利用はなくなっており、市民のニーズは変わっている

2. 解決策

① マネジメント方策

- － 施設の民営化または一部スペースを民間事業者に貸し出し、地域住民向け・若者向けのイベント等を開催する
- － 人口の減少に合わせて不要な施設は廃止し、売却することで、他の施設の運営経費を捻出する
- － 学校施設や民間施設の空きスペースなどを活用し、コミュニティ空間を確保する
- － 施設の設置目的や施設名称自体を変える

② 利活用促進策

- － コミセンの体育館について、予約をしていない個人が自由に利用できる時間帯を設け、地域住民の交流を促す
- － 高齢者は午前中、子ども達は放課後、社会人は夜間に使うようにする
- － 施設利用のしおりやリーフレット等を充実させ、施設の使い道や公共交通によるアクセス等も掲載する
- － 施設見学会などを実施し、職員が施設の使い方をレクチャーする
- － 広報紙で施設の用途等をPRする
- － 施設の収支を意識して、地域住民が集うイベントや若い世代向けの講習会や教室等を企画する
- － 施設の設置目的を変え、子ども達の宿泊研修等でも使えるようにする
- － 利用料金を下げる

議論した結果（２日目）

グループ名：グループ1

○議論の前提 対象地域：東・鉄南地区 対象施設：中央福祉センター （S62 築、利用率 17.7%、併設児童保育センター入所率 34.9%） 課題・問題意識： - 福祉センター、児童保育センター共に利用率が低い。 - 児童保育センターは明星・花園・帯広の3小学校の学童を対象にしていると思われるが、利用率を鑑みるに当該立地におけるニーズが低い可能性がある。 解決方策検討の目的： - 福祉センターは地域コミュニティの維持のため、児童保育センターは留守家庭児童の健全な保育のため、何れも必要不可欠な施設であり、真に必要な「機能」を維持していくための方策を、財政負担の軽減、利用率向上の観点から検討する。
○生活圏における公共施設マネジメント導入手法の検討 ＜方策1＞施設の複合化・多機能化等による施設の総量抑制 - とちプラザ内に託児所を設けるなど既存施設の子育て支援機能を強化。 - 民間施設の一部を借り上げ、又は施設の一部を民間収益施設に賃貸することにより財政軽減を図る。その際には、官民双方に相乗効果をもたらす施設を検討（例：児童保育センターの2階を学習塾に賃貸。福祉センターについては、町内会終了後に懇親会が開催されるため、居酒屋の2階を賃借など）。 ＜方策2＞類似施設の統廃合による施設数の適正化 - 福祉センター機能については、比較的近距離にある市民文化ホールやとちプラザなどの市民文化・社会教育系施設に移転統合。なお、施設まで遠くなる地域が出るデメリットについては、コミュニティバスやタクシーチケット補助等の対応を検討する必要がある。 - 児童保育センター機能については、余裕教室を持つ近隣小学校に移転統合。小学校は原則として児童が歩いて通学できることが前提とされているはずであり、小学校への移転について、距離の問題等は発生しないと考えられる。なお、小学校への機能統合については、セキュリティ対策やこれまで統合されなかった理由の確認等が必要。 ＜方策4＞施設整備面や施設運営面での民間ノウハウの活用 - 利用率の低い福祉センターに管理人を常駐させることは非効率であるため、ITを導入し、複数の福祉センターをリモート管理することにより、維持管理コストを削減する。

- 福祉センターの管理人が複数業務を行うことにより効率化を促進する（例：防災関連、道路管理、町内会の会計業務を受託）。

＜方策５＞市民が主体となった施設の管理運営の推進

- 福祉センターの管理を町内会など地域住民に委託することにより、維持管理に係る財政負担を軽減。固定の委託費を事前に手渡し、当該予算内で工夫し、余剰が出た場合は町内会で利用できるなどのインセンティブも付与する。

グループ名：グループ2

○西帯広地域の印象 ＜西帯広地域の感想＞ ・ 公共施設の立地がまとまっている印象。 ・ 教育機能の立地が多い。 ・ コミュニティセンターに図書コーナーがあることから、市図書館は専門書等、コミュニティセンターは一般の小説等といった役割分担があっても良いのでは。 ・ 例えば、森の交流館では良質な講座が企画されているにも関わらず、市民に伝わっていない。公共施設に関する広報手法の改善が必要。 ・ 埋蔵文化財センターは市の独身寮を廃止した際に、百年記念館の倉庫としての活用が決まったとのこと。現状、殆ど活用されていない模様。
○生活圏における公共施設マネジメント導入手法の検討
＜方策1＞施設の複合化・多機能化等による施設の総量抑制 ・ コミュニティセンター、福祉センター、自治会館といった階層を取り払った上で、地域にある集会機能を集約・統合した施設を作ることが望ましい。
＜方策2＞類似施設の統廃合による施設数の適正化 ・ 児童生徒数の減少を踏まえ、小中学校を適正数に統合しても良い。 ・ 地域内に2施設あるコミュニティセンターを1施設に統合するとともに、図書館・郵便局コンビニエンスストア・レストラン等、地域にとって必要な機能を統合整備する。 ・ 児童保育センター（学童保育）の機能を小学校の余剰教室を活用して統合することが有効。 ・ 利用率が極めて低く、当該地域に立地する意味合いも薄い「埋蔵文化財センター」は廃止。 ・ 同種施設に比べて利用率が低い「西福祉センター」は、他の施設に機能統合すべき。
＜方策3＞計画的な保全による施設の長寿命化 ・ 学校校舎は避難場所にも指定されているため、将来に亘って必要な学校校舎は計画的に保全することが必要。
＜方策4＞施設整備面や施設運営面での民間ノウハウの活用 ・ 市営保育所の民間委託や売却が検討可能ではないか。 ・ サラダ館の民営化が可能ではないか。 ・ 墓地運営に関する民間委託が可能ではないか。
＜方策5＞市民が主体となった施設の管理運営の推進 ・ 西10～14号会館は廃止すべき。他の地域では公共施設として保有運営されているのではなく、町内会等の施設であり、均衡を欠く。 (地域譲渡または施設解体＋跡地売却が望ましい)

＜方策6＞近隣町村との施設の共同利用の推進

- ・帯広の森の各種スポーツ施設を周辺市町村と共同運営することが望ましい。
（十勝管内の町村民の利用もある）

＜その他の方策＞

- ・公共施設全般に知名度が低い
- ・公共施設全般に交通の便が悪い

＊方策 1～6 に取り組む目的は、必要度が低い公共施設に係る財政負担を削減することにより、真に必要な公共施設・公共サービスを守るとともに、公共サービスの質の向上を図るためである。

グループ名：グループ3

○西帯広地域の印象

＜西帯広地域の感想＞

- ・住宅地の印象
- ・帯広の森から運転免許試験場までが西帯広地域に含まれており、範囲が広範
- ・帯広の森のスポーツ施設は利用する（プロ野球の2軍の試合観戦等）
- ・公共施設は使わないが、開西病院や家電量販店に行く
- ・アルバイト先が中島霊園の近くだが、夜間自転車で帰宅する際、街灯が少なく暗い印象
- ・森の里コミュニティセンターや南商業高校、児童保育センターなどは学校の課外活動等で頻繁に利用する。

○生活圏における公共施設マネジメント導入手法の検討

＜方策1＞施設の複合化・多機能化等による施設の総量抑制

①新規大型複合施設の整備

- ・帯広の森周辺は、森や畑が広がっている印象なので、小中学校・コミュニティセンター・スポーツ施設・市役所の出張所（窓口）・ショッピングセンターなどを同一の区画に整備し、利便性を向上する（例：体育館は学校活動・市民利用双方を可能にする等）

…①の課題

現在周辺に住んでいる住民との協議や、単年度に整備する場合の予算制約等が考えられる。

②施設の一般開放

- ・学校図書館・体育館・調理室を一般開放する
- ・夜間の中学校を市民開放して、市民向け講座を開設する

③空き教室の活用

- ・埋蔵文化財センターは近隣小学校の余剰教室へ移設
- ・森の里小学校や開西小学校の余剰教室を、児童保育センターとして活用
- ・西小学校の余剰教室を活用し、松葉保育所の複合化
- ・西小学校の余剰教室を活用し、西児童保育センターの複合化
- ・開西小学校の余剰教室を活用し、コミセン機能の複合化

…②③の課題

市民利用時間・小中学生利用時間等を考慮する必要有り

警備体制をどう構築するか（警備員の配置が必要になる）

受付職員を常時配置する必要有り

④図書館の設置 ・西帯広地区には図書館がないので、図書館を設置したい (開西小学校を森の里小学校に統合した後の余剰地に整備 等) …④の課題 蔵書確保する予算が必要 図書館を整備するのではなく、コミセンなどに図書配達窓口を設置する等でも良いのでは
＜方策2＞類似施設の統廃合による施設数の適正化 ①西福祉センターの統廃合 ・西福祉センターは利用率が低いため廃止し、近接する西帯広コミュニティセンターに集約化 …①の課題 取壊し予算をどう工面するか 現在利用者の理解をどのように得るか ②学校の統合 ・学校の児童数・生徒数が減少する中で、現在の学校規模を維持し続けることは、子ども同士の交流が減ることが懸念される。開西小と森の里小の統合・第二中と緑園中の統合等により、子ども同士の交流を活発化したい ・統合により通学が困難になる場合は、スクールバス等による通学方法も検討 …②に対しては、学校はこのまま残すべきとの意見もあり（通学距離が延びてしまうため） ③伏古別公園野球場の廃止 ・伏古別公園野球場は利用者数が少ない。学校のグラウンド等を代替施設として活用できるため、廃止する ・帯広の森の近くに、「後楽園球場」という球場がある（民間所有？）。利用料金も安いので、代替施設として利用可能 ④西 10 号会館・西 13 号会館の廃止 ・築 40 年を超えていることから廃止し、周辺のコミセンなどを代替利用する
＜方策3＞計画的な保全による施設の長寿命化

＜方策４＞施設整備面や施設運営面での民間ノウハウの活用 ・帯広の森運動施設の運営を、財団ではなく民間事業者（JOY FIT など）に委託し、サービスの向上やコストの縮減を図る ・児童保育センターの入所率が低いため、民間事業者に運営を委託し、利用者の増加に繋げる
＜方策５＞市民が主体となった施設の管理運営の推進 ・開西児童保育センターと森の里児童保育センターに、地域の高齢者などからボランティアを募り、幼稚園終了後の預かり保育に対応する （待機児童対策や、地域コミュニティの活性化にも繋がる）
＜方策６＞近隣町村との施設の共同利用の推進
＜その他の方策＞ ＊今後、西帯広地区には高齢者が増えていくことが想定される。上記方策により、若い人に住んでもらえるような魅力あるまちづくりを行うべき。 ＊施設を集約化し、施設までの移動距離が伸びた場合、車を運転できない高齢者は利用が困難になる。今後、高齢者が増えていく中、高齢者も利用しやすいような対策（公共交通機関の整備等）も検討するべき。

グループ名：グループ4

○地区の状況と地区全体の方向性手法の検討

1. 地区の状況

- ・川北地区は十勝川と帯広川、工場（西側）に囲まれた地域で、地区内は東西に国道 38 号と川が流れていて、南北の移動が難しい地区である。特に国道 38 号は車の通行量が多く、国道を渡るのが大変である。
- ・市内中心部から来るバスも、川北地区の北には十勝川があり、集積も少ないことから、川北地区より先には路線を引きづらいため、バス路線が順次減少している。
- ・地区内は、東から、北栄地区、啓北地区、栄地区の 3 地区に分かれる。小学校は各地区に 1 つずつある。
- ・北栄地区は古くからの住宅地で昔は地区の中心だった。現在は高齢化している。そのため、ここにある施設は皆古い施設であり、そのまま順次建て替えると、将来は利用者がいないという事態に陥る。

☆他の 2 地区は新興住宅地で新しい人が増えている。（データではなく感触）

☆現在 3 地区とも同程度の人口があるが、将来は北栄地区の人口が減少し、栄地区の人口が増えるだろう。

- ・栄地区に各種施設を配置するのが合理的であるが、西側が工場であり、集客エリアは東側しか見込めず、合理的な配置ではない。

2. 地区全体の方向性

- ①啓北地区にあるコミュニティセンターは規模が大きいが老朽化しているため、この施設を川北地区の中心施設として改築整備し、各地区の福祉センターを、人口構成の変化や老朽化度により、順次統合、廃止していく。現時点では北栄地区の福祉センターに余剰感があり、統廃合する。
- ②統合などにより不便になる住民向けには、施設からの遠さに応じて利用料を変えて不便さを解消する、コミュニティバスを走らせ、車を運転しない人に、料金面で優遇する。

○生活圏における公共施設マネジメント導入手法の検討

＜方策 1＞施設の複合化・多機能化等による施設の総量抑制

- ・近隣にある北栄小学校（S53）、北栄福祉センター（S54）、北栄学童（北栄福祉センター併設）は、距離も近く、老朽化しているため、統合、併設化する。
- ・北親福祉センター（北栄地区）は新しいが使用率が低いため（H8、使用率 26%）、近くのひばり保育所（啓北地区）（S50）を統合（併設、増設）する。
- ・北福祉センターは利用度が低く近隣に福祉センターもあるため、廃止する。
- ・小学校の空き教室を他の用途に使うなどして、複合施設化する。

- 警察署もかなり老朽化していること、立地場所が川に挟まれた場所で市中心部からの動線が大変不便（駐車場への動線が悪い）なため、総合体育館と警察署を敷地上統合して、敷地の有効利用を図る。例えば、警察署の駐車場を体育館でのイベント時は利用できるようにする
- 警察署がかなり老朽化しているため、体育館の建て替えにあわせ市が警察署を建設し、道に貸しわたし、運営面の有効利用を図る。無理でしょうけど。

＜方策２＞類似施設の統廃合による施設数の適正化

- 類似施設を一つにまとめる。
- 統廃合などにより施設が遠くなり不便になる住民の方には、施設の利用料金を安くするなどの対策をとる。
- 同じく、帯広は免許を持っていない人も多い。統合して不便になる人で、免許を持っていない人に、コミュニティバスを出す、免許を持っていない人用に料金を引き下げるなどして、利用利便性と移動利便性を高める。
- 北栄福祉センターと北福祉センターは他の福祉センターと比べ利用率が低く、統廃合を検討する。現在は若い人が多いため問題は出ていないため、高齢化、老朽化している地区を先に実施し、順次、時代の進展にあわせ手をつけて行く。
- 北栄地区で国道 38 号より南の小学生は、少し南の帯広小学校に通う方が便利だと思う。この地区内ではないが帯広小学校との統合もあり得る。その時は国道の渋滞が激しいため、国道よりも南に住んでいる子どもを対象にしないと危ない。
- 栄地区は、20～30 年後高齢化し建物も老朽化するため、統廃合や他施設との併設を前提に計画する。
- 北栄地区には福祉センターがたくさんあるため統廃合していく。
- 福祉センターは数が多いため、統廃合する。
- 福祉センターの利用率が低いため、利用者の多い地域にまとめる。
- 福祉センターの利用率が低いため、利用率を高める

＜方策３＞計画的な保全による施設の長寿命化

- 啓北コミュニティセンターは補修整備して、地区の中心として使用していく

＜方策４＞施設整備面や施設運営面での民間ノウハウの活用 ・新総合体育館が開館される際は運営者のノウハウを活かして駐車場を利用しやすいようにする。現在は駐車場に入るまでの動線が良く分からず使いにくい。
＜方策５＞市民が主体となった施設の管理運営の推進 なし
＜方策６＞近隣町村との施設の共同利用の推進 なし
＜その他の方策＞ ・地区の防災という観点から、避難所に決まっている建物は優先的に建て替える。ポイントを絞った建替え計画をつくる。

グループ名：グループ5

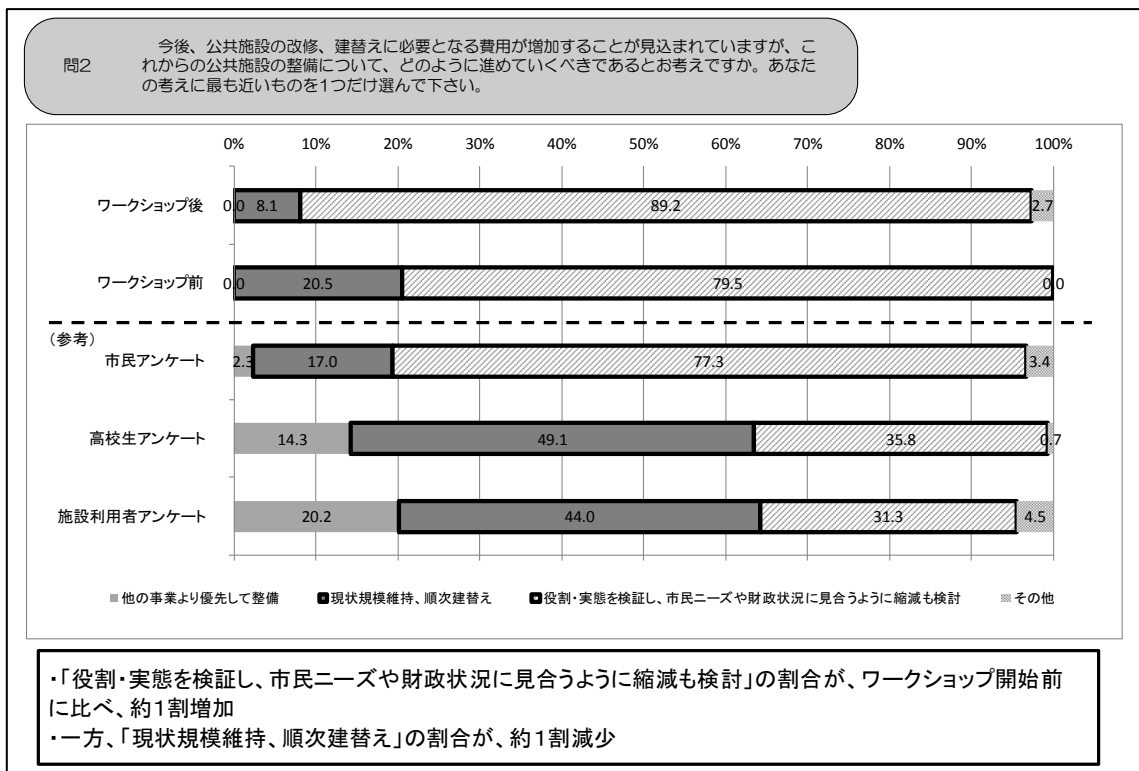
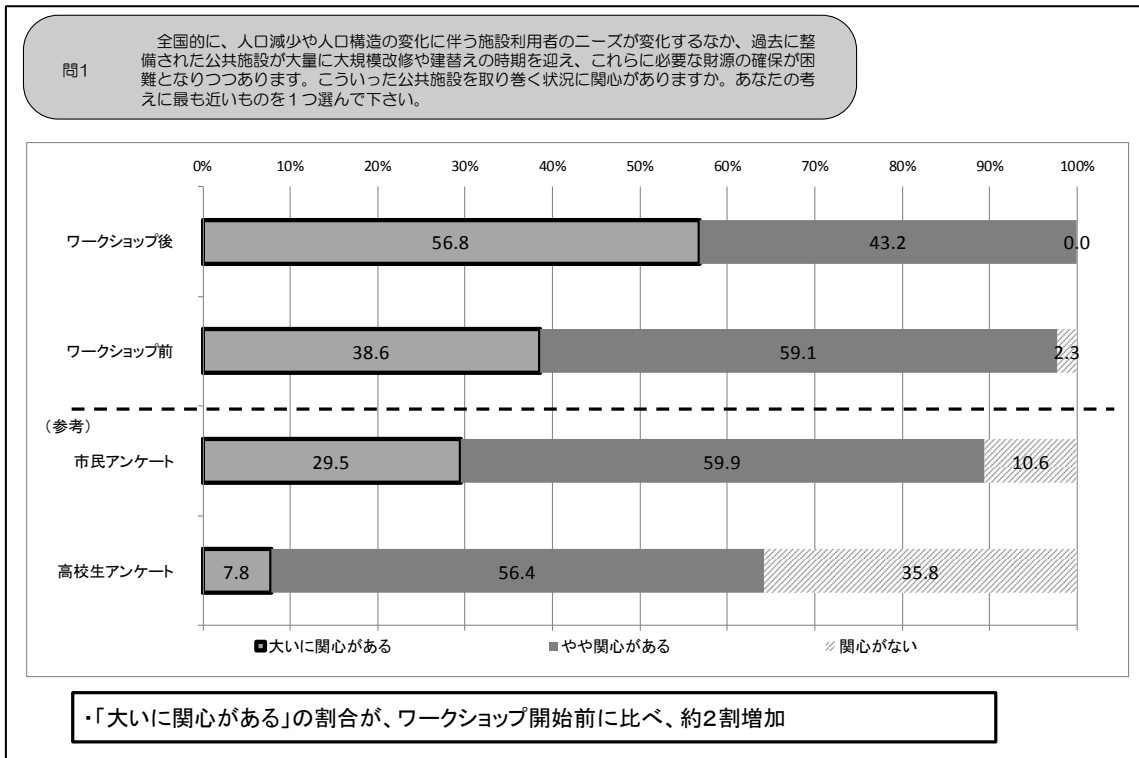
○生活圏における公共施設の必要性や課題
町内会機能（地域コミュニティ）の再生の場として、人が集まって交流の場を創出するためには、生活圏において、どのような方策が考えられるか。
○生活圏における公共施設マネジメント導入手法の検討
＜方策1＞施設の複合化・多機能化等による施設の総量抑制 ・ コミセン、福祉センターと小中学校を複合化することにより、子供や地域の人々との交流の場の創出となる。少子化の影響により、空き教室が増えるため、効率の良い利用、コストダウンにつながるものであるが、利用時間、警備の面で配慮が必要。 ・ 学校の多彩な建物機能を生かし、地域コミュニティの中心施設とすべき ・ 小中学校に図書館や科学館の機能を組み込み、地域の人々も行きやすくする。
＜方策2＞類似施設の統廃合による施設数の適正化 ・ 利用率が低く、古い施設は、似たような機能の施設が近くにある場合は、統合すべき。
＜方策3＞計画的な保全による施設の長寿命化 ・ 施設の状況（地域での配置、利用状況、建物構造、設備等）で、一定の基準を満たすものについて、長寿命化（施設内のバリアフリー化も含め）を実施することにより、長く大切に使う。
＜方策4＞施設整備面や施設運営面での民間ノウハウの活用 ・ コミセン内にカフェやショップなどの商業施設を誘致 ・ マンションの1階をコミセンとして利用させてもらう ・ 空き教室を塾の場に賃貸
＜方策5＞市民が主体となった施設の管理運営の推進
＜方策6＞近隣町村との施設の共同利用の推進
＜その他の方策＞ ※各施設の利用促進として… ・ コミセン：保育園（幼稚園）、小学校、中学校の利用を図る。特色を持たして人が集まる場所にする。どの施設で何ができるかPRすべき。地域で利用可能な施設の見学会を実施する。 ・ 学校：学校の敷地内に小さな図書館をつくる

グループ名：グループ6

○東・鉄南地区における公共施設マネジメント導入手法の検討
＜方策1＞施設の複合化・多機能化等による施設の総量抑制 ・光南小学校と柏小学校を統合し、地域の福祉センター機能を複合化する。 ・明星小学校と花園小学校を統合し、グリーンプラザ機能を複合化する。 ⇒<u>小学校やコミセン、福祉センターを併せ、各世代が共同で利用できる施設を設置する。</u>
＜方策2＞類似施設の統廃合による施設数の適正化 ・小学校間の距離が近い（明星小学校と花園小学校）ので合併し、校区を再編成する。 ・利用率の低いコミセンや福祉センターは廃止し、近所に施設がなくなった住民のためにシャトルバスを運行する。 ・学校やコミセンなどは災害時の避難所も兼ねているので、地域住民が歩いて行くことができることを最優先とするべき。 ⇒<u>子どもが歩いて通える距離でも、高齢者にとっては難しい場合もある。</u>
＜方策3＞計画的な保全による施設の長寿命化
＜方策4＞施設整備面や施設運営面での民間ノウハウの活用 ・プラザ六中を宿泊施設やショッピングモールなどに転用する。 ⇒<u>東地区は高齢者が多くなっており、地域の活力が低下している。若者が集まるような施設を設置し、活性化をはかることが必要。</u>
＜方策5＞市民が主体となった施設の管理運営の推進 ・学校のプールやスケート場などの管理を地域住民がボランティアで手伝い、子ども達と一緒に地域住民も利用する。 ・高校生が講師となって、お年寄りを対象にしたパソコン講座などを学校やプラザ六中などで開催し、お年寄りには若者に昔遊びや手芸などを教える。 ・地域住民が見守る子どもの遊び場をコミセンや福祉センターなどに設置する。 ・保健福祉センターやプラザ六中などで、地域の小学生を対象とした映画上映会を開催する。（現代版紙芝居） ・コミセンや福祉センターなどの管理を地域住民で行う。 ⇒<u>地域住民同士の結びつきや、世代間の交流を活性化。地域が仲良くなることで、町内会活動なども活発になる。</u>
＜方策6＞近隣町村との施設の共同利用の推進 ・プラザ六中やバート福祉センターを幕別町と共同で利用する。
＜その他の方策＞ ・福祉センターやコミセンの場所が分かりにくいので看板を設置する。 ・公共施設には洋式トイレを設置すべき。

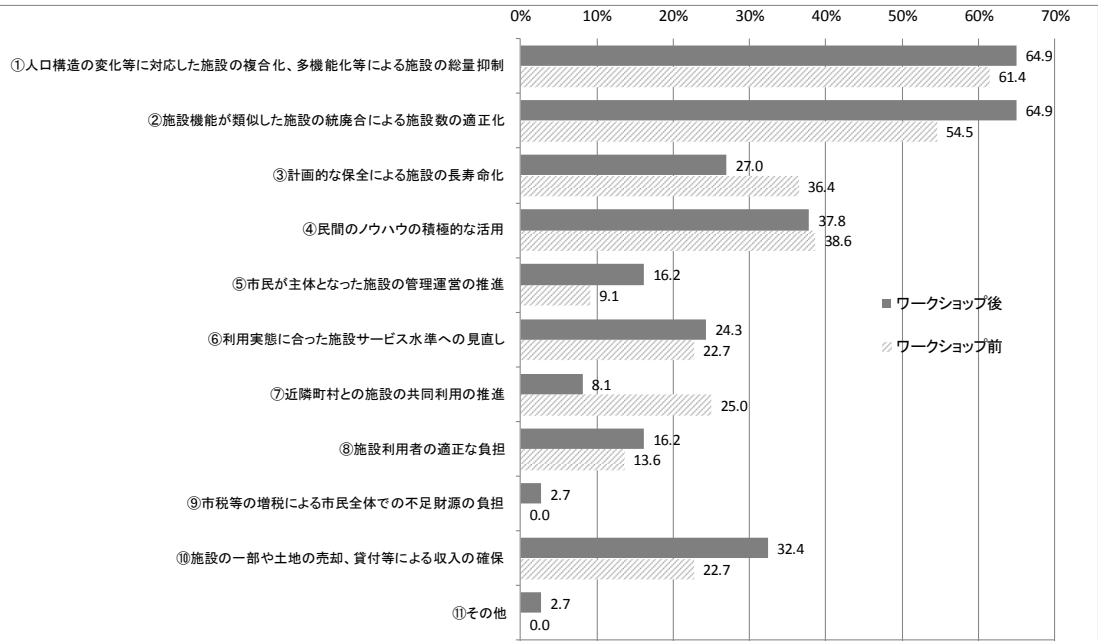
- 福祉センターは児童保育にも活用されているが、一部の施設で老朽化が顕著になっているので、小学校近くの施設から優先して更新することが必要。

2. 市民ワークショップアンケート結果



問3

今後、公共施設のあり方を考えていく上で、あなたは何を重視すべきであるとお考えですか。あなたの考えに近いものを最大3つまで選んで下さい。



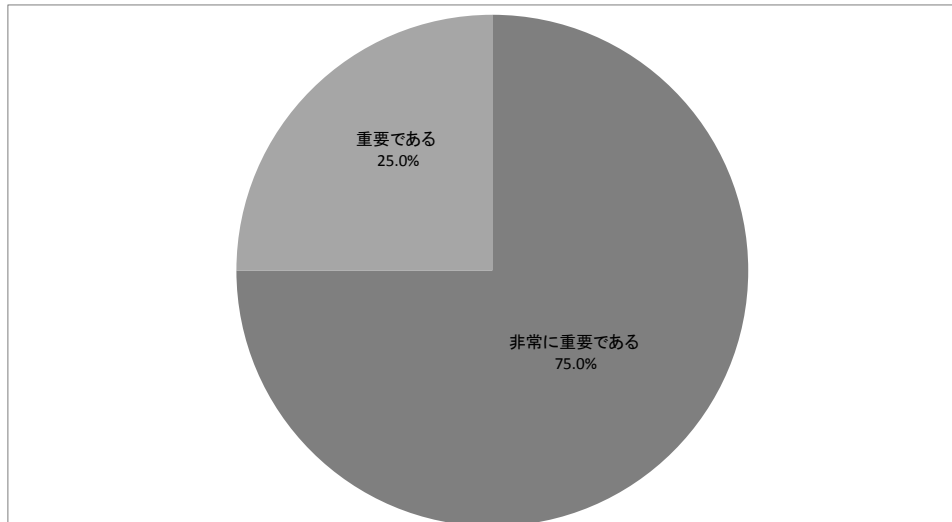
問4

今回ワークショップに参加した理由は

- ☐ 地域の未来に関心があったから
- ☐ 海外の公共施設、インフラのことを学ぶ機会があり、今、自分が住んでいる地域のことが気になったから
- ☐ 帯広市について少しでも知ろうと思ったから
- ☐ 公務員に就職しようと考えているため、市役所の業務に興味があったから
- ☐ 違う年代の人の意見を聞いたり、普段はあまり考えることのない施設について話し合うため
- ☐ 自分の仕事にも関係する内容だったから
- ☐ 公共施設の運営、維持の仕方に関心があったから
- ☐ 現在における帯広市の現状について、福祉施設など様々なことに関して気になりはじめ、未来を担う存在として、現状の問題点についての解決策を考えていきたいと思ったから
- ☐ 大好きな帯広市に貢献したいと思ったから
- ☐ 帯広市の財政についての確認
- ☐ 帯広に引っ越してきたばかりだったので、帯広の公共施設等について知っていきたくと思ったから
- ☐ 帯広市の抱える課題の一つである施設のあり方検討について、他の人との意見交換によって、課題と方向性を見つけることができると思ったため
- ☐ 体験してみたかったから
- ☐ 自分の住む地域のことを何も知らなかったので、少しでも知りたかったのと、自分自身が、自分の住む地域についてもっと考えるきっかけになればいいなと思ったから
- ☐ 今後、大学院で地域政策を学ぶ上で、良い機会であると思ったから
- ☐ 市民として意見が言える良い機会だと思ったから
- ☐ 公共施設について、今後老朽化した建物をどういうふうにもっていくか、市の意志と参加者の意見を聞きたかったのと、そういう建物に使用する建替えか改修するお金をどうするか、考えを聞きたかったから
- ☐ 社会勉強になると思ったから
- ☐ 自分の住む街を見直す良い機会だと思ったため

問7

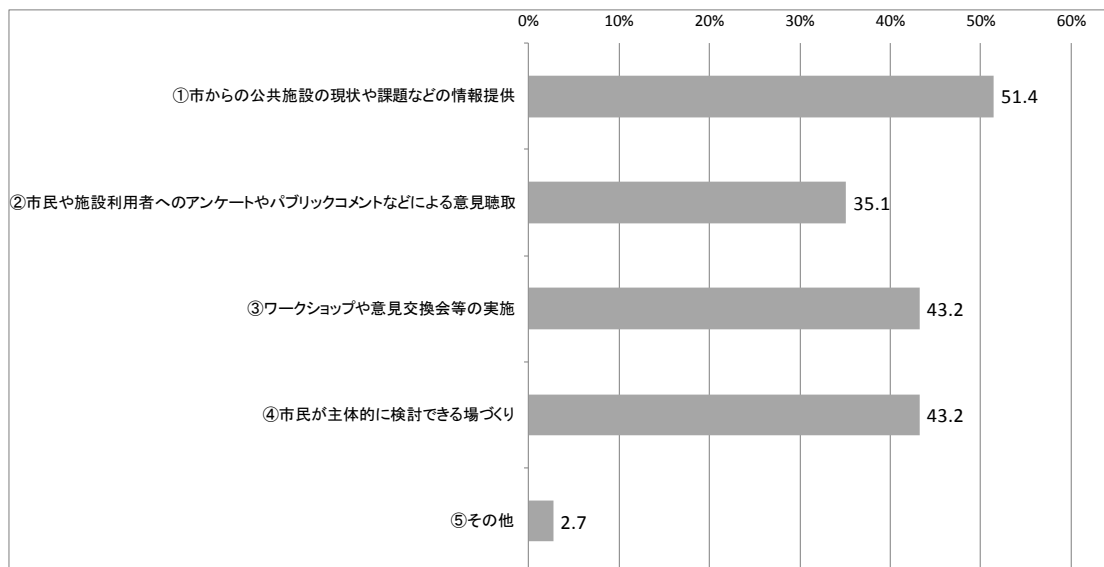
公共施設のあり方を考えるうえで、市民も積極的に関わっていくことが重要であるとお考えですか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んで下さい。



・参加者全員が、「非常に重要である」もしくは「重要であると回答」

問8

そのためには、何が必要であるとお考えですか。あなたの考えに近いものを最大2つまで選んで下さい。



- 自ら考える市民が必要であると思う
- 積極的に市民が関わる場づくりは、今後も重要であると思う
- 今回参加して、改めて施設等について考える機会となり、よかった
- 前まで統廃合が一番良いと思っていたけれど、自分におきかえると不便になるし、違う方法をもっと考えるべきだと思った
- 非常に勉強になった
- 知らない施設についてもうまく知ることができ、勉強にもなった
- 今回ワークショップに参加して、ためになる体験ができた。今後何かに生かせたらと思う
- 自分では思いつかない様なアイデアがでたり、色々な年代の方と交流できて非常に良い経験になった
- 帯広に住んでいても知らなかったことを知れてよかった。多世代との交流にもなったので、これからも実施してほしいと思う
- おそらく、市の方としても考えている方向があったと思うので、市側の考え方も1グループ作って聞いてみたかった
- 様々な世代の人と話し合うことで、たくさんの刺激をうけることができ、とても勉強になった
- 若い方々の意見がとても参考になった
- ワークショップに参加して、公共施設等について、現状についての考え方が変わった。何が必要か、何をすればよいのかとグループで意見交換したりと、とても勉強になった
- 人前で話す経験はあまりなかったので、よい経験になったと思う
- 情報の発信も受手によりけりだが、市民に関する情報だと認識できるようにできればよいと思う。関係ないと思っている人が多数存在している
- ワークショップに参加して、自分たちが住んでいない地区の公共施設についても関心をもつことができたのでよかった。参加して楽しかった
- 各施設の利用状況や維持費用について市民に開示することによって、自らの問題として考えるきっかけになると思う
- ワークショップにあたっては、ゼロベースでの議論もあるかと思うが、ある程度市としての方向性や考え方を示したうえで議論するというやり方もいいかと思う
- 今回初めてこのような場に参加したが、すごく話しやすい雰囲気で、少し楽しみながら参加することができた。他の方の意見もとても勉強になったし、今後の公共施設に役立つと良いなと思う
- 市民の意見を反映できる良い機会だと思う。これからも続けたい良いのではないと思う
- ワークショップは非常に意義のあるもの。ただし、お金をかけてまでやるものではない。謝礼や特に、外部の協力は必要ないと思う。
- 幅広い意見が必要とされると思うので、納税の義務を満たしているのだからと、少々強気で市民を参加させましょう。その方が得る意見もより深くなると思う
- 様々な世代の方と帯広市について考えていくことは良いと思った

3. 配布資料（プレゼン資料）

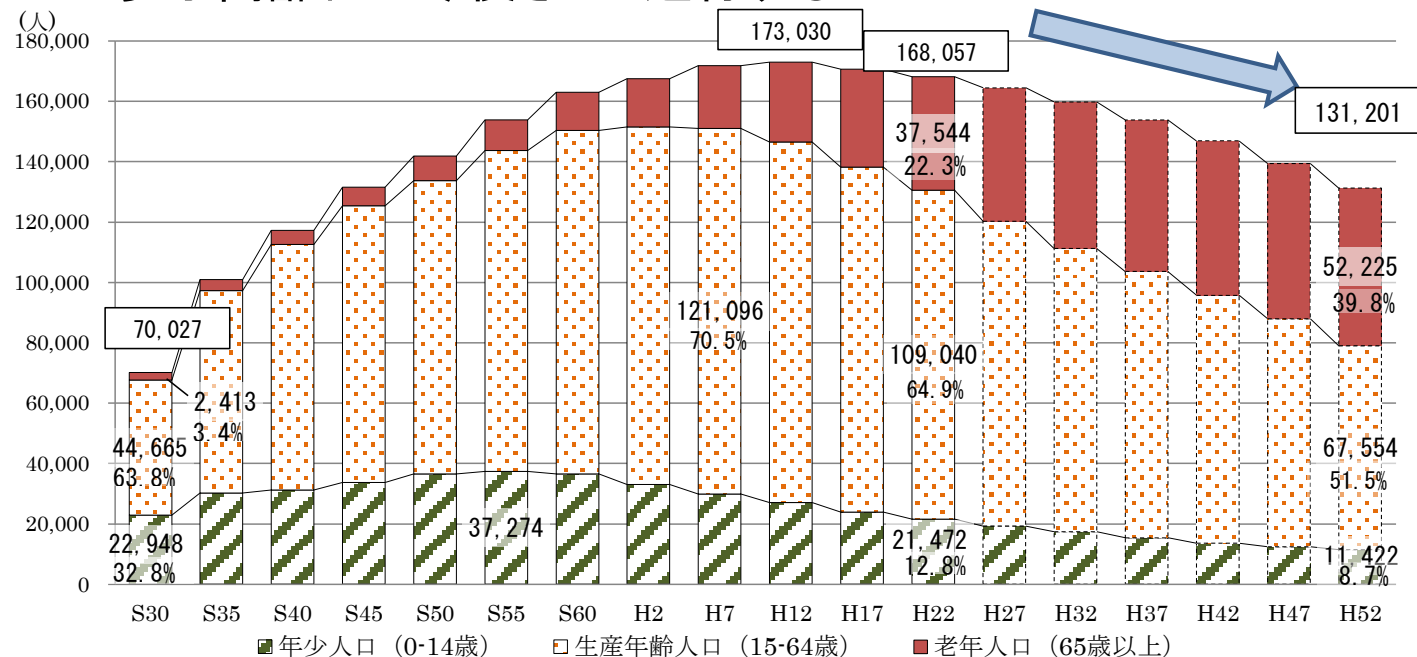
①帯広市における公共施設等の現状

帯広市における公共施設等の現状

帯広市 政策推進部 企画課

人口の推移

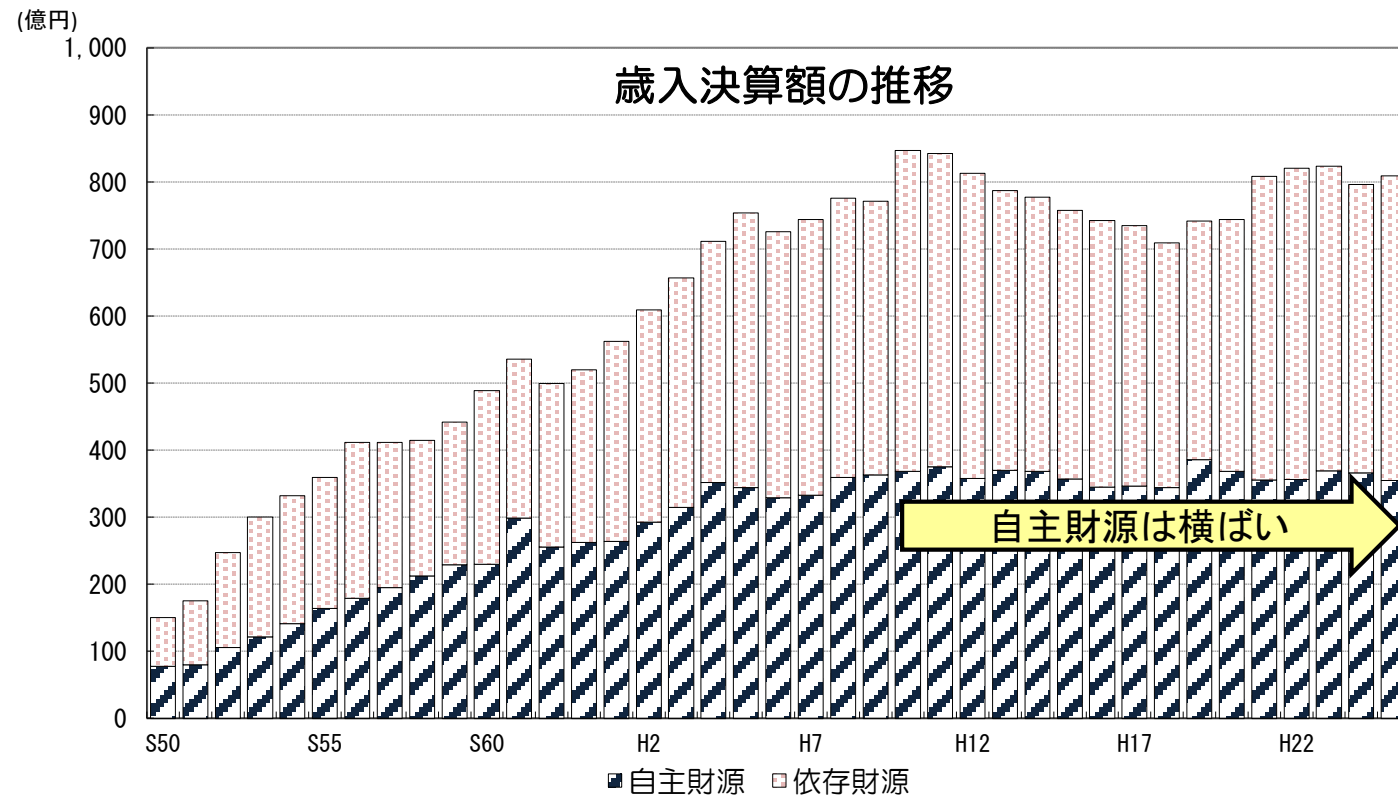
- 本市の人口は、平成12年をピークに減少傾向にある
- 少子高齢化が今後さらに進行する



帯広市の人口と人口構成の推移（「国立社会保障・人口問題研究所」の推計による）

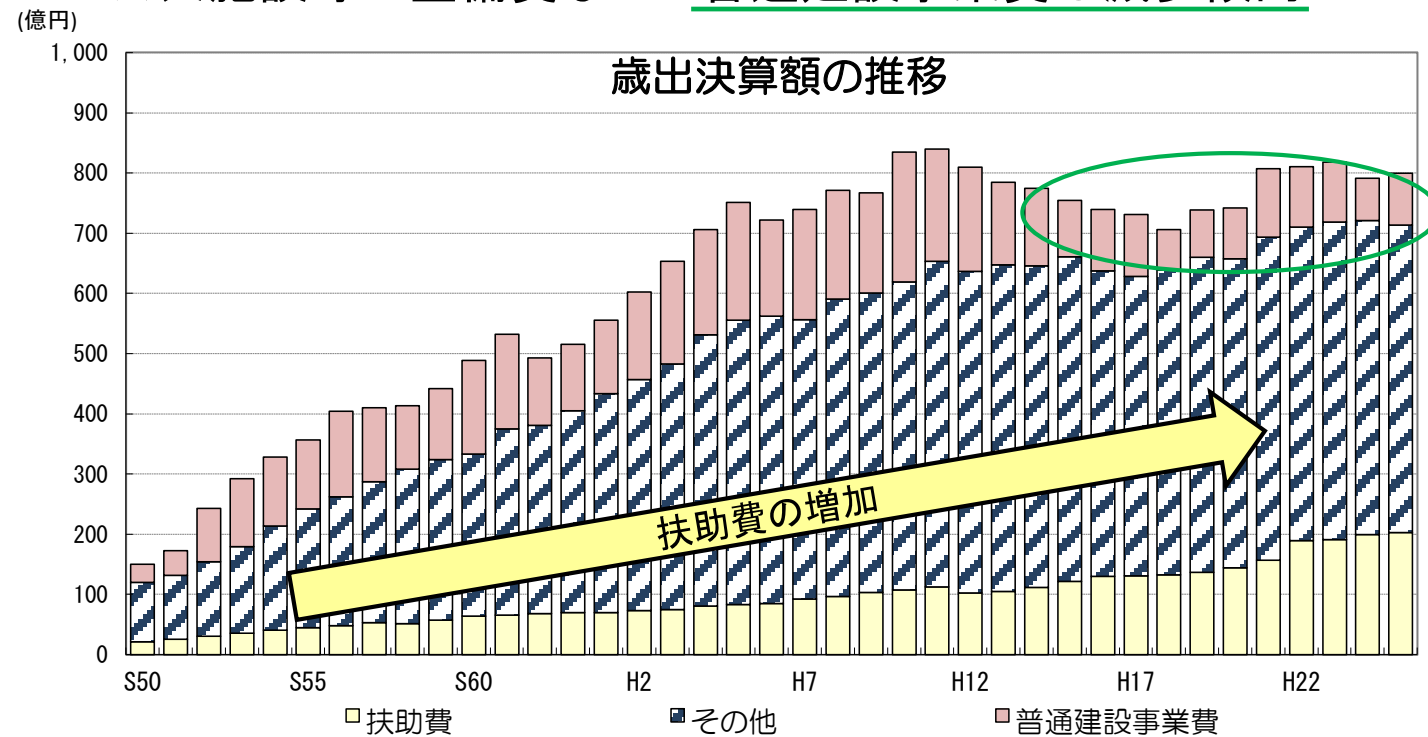
財政状況(歳入)

- ・市税などの自主財源の伸びを見込むことは難しい



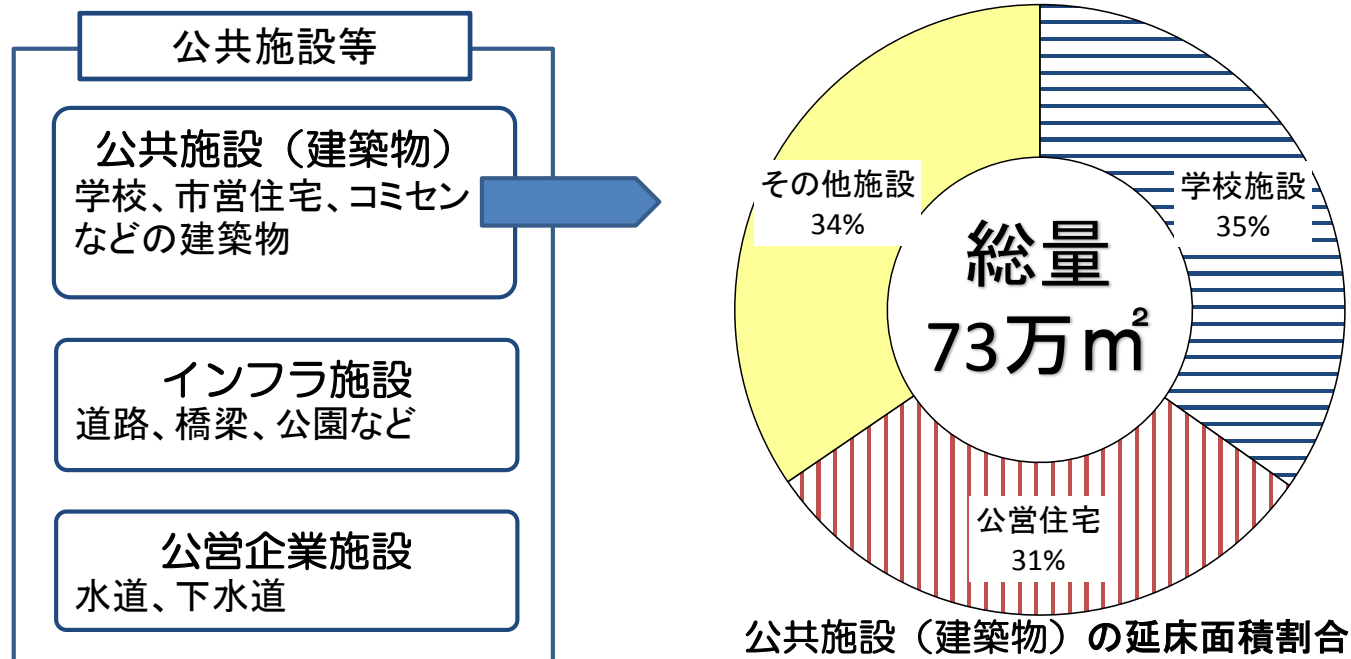
財政状況（歳出）

- ・高齢化の進行などにより、扶助費が増大
- ・公共施設等の整備費などの普通建設事業費は減少傾向



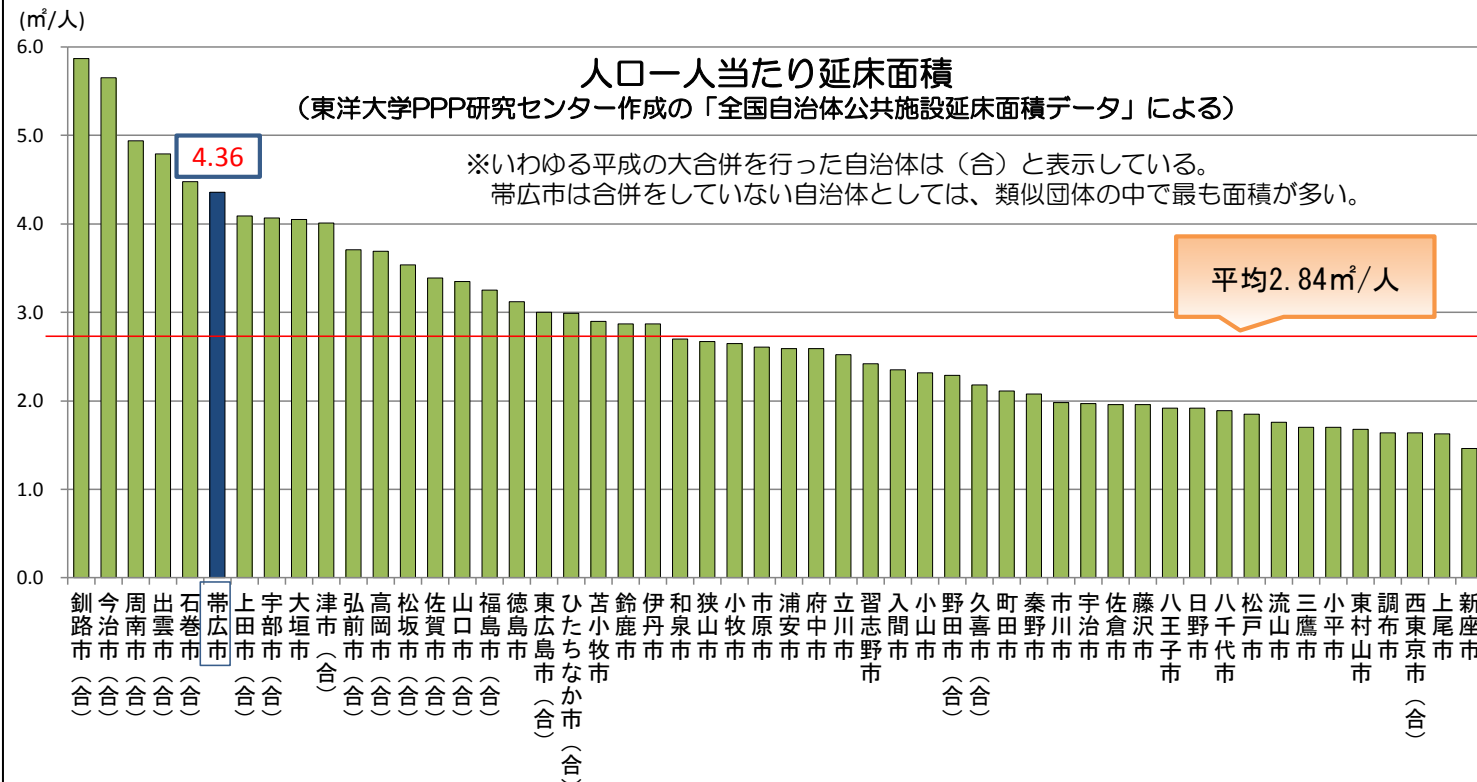
公共施設等の現状

- ・ 市内の公共施設の延床面積の総量は約73万 m^2
- ・ 学校、公営住宅、その他の延床面積割合がほぼ均等



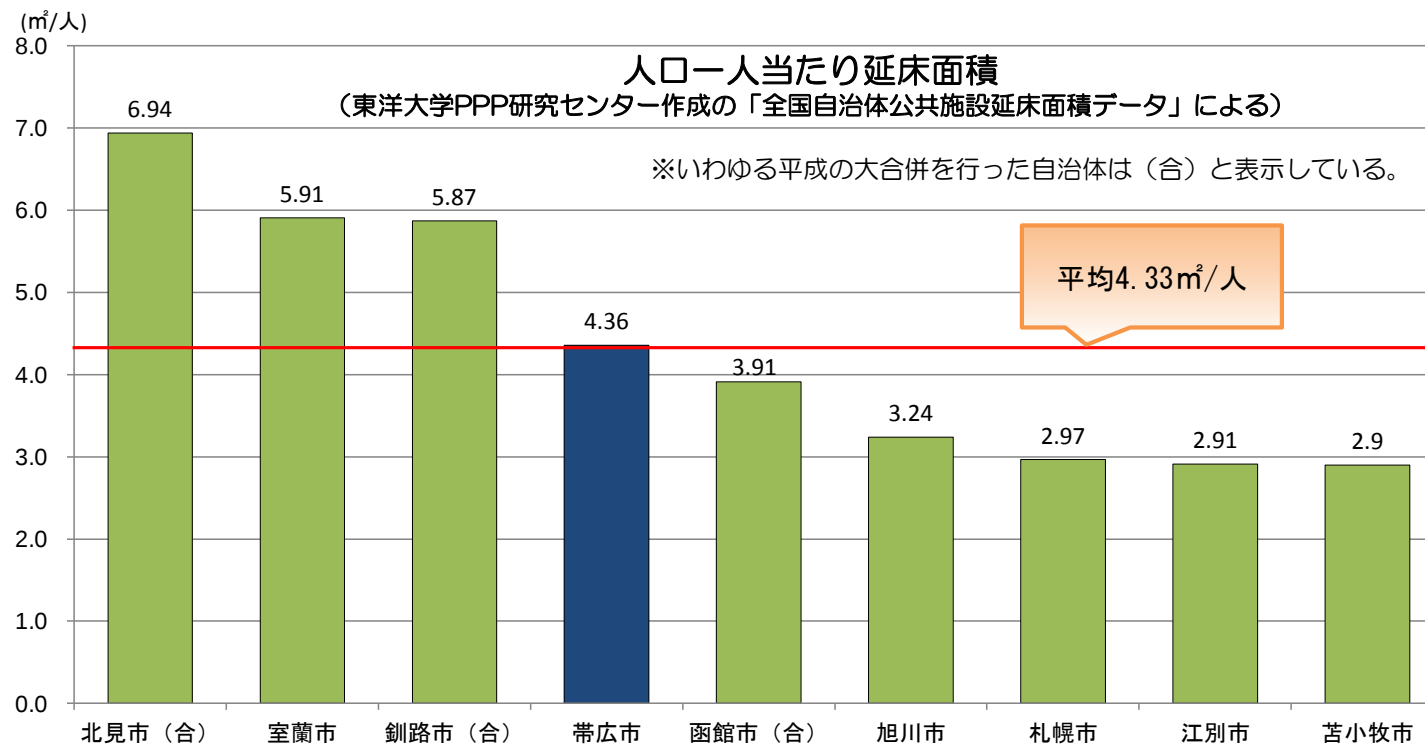
他都市（類似団体）との比較

- 本市の一人当たりの公共施設面積は全国トップクラス



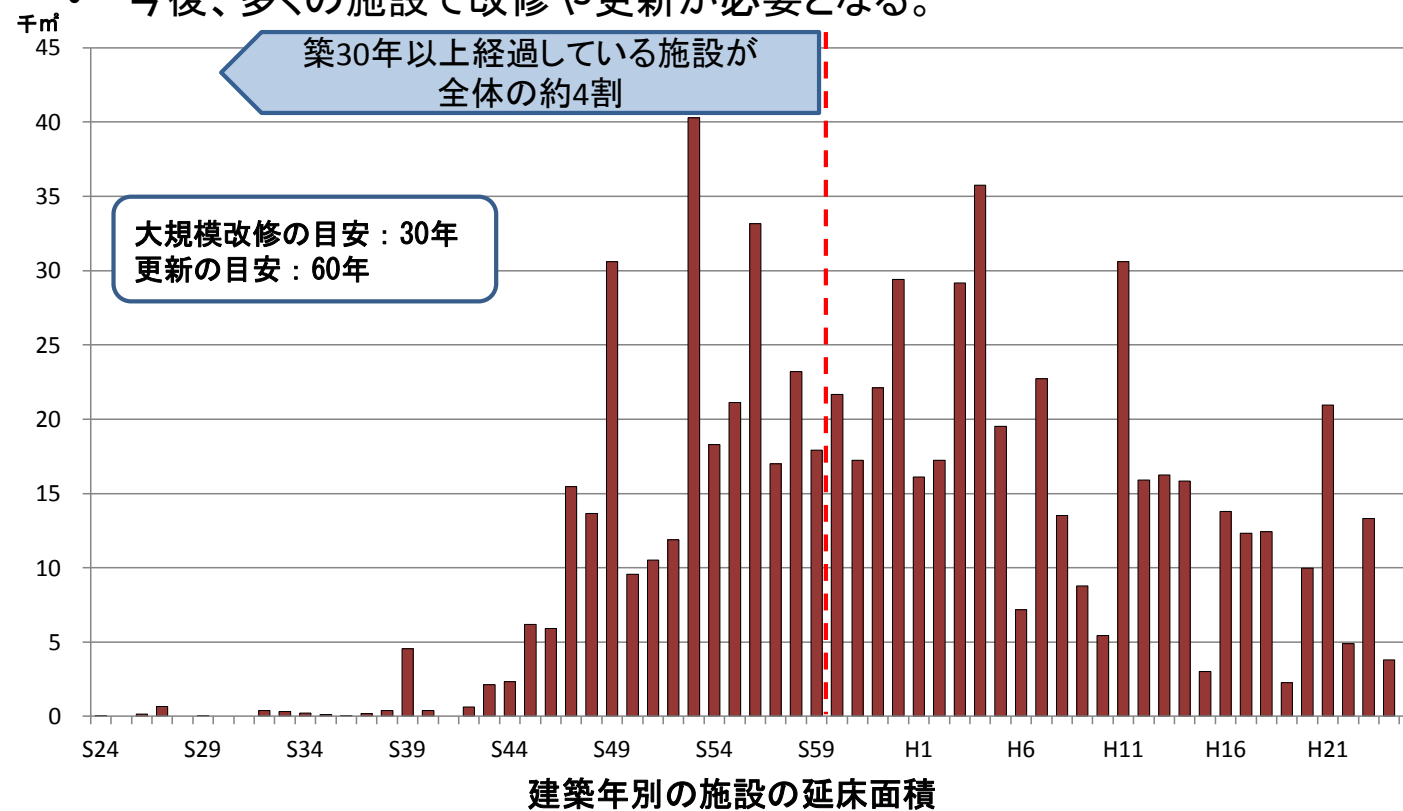
他都市（道内主要都市）との比較

- 本市の一人当たりの公共施設面積は道内主要都市の平均値とほぼ同じ



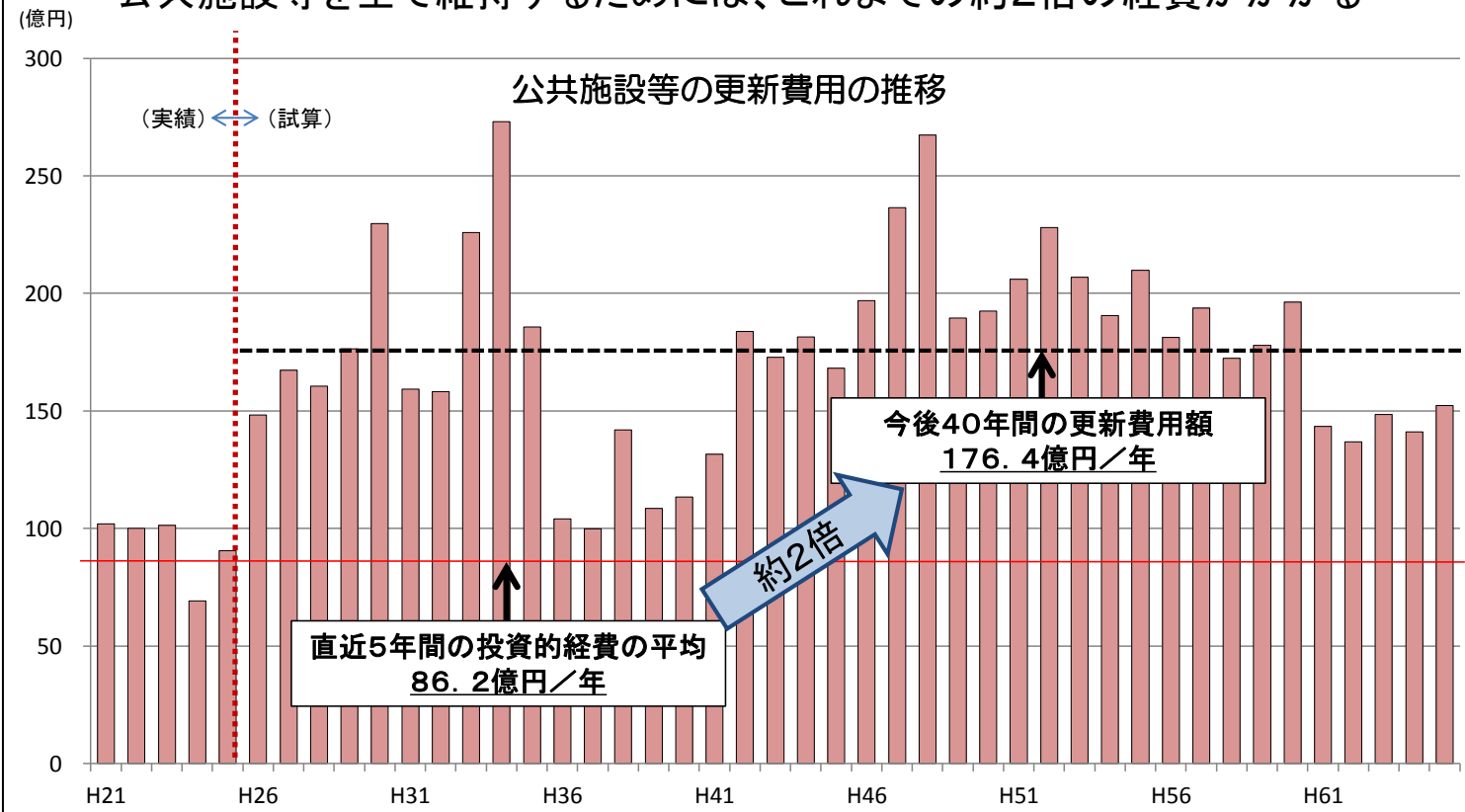
老朽化の進行

- 今後、多くの施設で改修や更新が必要となる。



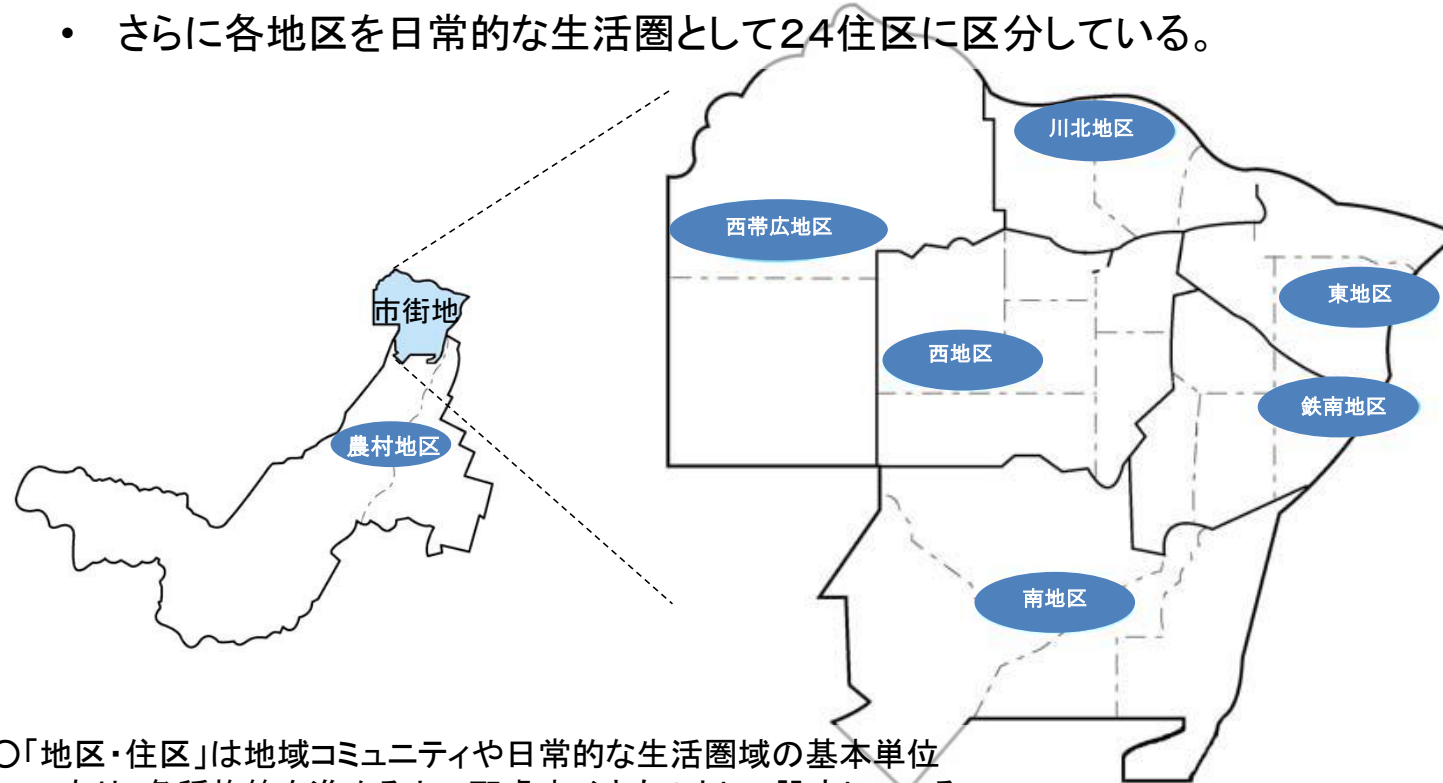
施設の更新費用

- ・公共施設等を全て維持するためには、これまでの約2倍の経費がかかる



地区・住区 (区分図)

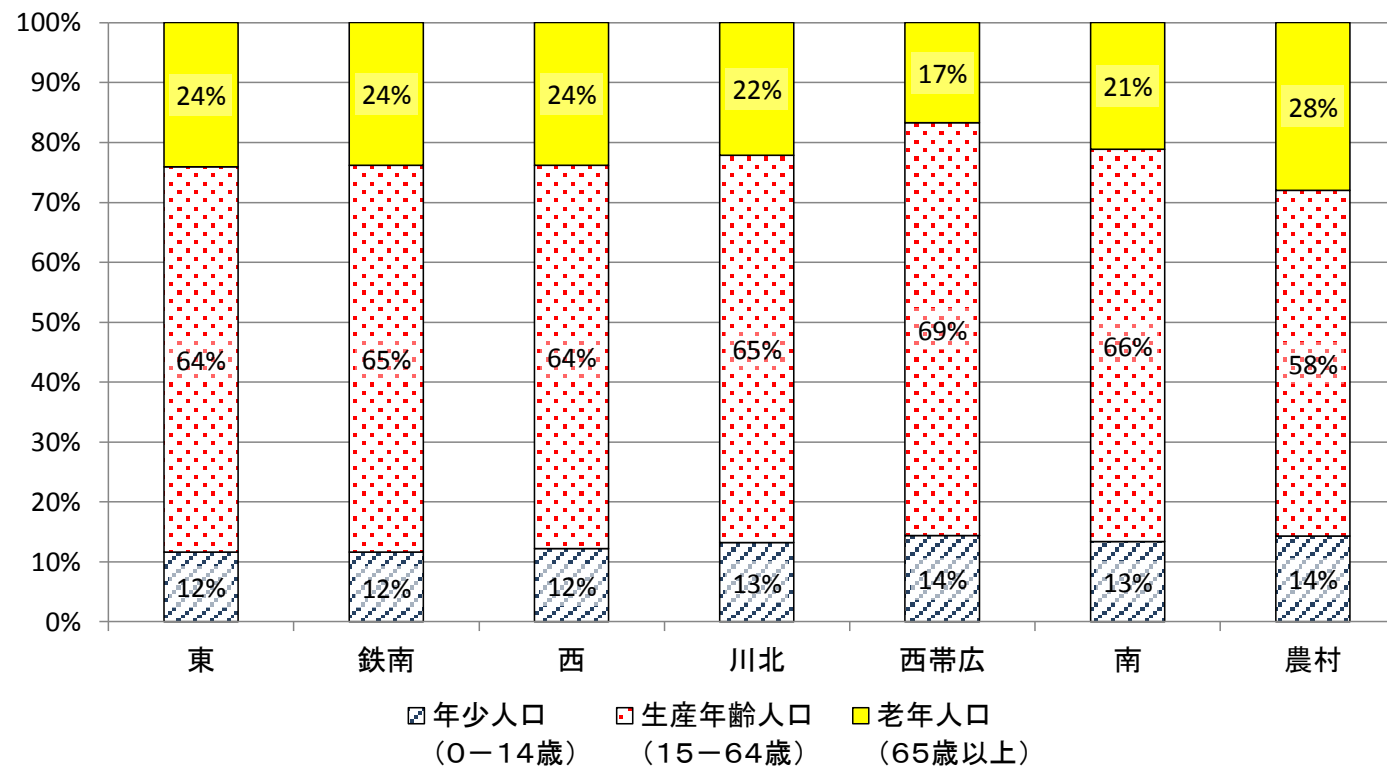
- 地理的及び社会的な特性を踏まえて、行政区域を7地区に区分している。
- さらに各地区を日常的な生活圏として24住区に区分している。



○「地区・住区」は地域コミュニティや日常的な生活圏域の基本単位であり、各種施策を進める上で配慮すべきものとして設定している。

地区ごとの人口構成

・市内7地区の人口構成に大きな差異はない。



公共施設の分類

- 本市では、地区・住区を基本としながら、公共施設等を計画的に配置している。

◆公共施設

○地域対応施設

地域内住民の利用を中心とする施設

- ・ 地域コミュニティ施設(コミュニティセンター、福祉センターなど)
- ・ 学校教育系施設(小学校、中学校)
- ・ 子育て支援施設(保育所、児童保育センターなど)

○全市対応施設

地域対応施設以外の市内全域を対象とする施設。

- ・ 文化施設、スポーツ施設、行政系施設、公営住宅など

公共施設の配置状況①

地域対応施設（地域内住民の利用を中心とする施設）

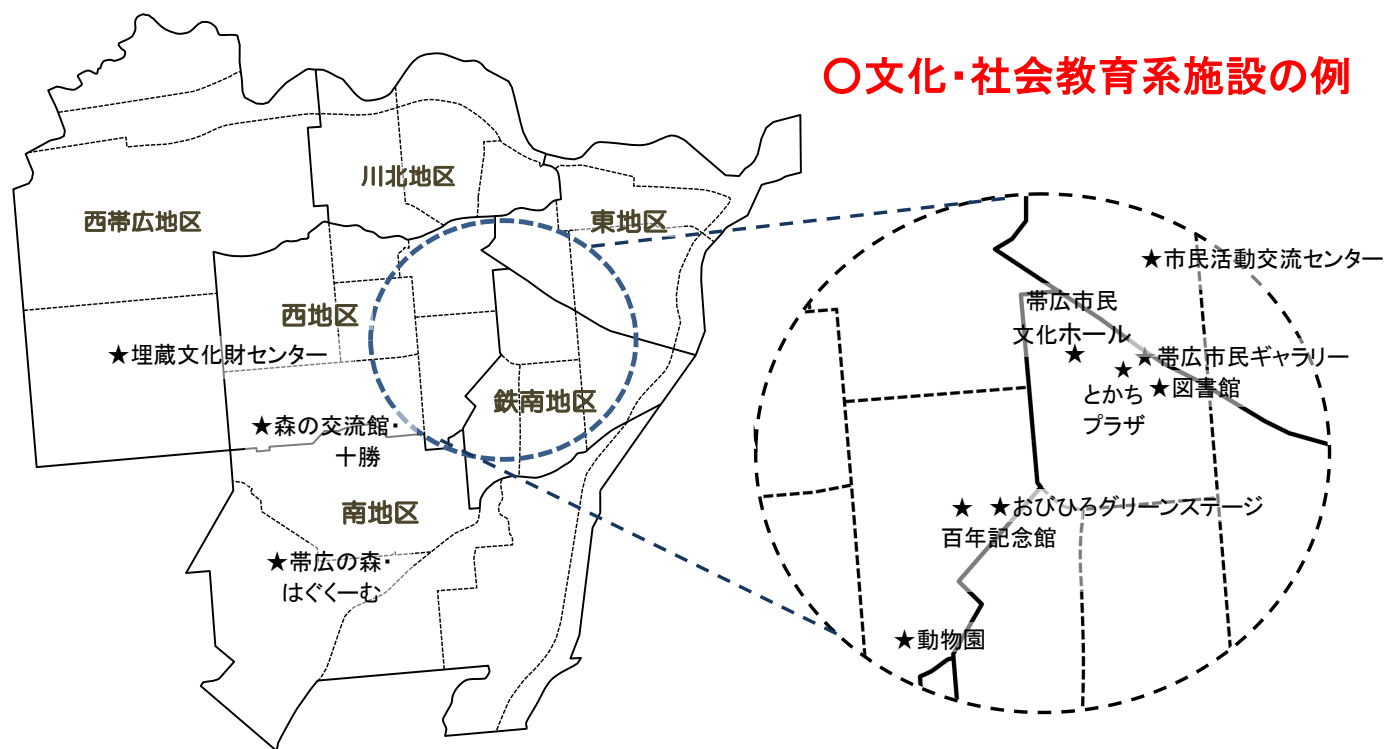
- 地域対応施設は各地区に均等に配置されている



公共施設の配置状況②

全市対応施設(全市民の利用を想定している施設)

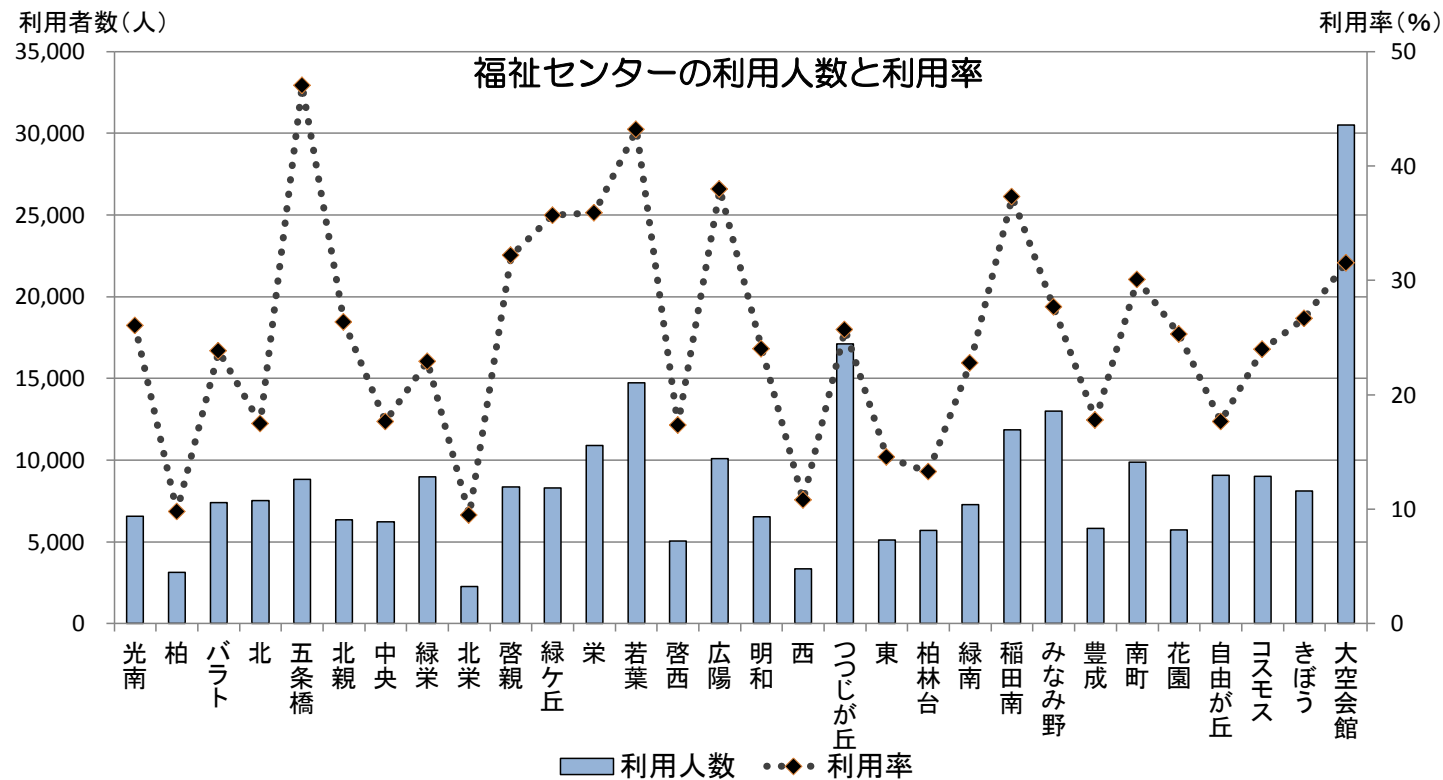
- 全市対応施設は利便性等を考慮し、設置場所が集中している



施設の利用状況等①

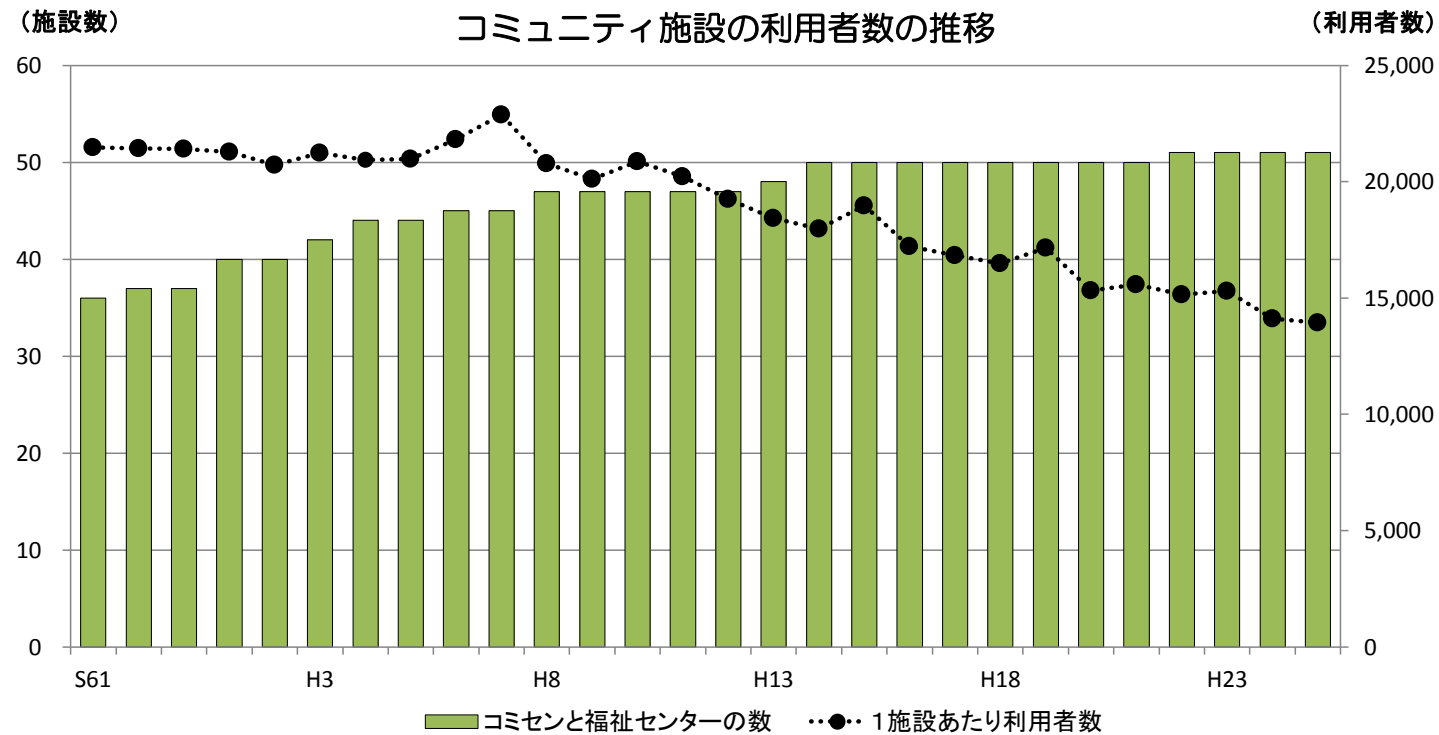
(福祉センターの例)

・同ジャンルの施設であっても、利用率には開きがある



施設の利用状況等② (コミュニティ施設の例)

- ・市民ニーズの変化に伴い、利用者数が減少している施設がある。



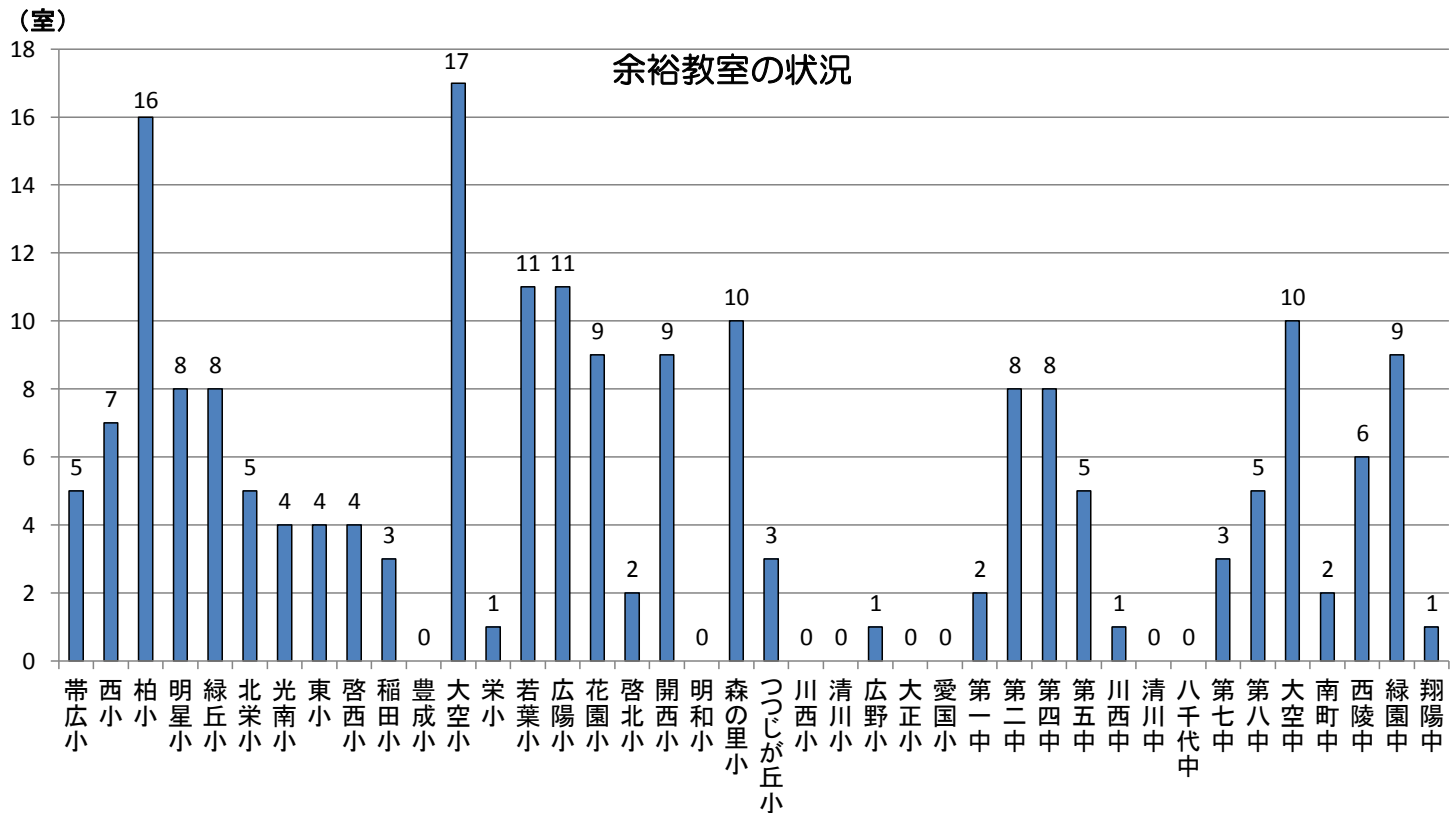
- ・児童・生徒数の減少とともに学級数は減少している。



施設の利用状況等④

(小・中学校の例②)

- ・児童・生徒数の減少に伴い、余裕教室が増加している。



公共施設マネジメントの必要性

○ 公共施設の老朽化

- ・既存の公共施設の約4割が築30年以上経過

○ 多額な公共施設の改修・更新費用

- ・全ての公共施設を維持するために、今後40年間に必要となる費用は1年当たり176.4億円(これまでの2倍)が必要

○ 公共施設へのニーズが変化

- ・人口減少や少子高齢化の進行に伴い、人口構成も変化し、公共施設の利用状況や市民ニーズも変化



公共施設の計画的な管理・利活用

= マネジメントが必要

公共施設マネジメントの進め方

○ 公共施設は市民共通の財産



○ 将来世代に負担を強いることなく引き継がなければならない



○ 市民と問題意識を共有しながら、
長期的な視点で公共施設マネジメントに取り組むことが必要

市民と課題共有するための取組（予定）

◆平成27年度

- ・アンケート（7月下旬～8月上旬）
- ・ワークショップ（10月～11月）

◆平成28年度

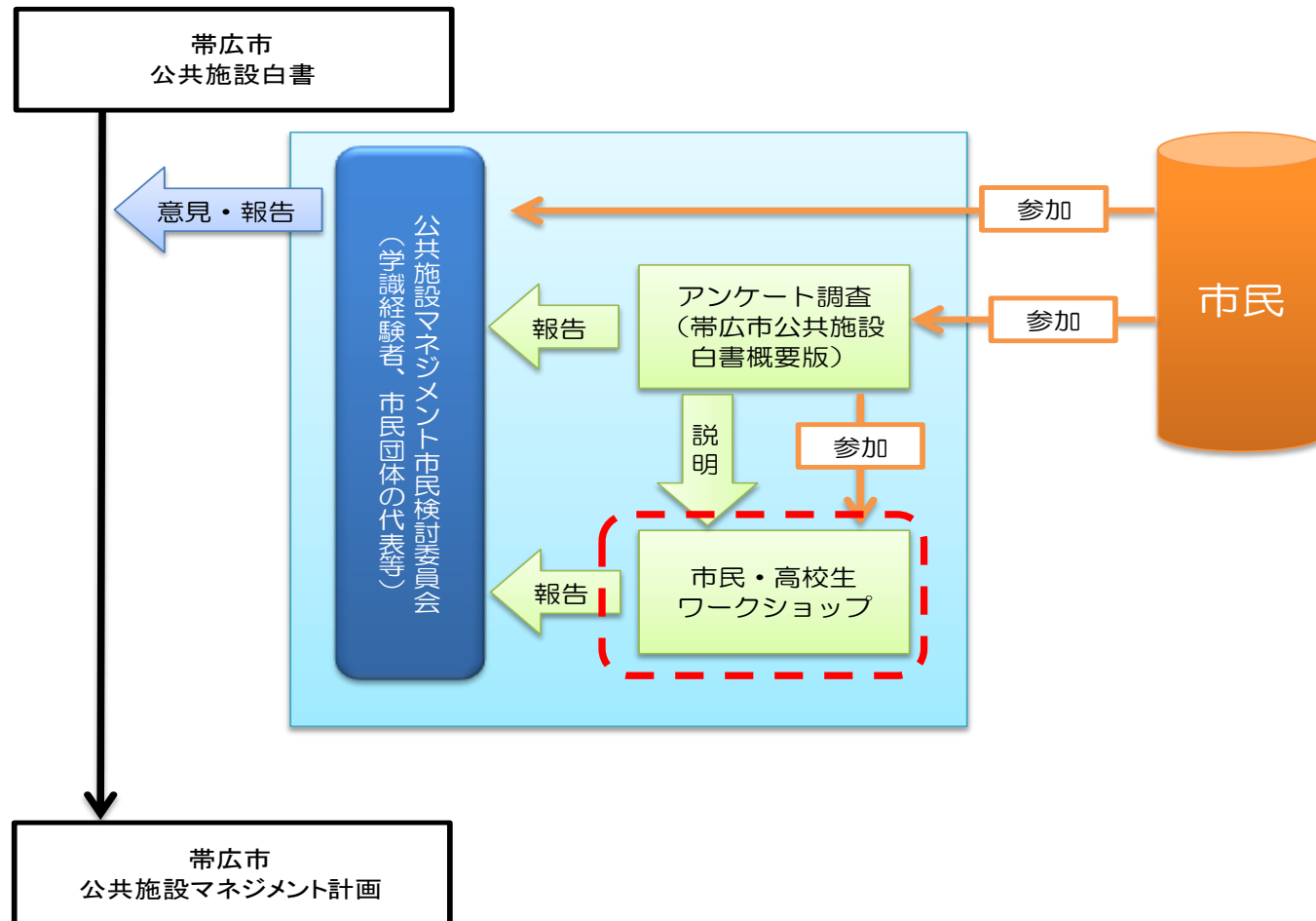
- ・市民との意見交換会、説明会
- ・パブリックコメント

帯広市 公共施設のあり方に関するアンケート調査

～集計・分析結果について～
(ワークショップ版)

平成27年10月24日（土）

アンケート調査の位置づけ



調査の概要・目的

① 市民アンケート (H27年7月～8月)

⇒対象者2,000人、回答数987人

② 高校生アンケート (H27年8月)

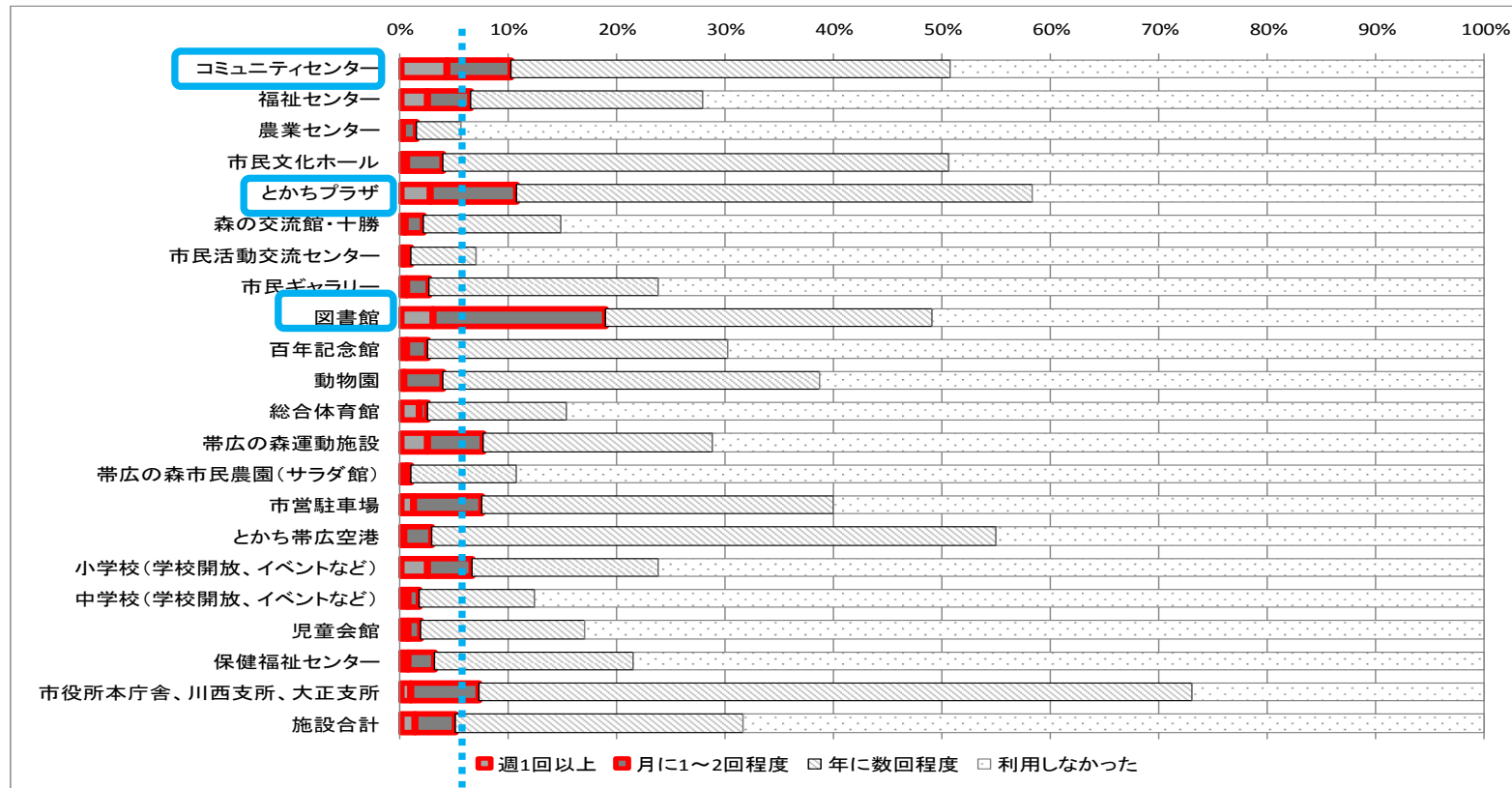
⇒対象者320人程度、回答数284人

③ 施設利用者アンケート (H27年8月)

⇒各施設100人・合計1,500人、回答数1,295人

公共施設の利用状況や今後のあり方に関する
市民意識等を把握する

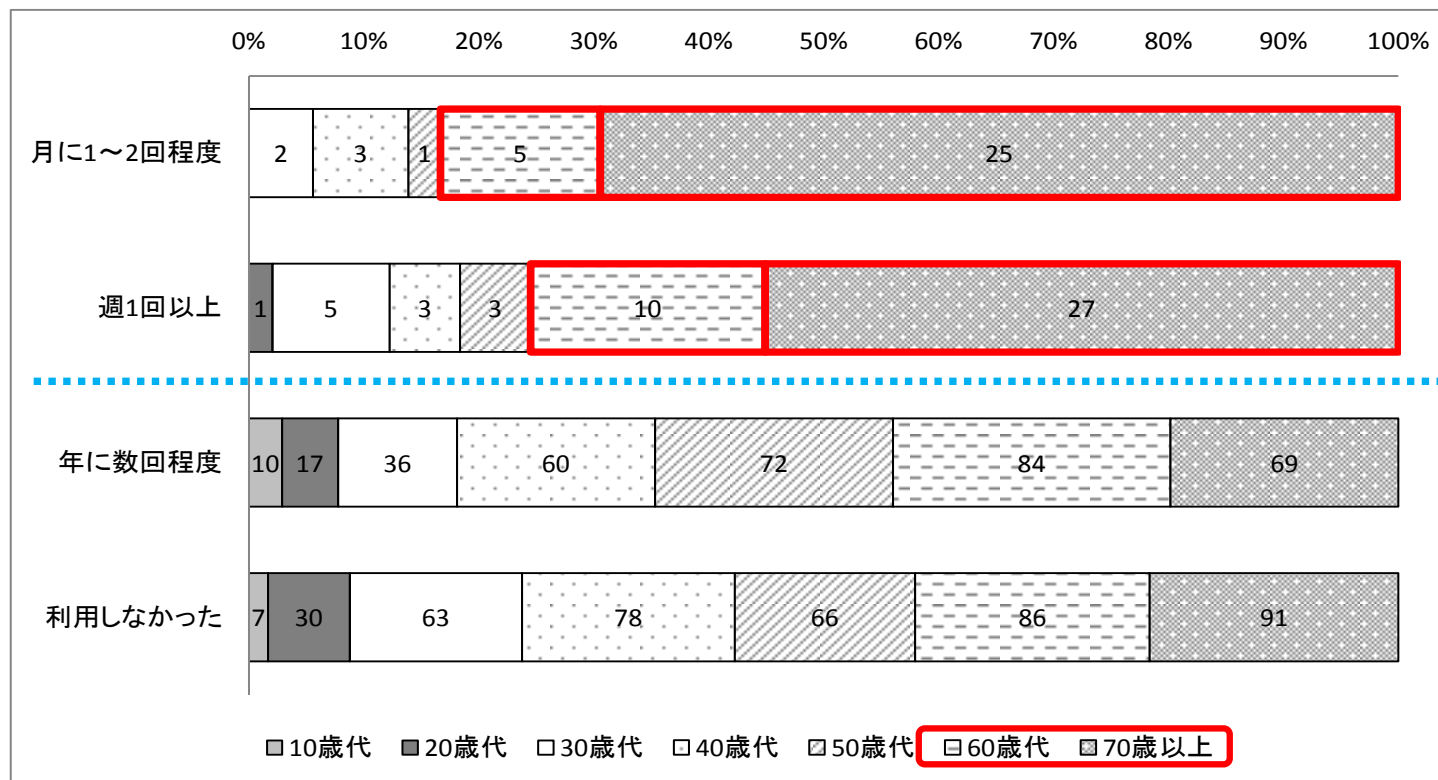
公共施設の利用状況（市民アンケート）



定期的(月に1回以上)に利用している割合は、コミュニティセンター、とかちプラザ、図書館を除き各施設5%前後

施設別における年代別の利用状況①（市民アンケート）

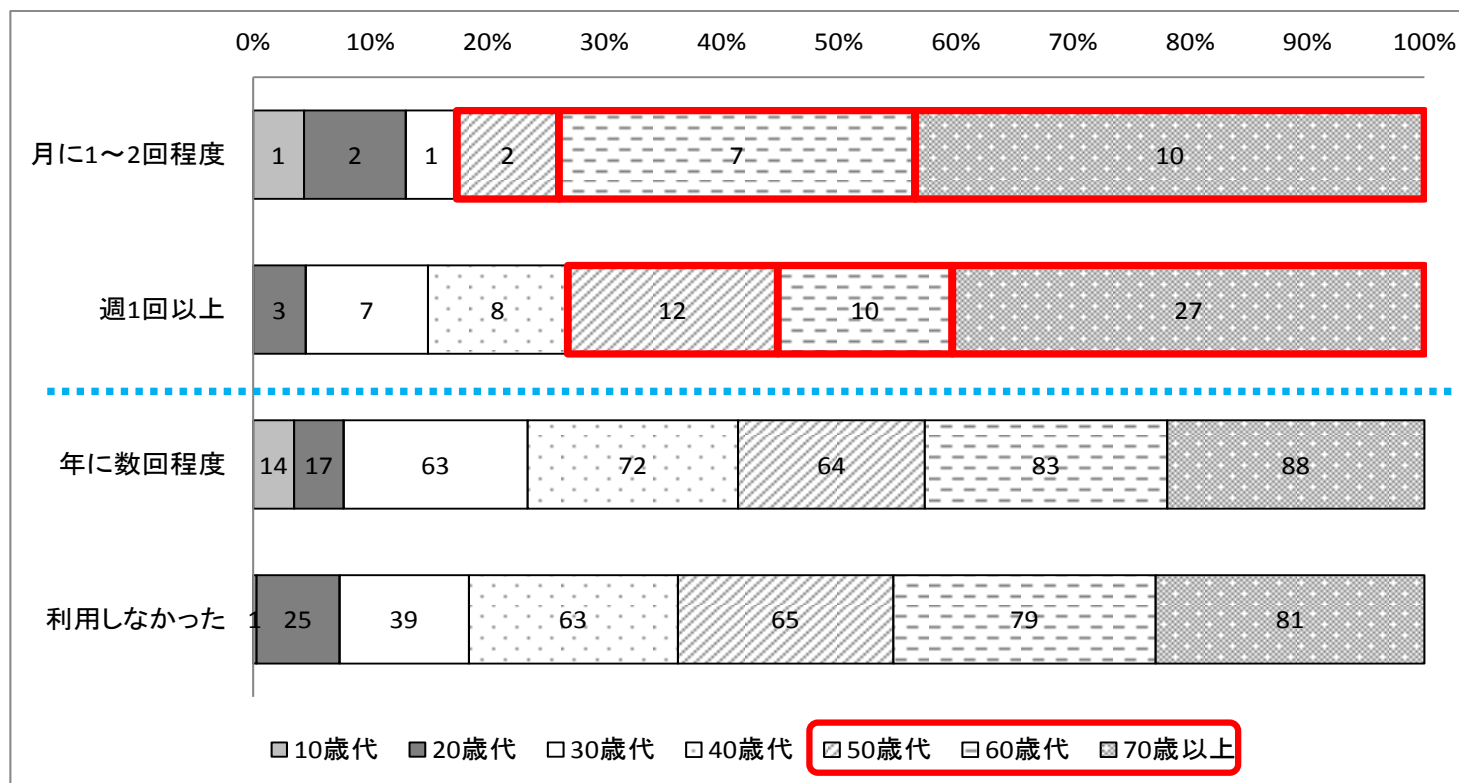
コミュニティセンター



定期的にご利用する人は60歳代以上であり、10歳代・20歳代はほとんど利用していない。

施設別における年代別の利用状況②（市民アンケート）

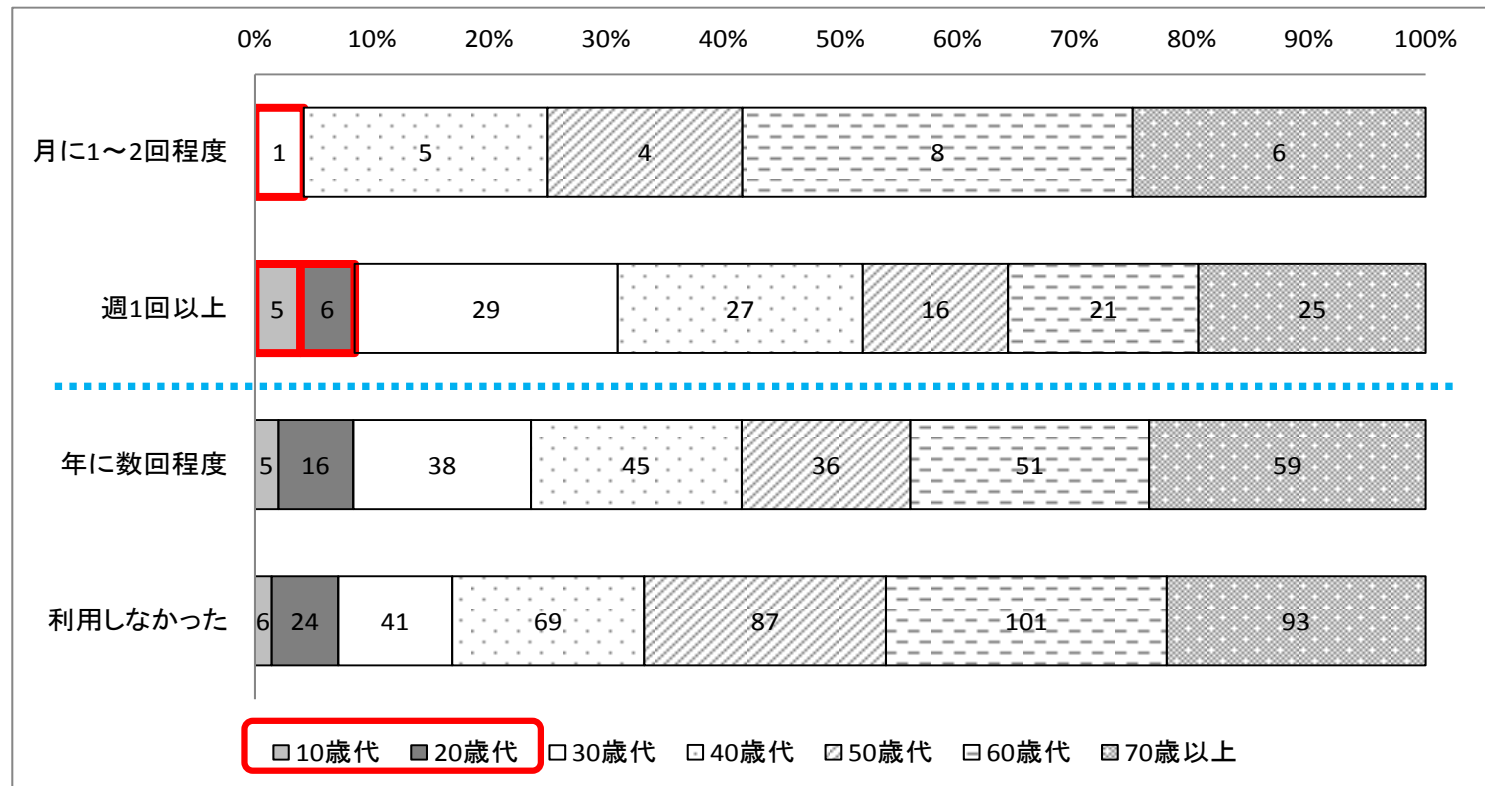
とまちプラザ



定期的にご利用する人は50歳代以上であり、10歳代～30歳代の利用は少ない。

施設別における年代別の利用状況③ (市民アンケート)

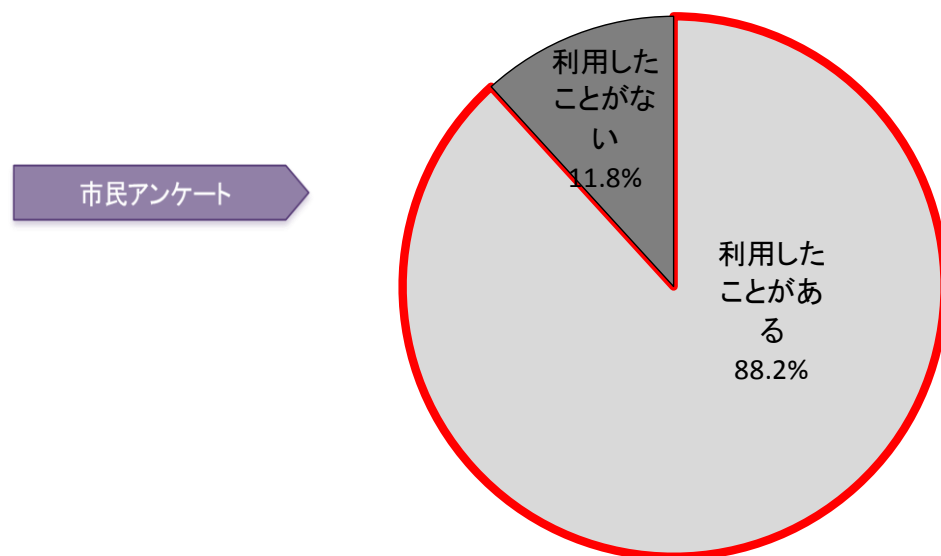
図書館



幅広い世代で定期的にご利用されているが、10歳代・20歳代の利用は少ない。

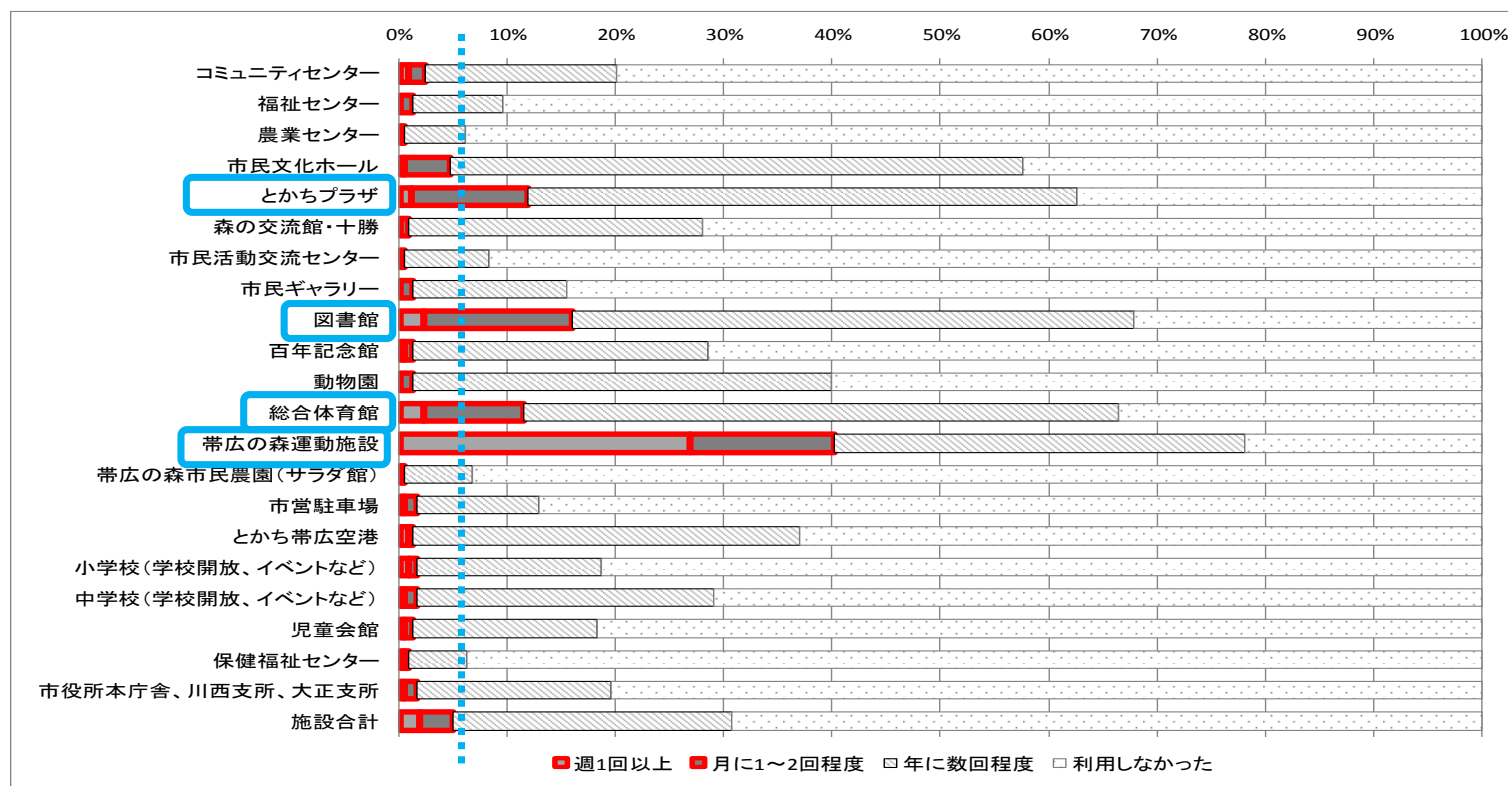
公共施設の利用状況（市民アンケート）

主な施設について、いずれか1ヶ所以上の施設を利用した市民の割合



大多数の市民は、いずれか1ヶ所以上の施設を利用している。

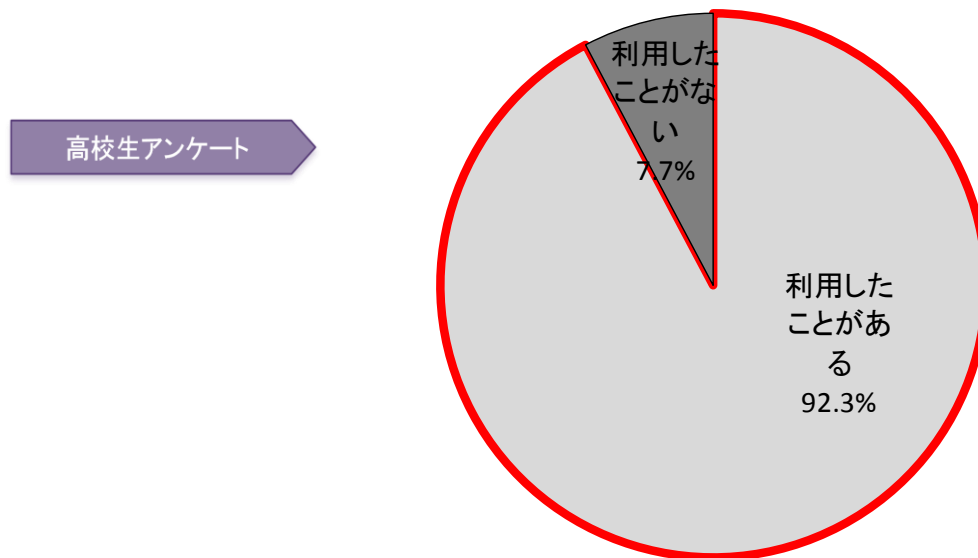
公共施設の利用状況（高校生アンケート）



定期的(月に1回以上)に利用している割合は、とかちプラザ、図書館、総合体育館、帯広の森運動施設を除き各施設5%前後

公共施設の利用状況（高校生アンケート）

主な施設について、いずれか1ヶ所以上の施設を利用した高校生の割合

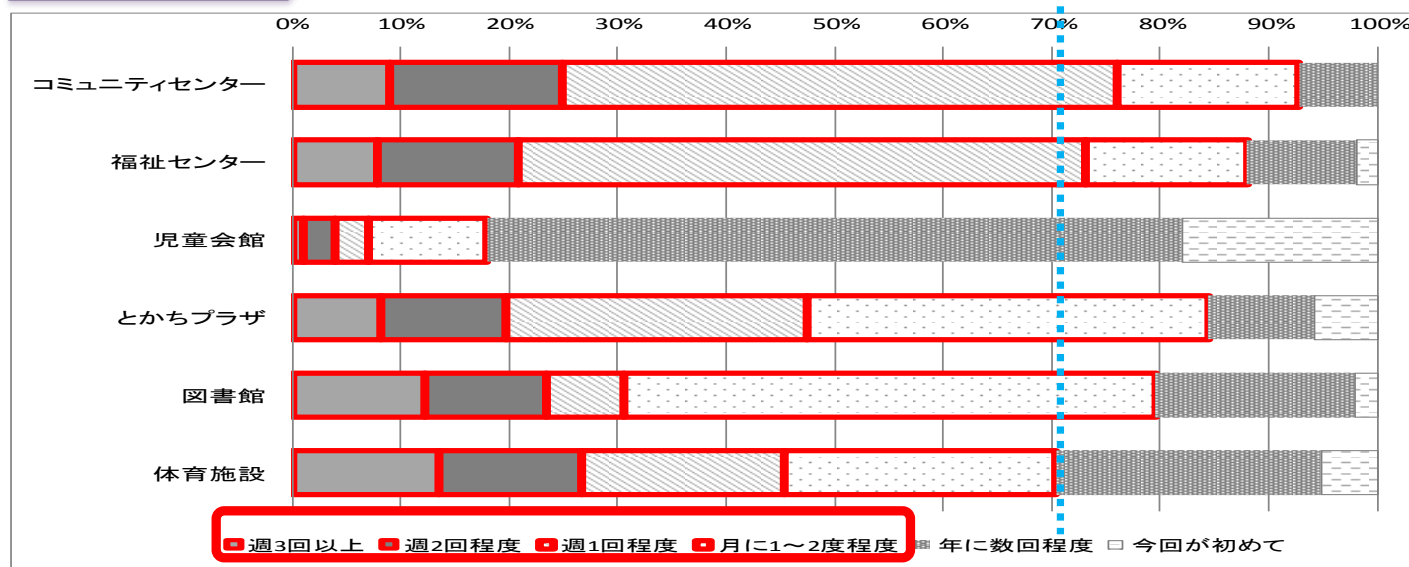


大多数の高校生は、いずれか1ヶ所以上の施設を利用している。

公共施設の利用状況（施設利用者アンケート）

Q「帯広市の主な公共施設をどのくらい利用しましたか？」

施設利用者アンケート



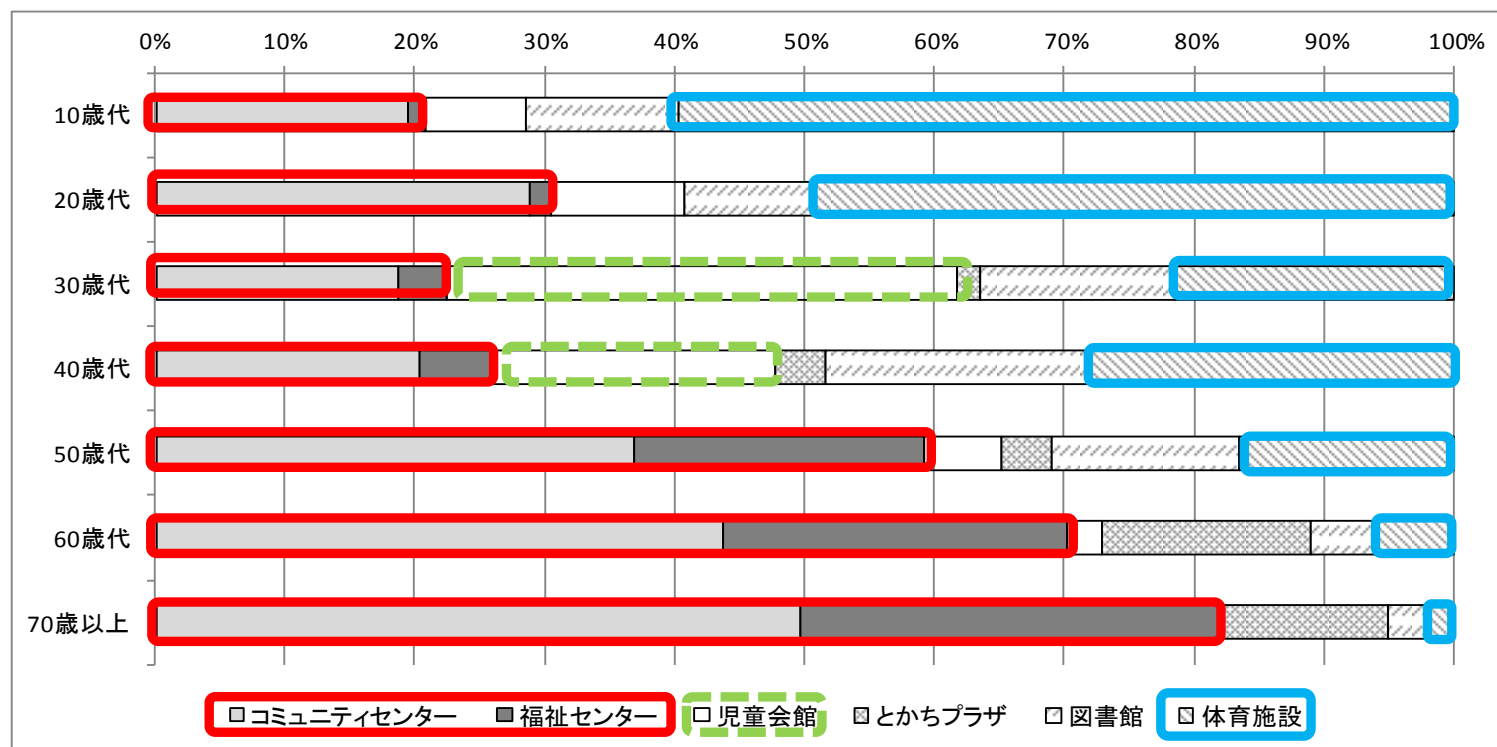
市民アンケート、及び高校生アンケートの利用状況と比較すると、定期的にご利用する割合が高い。

⇒特定の人に利用が集中している可能性がある。

公共施設の利用状況（年代別利用状況）

Q「帯広市の主な公共施設をどのくらい利用しましたか？」

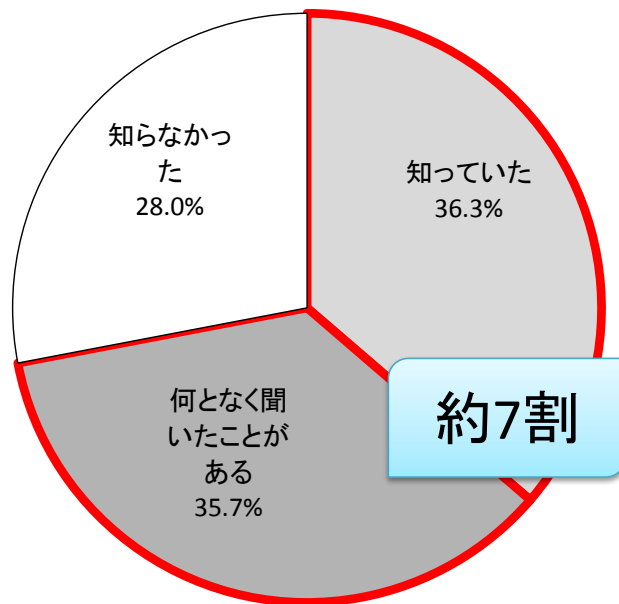
年代別利用状況



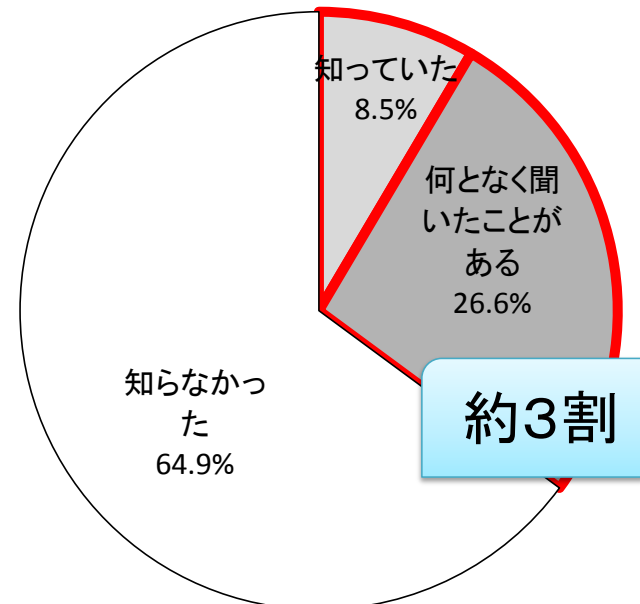
公共施設を取り巻く現状と課題①

Q「全国同様、帯広市においても公共施設の維持に必要な財源の確保が困難となりつつあることを知っていましたか？」

市民アンケート

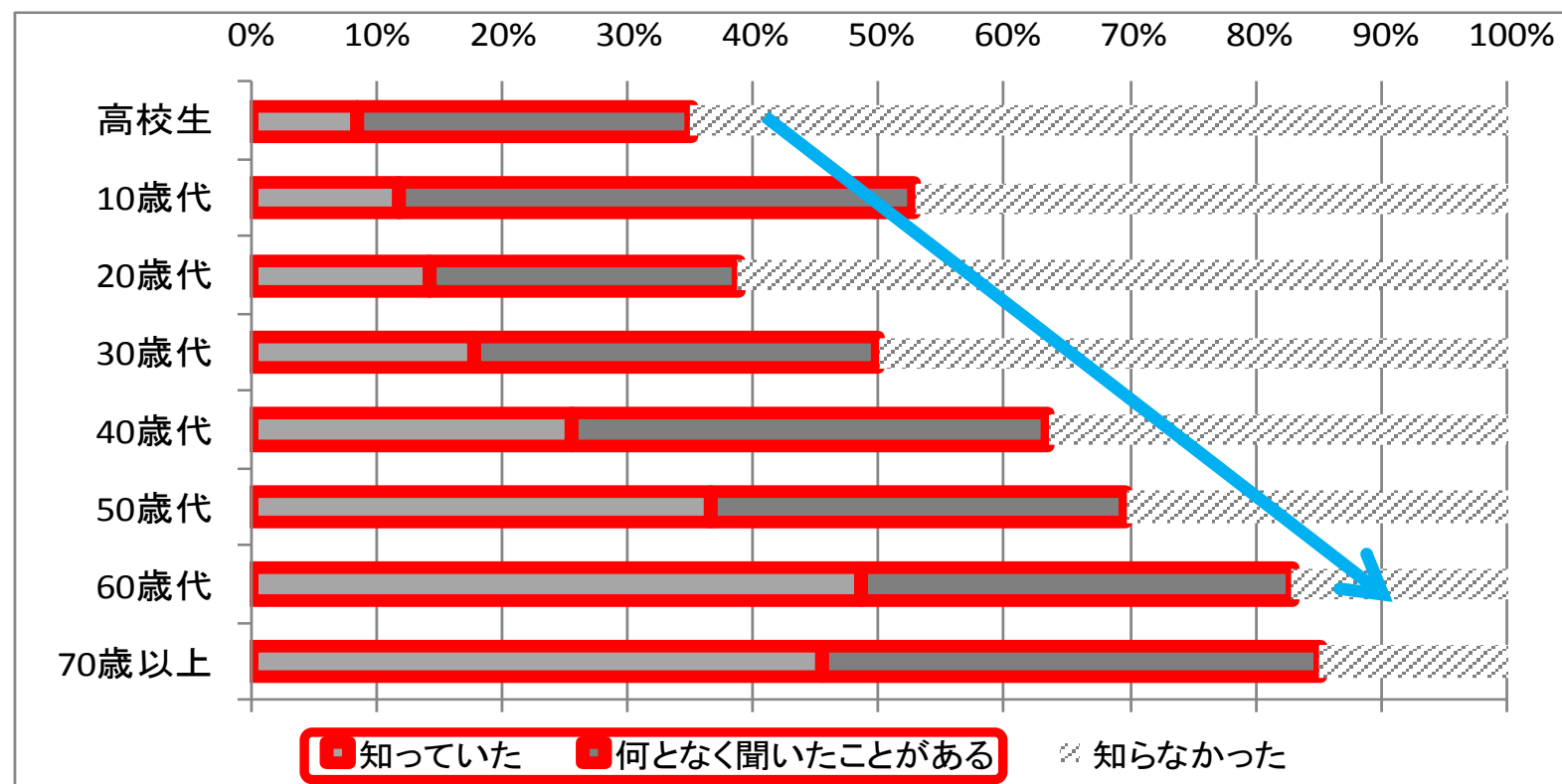


高校生アンケート



公共施設を取り巻く現状と課題①（年代別の結果）

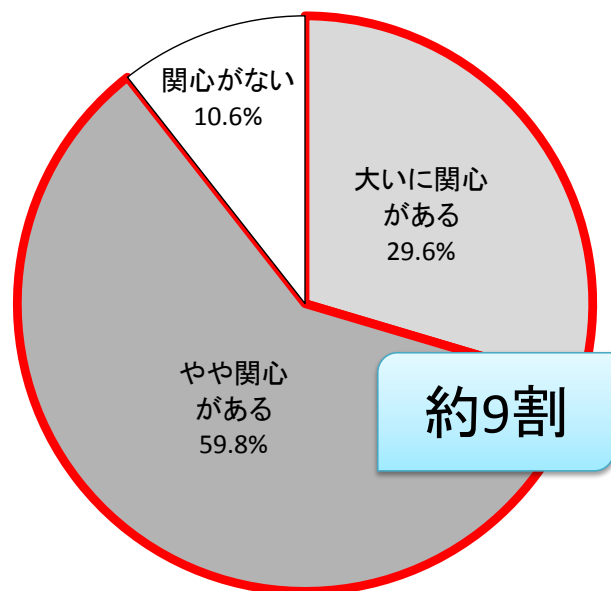
Q「全国同様、帯広市においても公共施設の維持に必要な財源の確保が困難となりつつあることを知っていましたか？」



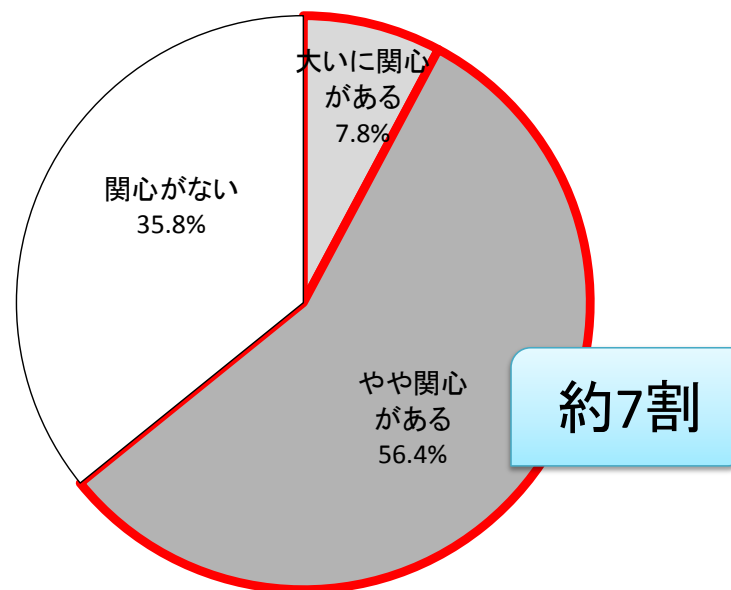
公共施設を取り巻く現状と課題②

Q「公共施設を取り巻く現状や課題について関心がありますか？」

市民アンケート

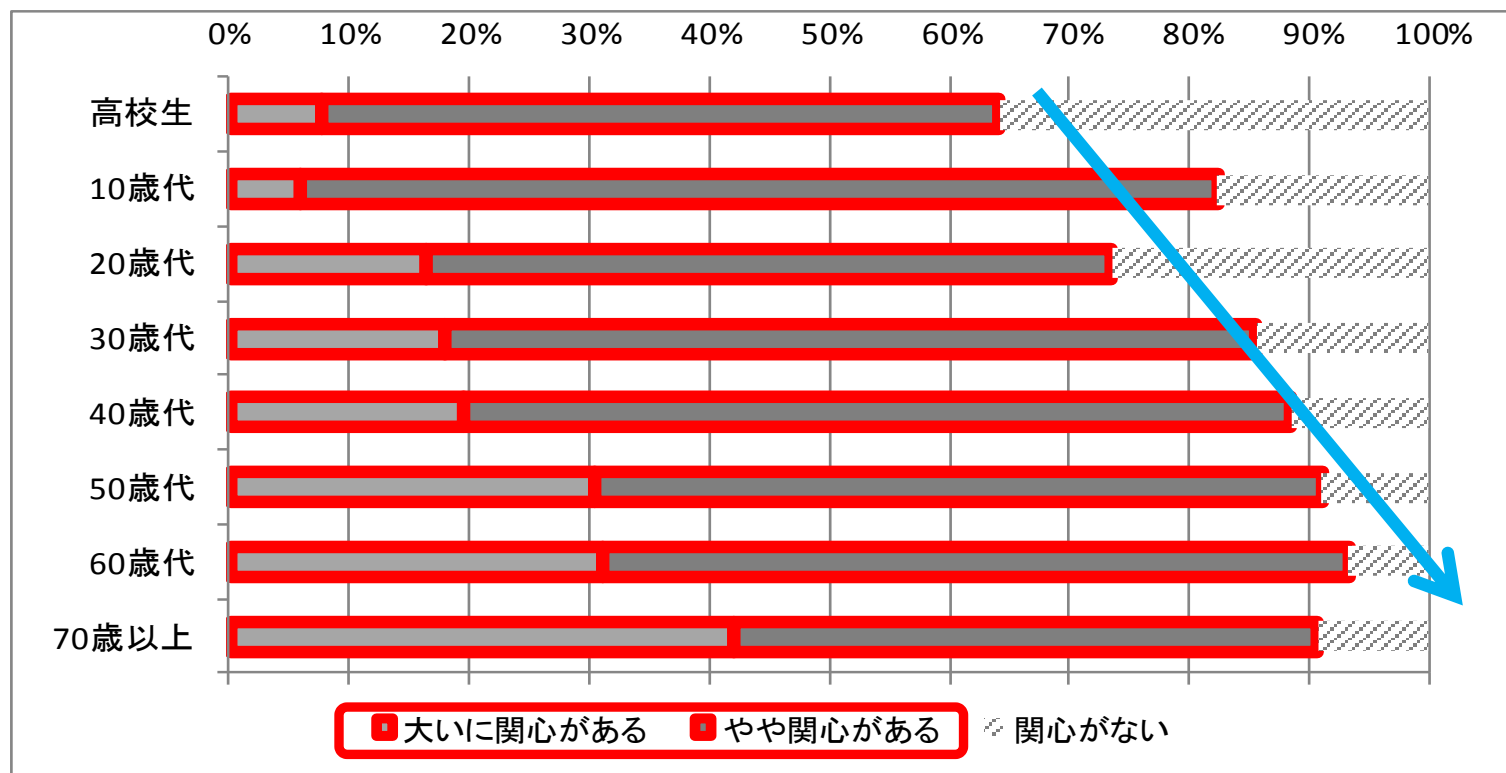


高校生アンケート



公共施設を取り巻く現状と課題②（年代別の結果）

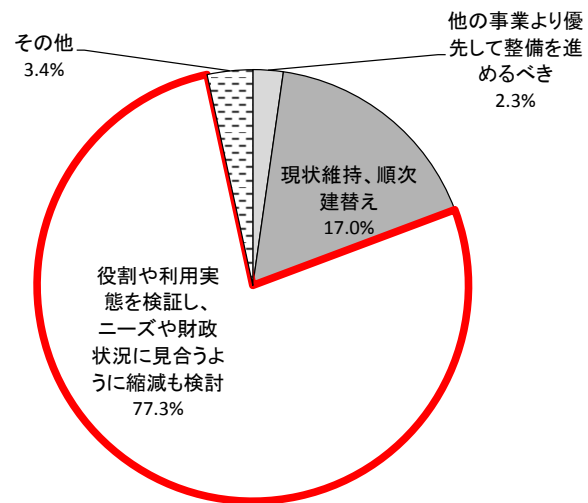
Q「公共施設を取り巻く現状や課題について関心がありますか？」



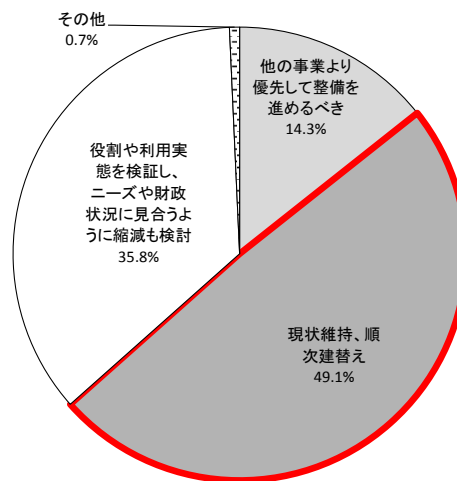
今後の公共施設のあり方①

Q「これからの公共施設の整備についてどのように進めていくべきですか？」

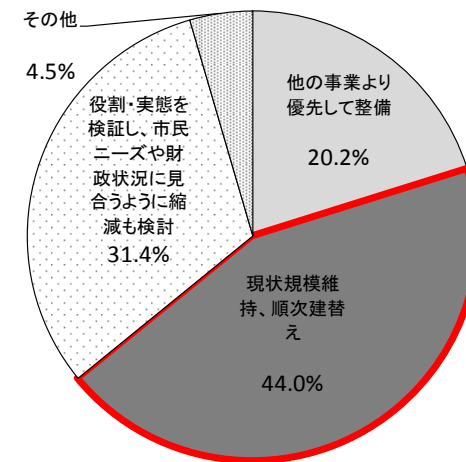
市民アンケート



高校生アンケート



施設利用者アンケート

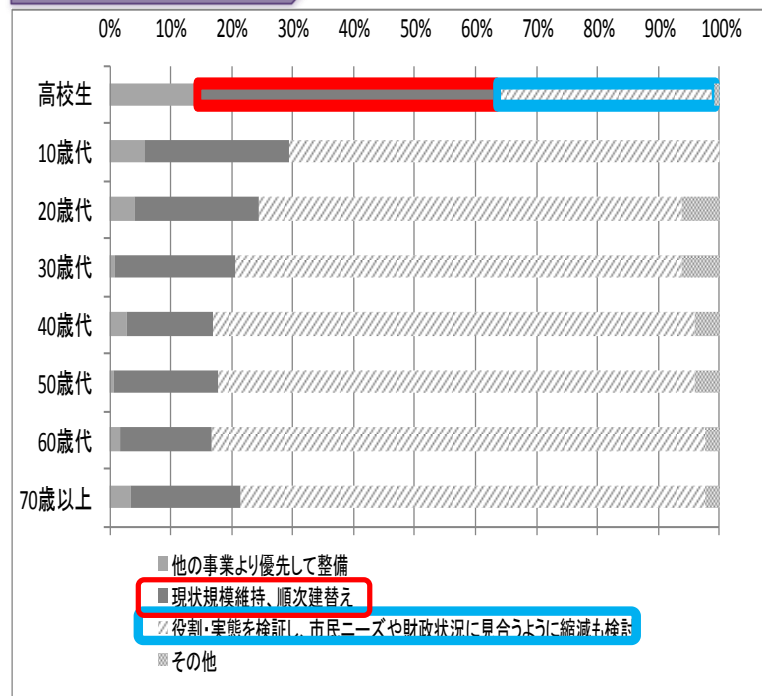


今後の公共施設のあり方①（年代別の結果）

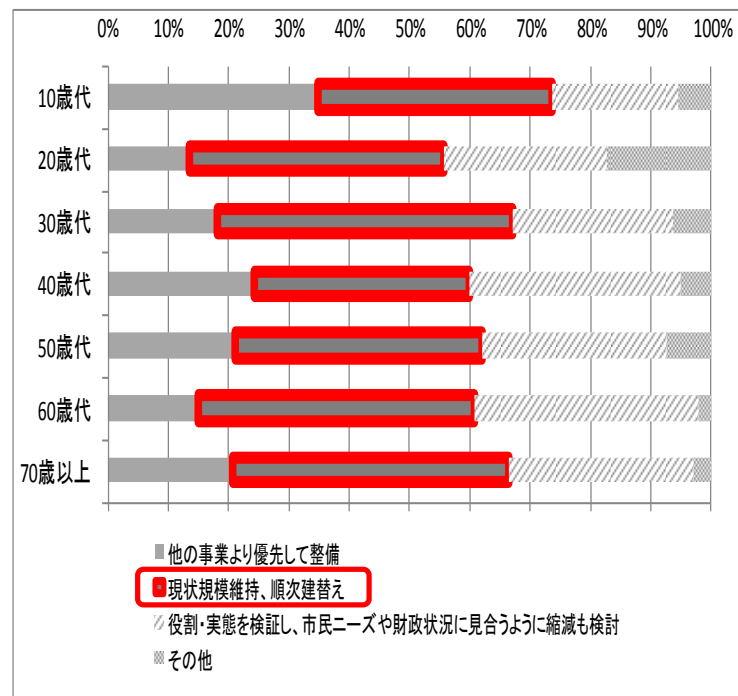
Q「これからの公共施設の整備についてどのように進めていくべきですか？」

市民アンケート

高校生アンケート



施設利用者アンケート



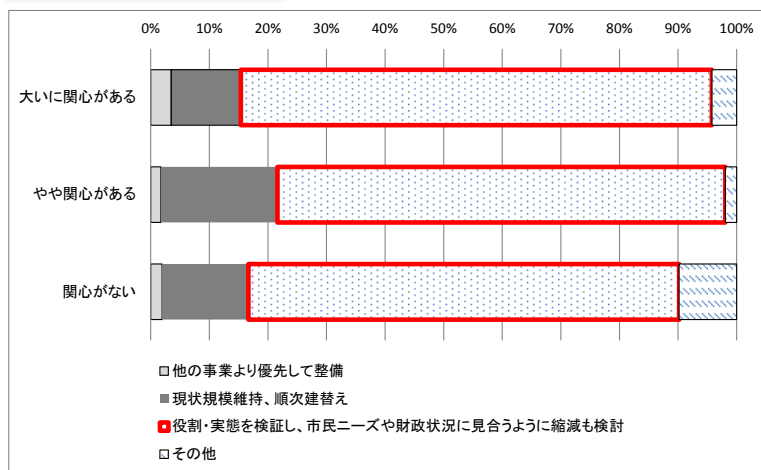
関心度×今後の整備方針

Q「公共施設を取り巻く現状や課題について関心がありますか？」

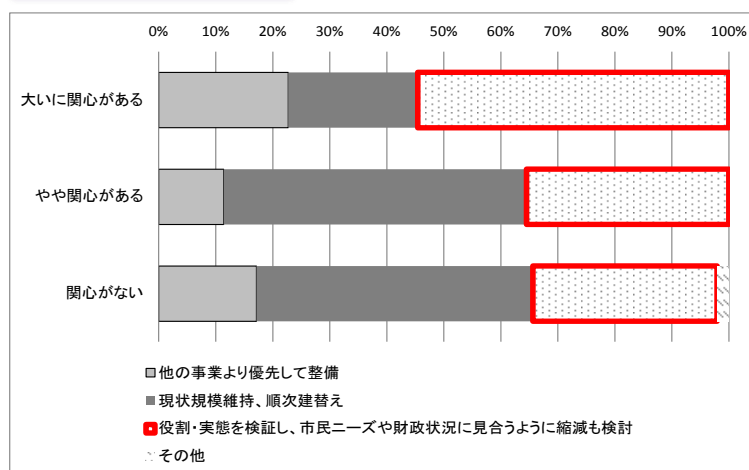


Q「これからの公共施設の整備についてどのように進めていくべきですか？」

市民アンケート



高校生アンケート

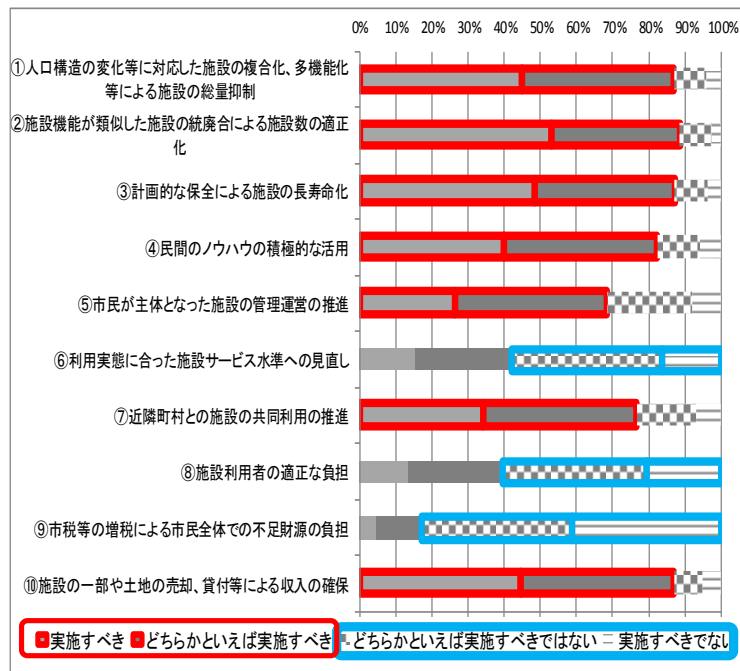


・関心がある人ほど、「縮減も検討」が多くなっている。市民アンケートでは僅少であるが、高校生アンケートでは大きな差が見られる。

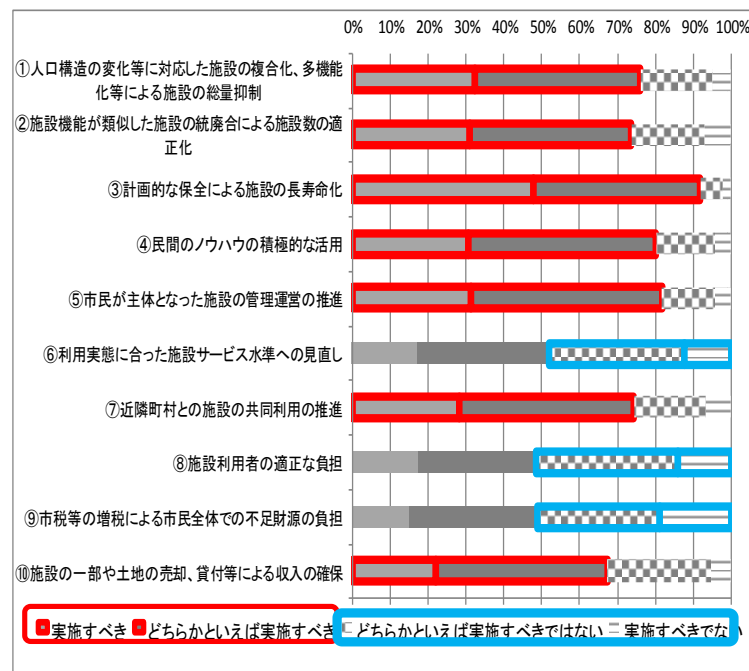
今後の公共施設のあり方②

Q「公共施設を効率的・計画的に管理・活用するための各方策についてどのように考えますか？」

市民アンケート

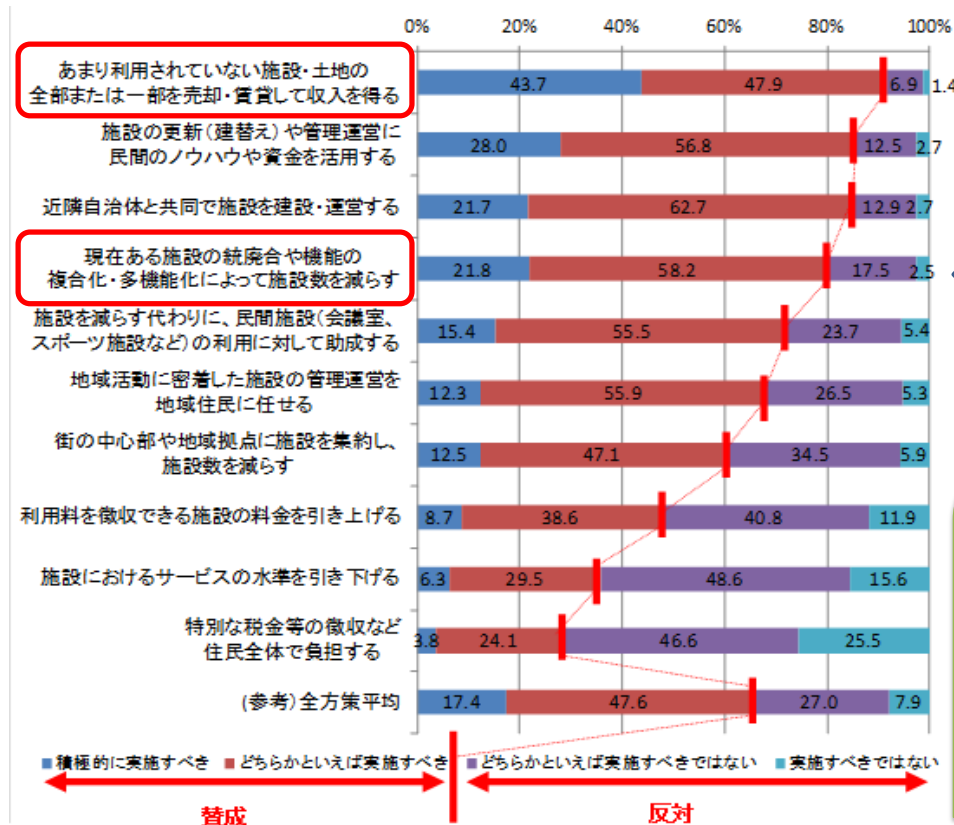


高校生アンケート



参考

全国の傾向、及び帯広市の傾向



帯広市アンケート結果でも賛成割合高い

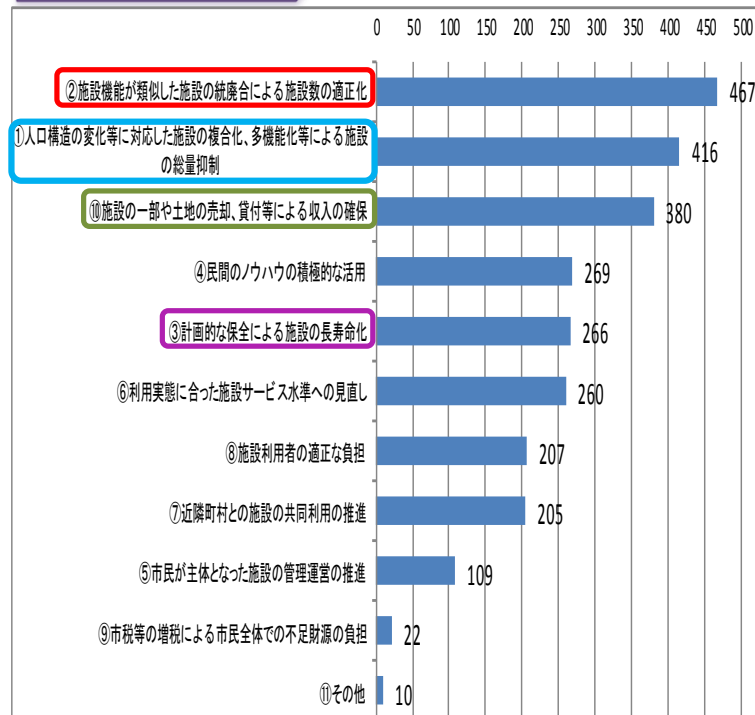
帯広市アンケート結果では上位

財産の利活用には大多数が賛成するも、市民の負担増には反対という結果は帯広市についても同じ

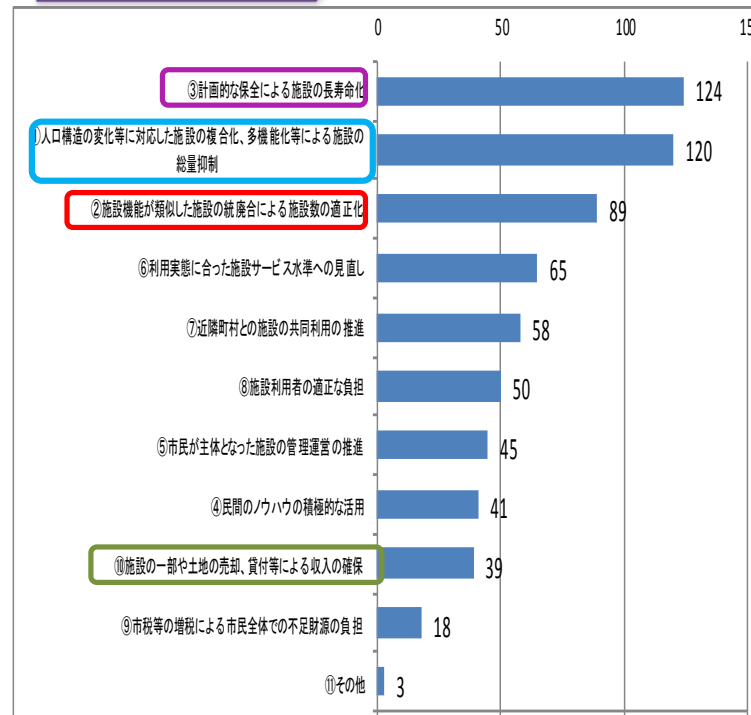
今後の公共施設のあり方③

Q「公共施設のあり方を考えていく上で、あなたは何を重視すべきだとお考えですか？」

市民アンケート



高校生アンケート



他の市町村における 取組みについて

《帯広市第2回市民ワークショップ資料》



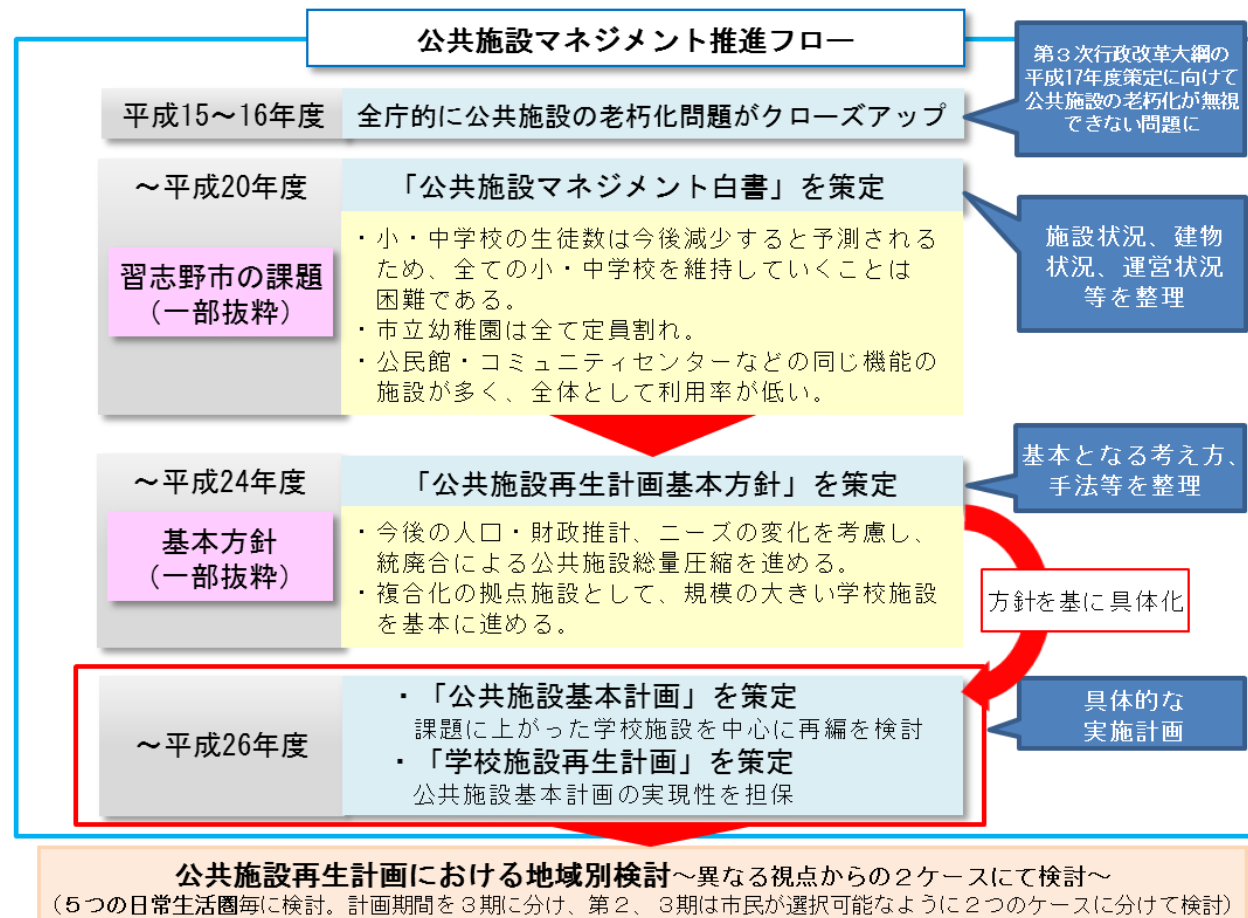
2015年11月8日

1. 公共施設の改善に取り組んでいる事例について . . .	2
類似施設の統廃合 . . . 習志野市	
複合化 札幌市、滝川市、	
多機能化 秋田県美郷町	
長寿命化 名古屋市	
民間活用 秦野市、北九州市	
住民管理の導入 広島市、横浜市	
近隣町村との共同利用・高知県・高知市、多摩六都	
土地の貸付 岡山市	
2. 住民が参加して議論を進めている事例について . . .	26
さいたま市	
府中市	

以下のページについては、各公共団体のホームページ等より情報を収集し、(株)日本経済研究所にて作成したものである。

公共施設の改善に 取り組んでいる事例

習志野市：公共施設の再編を含めたマネジメントの取組①



習志野市：公共施設の再編を含めたマネジメントの取組②

再生計画スケジュール

第1期

平成26年～平成31年

市の総合的な基本構想に
定められた事業の手法を
検討し、実施。

第2期

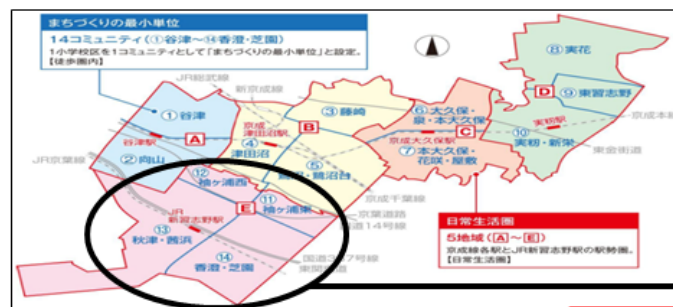
平成32年～平成37年

2つのケースに分けて検討中
ケース① 市民説明会で説明した計画（案）を基本とする。
ケース② 学校施設再生計画における案を基本とする。

第3期

平成38年～平成50年

【A～Eの5地域に区分け】



【E地域(袖ヶ浦、秋津・茜浜、香澄・芝園地域)第2期の例】



学校、公民館、
体育館、幼稚園
を集約。

出所) 習志野市HP

札幌市：基本方針の提示

◆ まちづくりの視点からの方針

➤ ①配置、②機能、③整備・運営手法、④担い手の4つの方向性を整理

方向性1 集約連携型の施設配置

- ✓生活利便機能は歩いて移動できる範囲に
- ✓中核的・高次の機能は地域交流拠点に

方向性2 施設の多機能化

- ✓様々な活動等を行う場の提供と行政サービスの提供場所の組み合わせにより構成
- ✓「施設維持」から「機能重視」へ

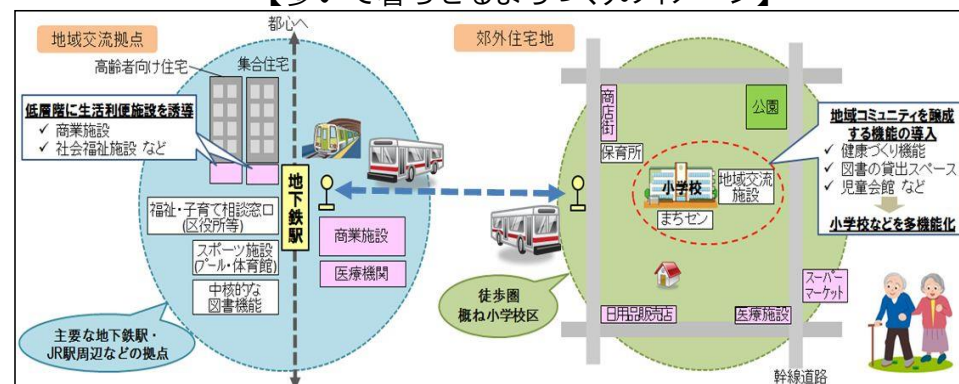
方向性3 将来の環境変化に対応した柔軟な整備・運営

- ✓画一的な配置基準の見直し
- ✓施設総量の見直し
- ✓柔軟な建築手法
- ✓効果的・効率的な施設運営

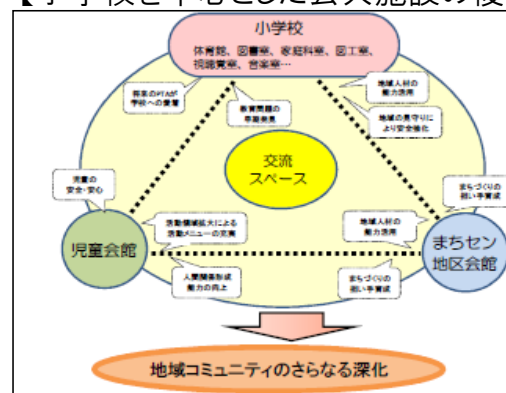
方向性4 多様な主体による施設サービスの提供

- ✓民間による施設サービスの提供
- ✓公共施設運営への市民参加

【歩いて暮らせるまちづくりのイメージ】



【小学校を中心とした公共施設の複合化】



札幌市：サービス水準が向上するイメージの提示

◆◆公共施設再構築後の将来イメージ◆◆

- 重点的に検討すべき施設群の今後の方向性は前述のとおりですが、この基本方針の理念を実現するためには、「施設維持」から「機能重視」へという考え方の下で、従来の発想を転換し、現在の公共施設の形にこだわらず、その機能に着目して再構築を進めていく必要があることから、以下のとおり現行の公共施設が持つ主な機能を整理しました。

【表3 将来の公共施設の主な機能（イメージ）】

※A～Lは現行の公共施設利用者が同一目的で利用する施設を示す

施設の種類	学習	調理	会議・打ち合わせ	交流・娯楽	健康・文・リ・野運動	体育・競技	水泳	図書・貸出・閲覧	文化活動	居住	子育て・子育て支援	相談・指導
(1) 小学校複合施設 ADEFIJL	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
(2) 体育施設 GH						○	○					○
(3) 区役所複合施設 KCJ	○		○	○		○		○	○		○	○
(4) 市営住宅周辺 BFIL			○	○	○					○		

《再構築後の将来イメージ図》

(1) 小学校複合施設

■1-1 小学校複合施設【施設位置図】

- ・郊外住宅などの身近な地域では、小学校に児童会館、まちづくりセンター・地区会館、交流の場、健康づくりの場、図書貸出・閲覧スペース、生涯学習の場、子育て支援の場などの機能が複合化されています。
- ・地域コミュニティの拠点として、施設内では多世代交流が生まれています。

■1-2 小学校複合施設【施設内活動シーン】



★会議室を共用

【午前中】
地域住民の文化講座
【放課後】
児童の習い事
【夜間】
町内会の会議

★運動スタジオを共用

【午前中】
地域の健康づくり教室
【放課後】
児童の運動スペース

★健康相談室・研修室を共用

【午前中】
栄養指導教室・講座
【放課後】
児童に高齢者が読み聞かせ

(出所) 札幌市市有建築物の配置基本方針(概要版)(本書)

札幌市：学校施設（資生館小学校）の複合化①

- ・ 児童数の少なくなった4つの小学校（創成小、大通小、豊水小、曙小）を統合。合わせてしせいかん保育園、子育て支援総合センター、ミニ児童会館を複合化し、都心部子ども関連複合施設として整備。
- ・ 平成11年に教育長の諮問機関である「札幌市学校適正規模検討懇談会」を設置。平成12年に計画がスタートし、平成16年に竣工した。
- ・ 効率的な運営を行うために各施設の長と市の所管課で構成される「札幌市都心部子ども関連複合施設運営協議会」を設け、円滑な運営と市民の利用促進を図るための連絡調整を行う。

特徴1 交流を促進するためのスペース

- ・ 共用ロビーを設け、園児や児童、保護者など自然な世代間交流を生み出す。
- ・ 交流スペースや共有スペースなどを利用し、施設間交流を行う。

特徴2 広い学習空間の確保

- ・ 多様な学習形態に対応できるよう、普通教室はワークスペース併設のオープン教室。
- ・ 敷地の有効活用と空間確保のため、体育館は半地下構造に。

特徴3 安全確保

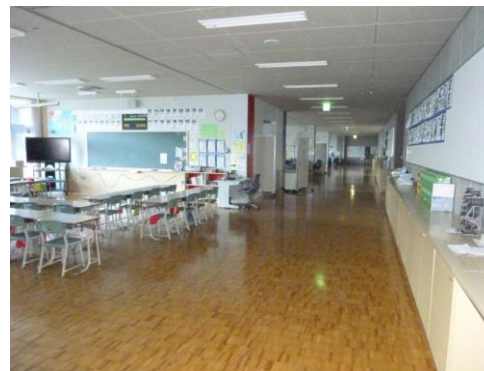
- ・ 不審者侵入や防災のため、管理防災室を設置し、警備員を常駐。

特徴4 天然芝のグラウンド

- ・ 芝生化によりケガの予防、防塵、熱射対策に効果があり、子どもの運動意欲増進につながる。

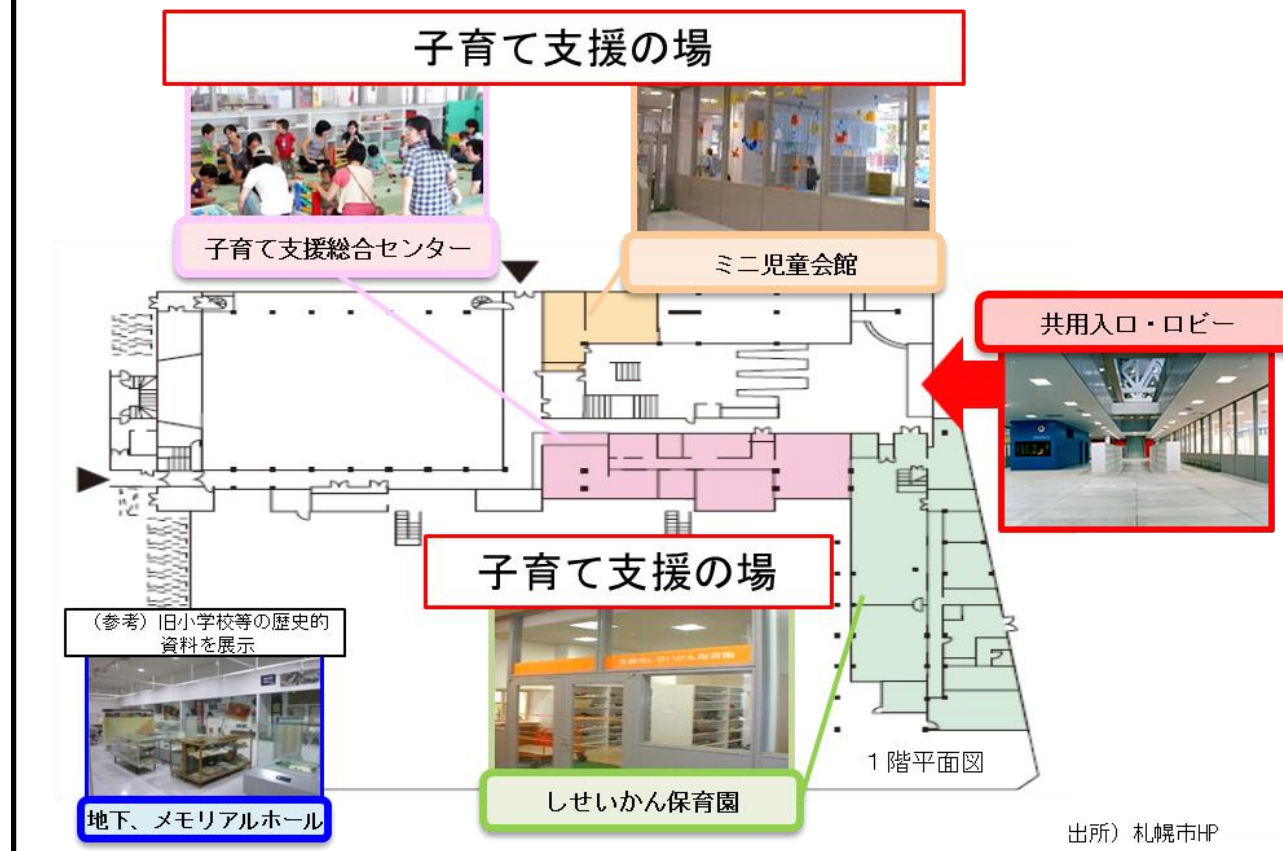
札幌市：学校施設（資生館小学校）の複合化②

都心部人口の空洞化により児童数の少なくなった、4つの小学校を統合し、小学校、保育園、子育て支援総合センター、ミニ児童会館の複合施設として整備



札幌市：学校施設（資生館小学校）の複合化③

小学校に子育て支援施設を複合化



滝川市：施設複合化のメリット・デメリットの提示



（出所）滝川市公共施設マネジメント計画

志木市：小学校や図書館の複合化①

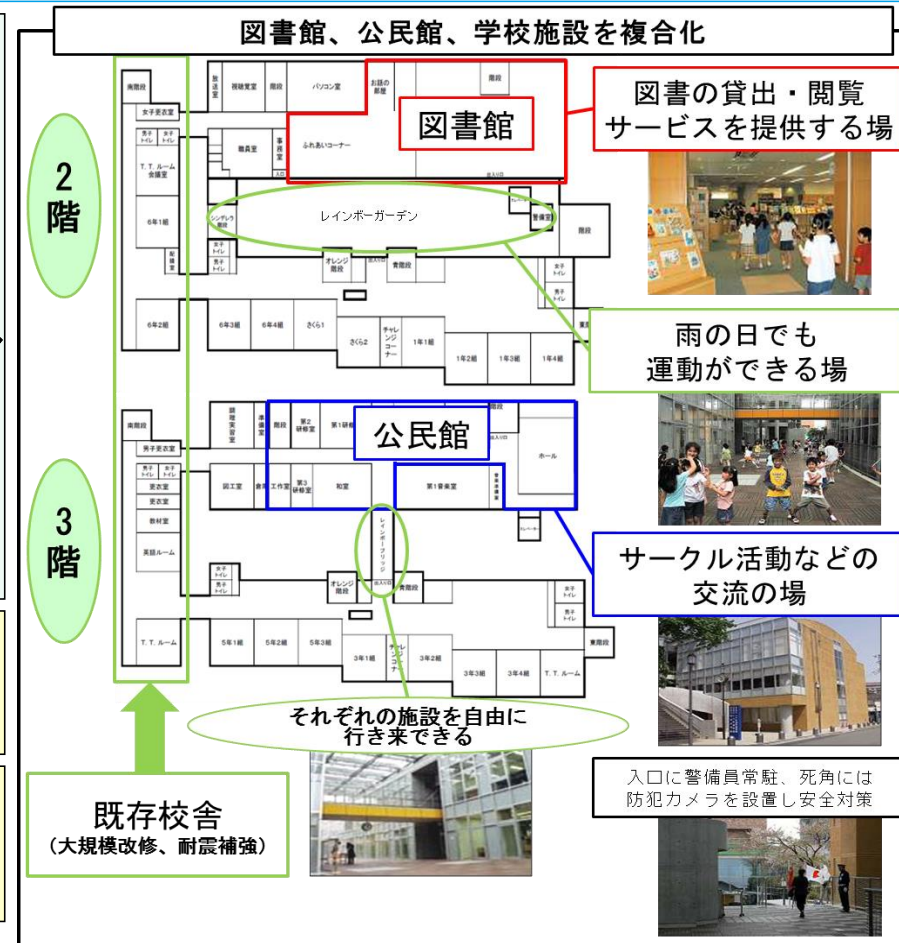
- ・ 建物の老朽化と耐震性に問題があった旧志木図書館、旧志木公民館、旧志木小学校を複合化。
- ・ 検討に当たり、PTAや地域住民等を交えた市民検討委員会を設置し、施設の安全性や管理運営のあり方を議論することにより、地域の合意形成を図った。基本構想を策定後、プロポーザルコンペにより設計会社を選定した。結果、多世代が交流できる場となっている。
- ・ なお、比較的新しかった南校舎のみ耐震補強、大規模改修を行い残すこととした。

特徴1 学校教育と社会教育の融合

- ・ 図書館で児童が司書を経験。
- ・ 公民館での児童向け講座の開催。

特徴2 土地や学校施設の有効活用

- ・ 屋内広場を整備し、雨の日でも児童が運動できる場を提供。



出所) 志木市HP

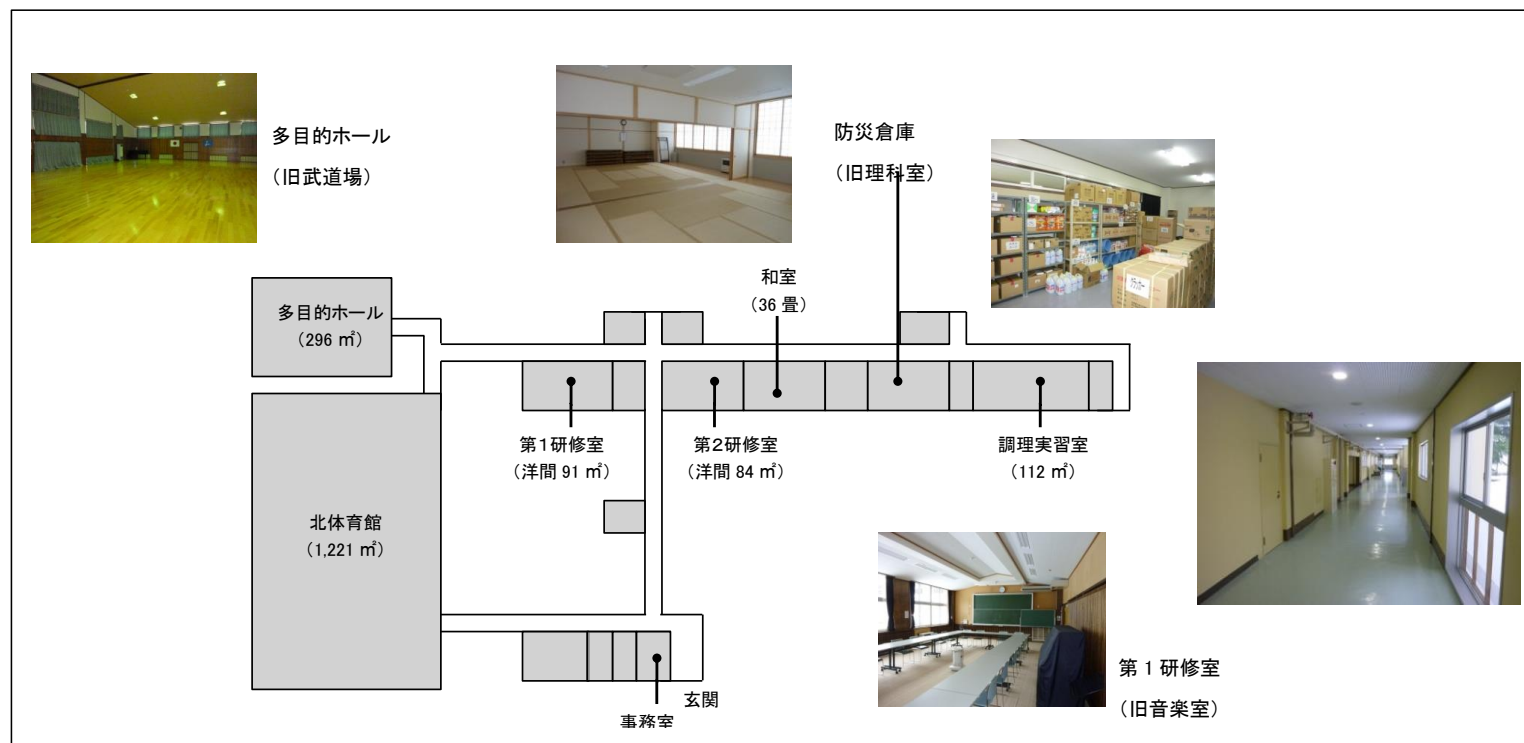
志木市：小学校や図書館の複合化②

老朽化の問題を抱えていた旧志木小学校、旧志木公民館、旧志木図書館を複合化し、「地域コミュニティが学校を創り、学校が地域コミュニティを創る」という新たな試みの学社融合の施設として、平成15年に開館



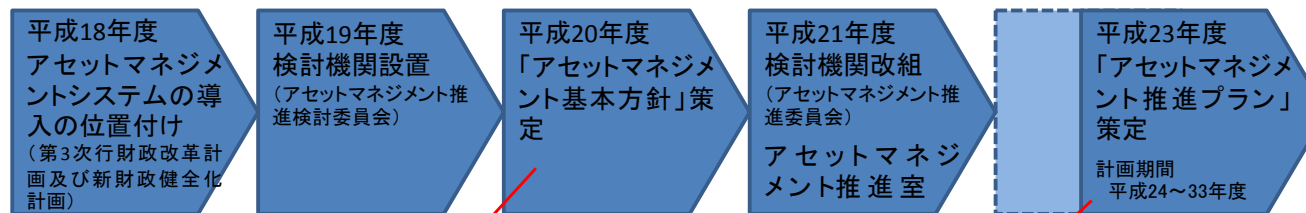
秋田県美郷町：廃校施設の活用（北ふれあい館・北体育館）

地域コミュニティ振興のため、廃校となった学校を改修し、周辺の集会施設機能を集約、生涯学習や集会など目的に利用できる施設として活用



名古屋市:長寿命化を中心とした取組

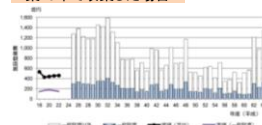
長寿命化を中心に検討を進め、基本方針と計画を策定。施設集約を視野に入れた、更新費用等のより一層の抑制を図るため、白書作成に向けて取組中。



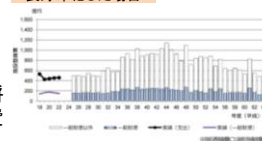
アセットマネジメント基本方針

- 施設の**長寿命化**、効率的な**維持管理**、保有資産の**適正な活用**などの取り組みにより、経費の平準化・抑制を図る

築40年で改築した場合



長寿命化した場合



市設建築物の将来の施設整備費

アセットマネジメント推進プラン

- 基本方針を推進するための維持管理・更新に関する基本事項
 - 長寿命化のパターン分けによるシミュレーションを実施。**実質的には長寿命化計画**
 - 40年間で100億円の抑制効果
 - 検討課題:「資産を**保有しない**行政への転換」、「施設重視から**機能重視**へ」
- 経費の抑制と平準化
 - 施設建築物:原則80年まで長寿命化
 - 公共土木施設:予防保全の考え方の導入。点検結果や補修履歴にデータベース化による効率的維持管理、長寿命化
- 施設の集約化
- 保有資産の有効活用と資源確保

具体的な方針策定を前に、実態把握及び白書策定を実施

秦野市：基本方針とシンボル事業の提示

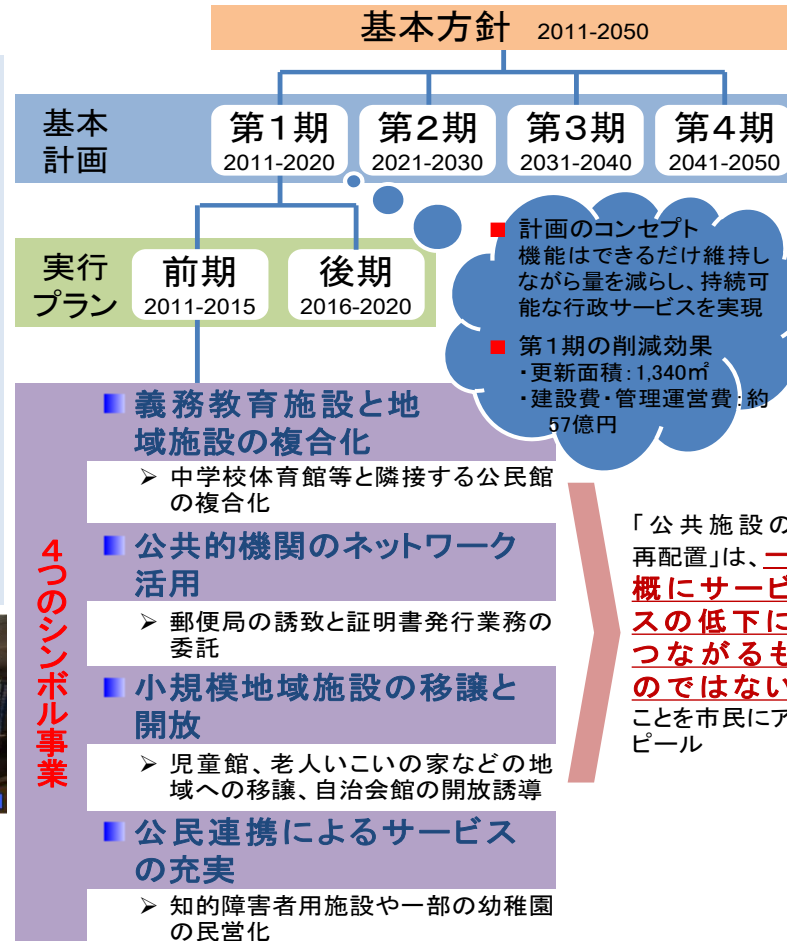
公共施設の再配置に関する4つの方針

- 1) 原則として、新規の公共施設(ハコモノ)は **建設しない**
 - 建設する場合は、更新予定施設の更新を同面積(コスト)だけ取りやめる
- 2) 機能更新の最優先は、義務教育など自治体運営上 **重要機能だけ**
- 3) 40年かけてハコモノの **31.3%を削減**
 - 優先度の低い施設は全て統廃合の対象とし、跡地は賃貸、売却して優先度の高い施設に充てる
- 4) **一元的なマネジメント**を実施
 - 【再配置の視点】「施設の維持」から「機能の維持」へ発想転換、公民連携の推進、学校等を核とした公共施設の複合化、柔軟性のあるスケルトン方式での建替え…等



余裕のある保健福祉センター1階ロビーを有効活用し、郵便局を誘致(行政財産の貸付)するとともに、郵便局に住民票などの証明書発行業務を委託。建物賃貸料収入の獲得、公務員を雇用せず公共サービス充実(連絡所より低コストで交付業務を実施)

基本方針 2011-2050



秦野市：既存建物への機能集約、敷地の有効活用を実施

（事例1）

- ・保健福祉センターの余剰スペースに郵便局を誘致し、生活サービス機能の集約による利便性の向上を図るとともに、賃借料を維持管理費用等に充当している
- ・郵便局に簡易な行政サービス業務を委託した（戸籍や住民票等の証明書の交付等）

（事例2）

- ・庁舎敷地の余裕スペースにコンビニエンスストアを誘致し、土地賃貸料収入を得るとともに、公的サービス（図書館の図書返却受付、住民票の受取サービス等）を24時間年中無休で提供している



（事例1） 保健福祉センターへ郵便局を誘致



（事例2） 庁舎敷地へコンビニを誘致

北九州市：民間活用による中学校の改修①

事例の概要

■PFI手法による学校の改修・地域による活用、及び余剰容積の活用

- ・老朽化した思永中学校(プール・屋内運動場・道場)の 改築・維持管理業務を行うもの。
- ・サービス購入型：中学校改築・維持管理
(プールは市民開放する屋内温水プールとして整備・運営)
- ・独立採算型：民間収益事業となる大学院・地域連携センター建設・運営
(定期借地権を設定し、市が事業者へ土地を貸付)
- ・事業期間：平成19年2月～平成36年3月
(約17年間 管理運営は15年間)
- ・事業方式：BTO方式
- ・事業費：約31億円
- ・事業期間：VFM23.7%

【施設概要】



〈出所〉九電工HP

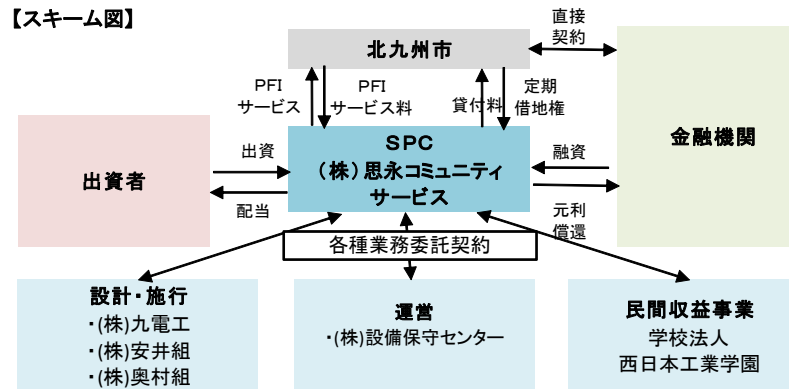


北九州市：民間活用による中学校の改修②

■事業の公募手続き

- H18.2 実施方針公表
- H18.4 実施方針に係る質問回答
- H18.4 要求水準書(案)等公表
- H18.6 要求水準書(案)に係る質問回答
- H18.7 特定事業の選定
- H18.7 入札説明書 公表
要求水準書
落札者決定基準
事業契約書(案)
様式集
- H18.8 質問回答
- H18.10 質問回答
- H18.12 落札者決定
- H19.2 契約締結
- H21.4 供用開始

【スキーム図】



■特徴

- ・学校改修に合わせ、施設を地域に開放し、その運営業務を民間に委託。
- ・余剰用地の活用について、民間事業者に提案を求めた。
- ・事業者は独立採算で民間収益事業を営み、民間施設部分の定借により、市は財源を確保。

広島市・横浜市:地域住民による公園の管理



出典: 広島市HP

地域住民が主体となった公園内の花壇の設置、管理
【複数の街区公園で実施(広島市)】



提供: 横浜市

町内会が公園内の集会所の設置、管理
【港南台北公園(横浜市)】

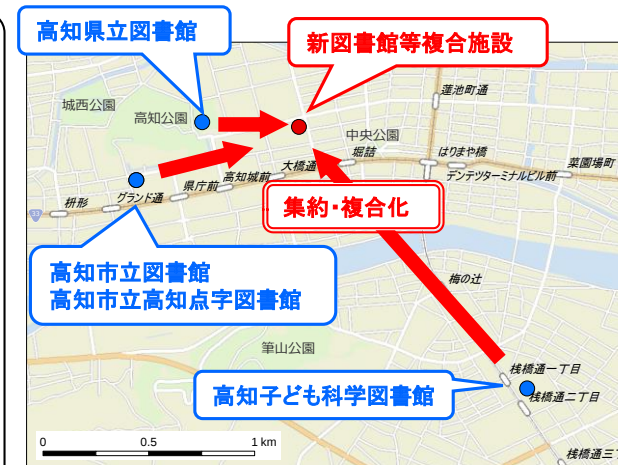
(出典)国土交通省都市局 地域活性化WG説明資料「都市公園の利活用に関する取組み」

高知県・高知市：図書館の集約①

事例の概要

■県・市連携による施設・サービスの提供

- ・老朽化が進んだ県立図書館と3つの市立図書館を複合化。
- ・平成27年度中に開館予定。
- ・合併特例債を活用。
- ・新しい図書館には、県立図書館、市民図書館の二つの組織を置き、県の貸出し等の直接サービス業務は市に委託等により、市民図書館が行う。レファレンスや情報ネットワークなどの業務は共同で行う。



既存の各施設の概要

	開設	備考
高知県立図書館	昭和48年	約3,896㎡。約64.0万冊。
高知市立図書館	昭和42年	約3,466㎡。約42.1万冊。
高知市立高知点字図書館	昭和42年	約353㎡
高知子ども科学図書館	昭和56年	約496㎡

高知県・高知市：図書館の集約②

■検討の経緯

- H22.10 県及び市で検討組織設置
- H23.7 「新図書館等複合施設整備基本計画」策定
- H24.4 基本設計概要公表
- H26年度 竣工予定
- H27年度 開館予定

■運営方法

- ・県立図書館、市民図書館の二組織を置く。
- ・県全体に関わるもの、特に市町村支援は県が行う。資料の直接貸し出しと市内全域のサービスは市民図書館が行う。
- ・閲覧資料は県・市の区別なく配架。

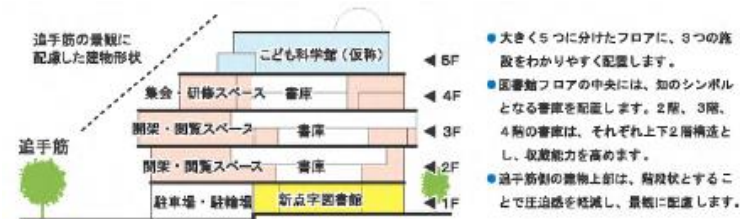
■特徴

- ・複合化により老朽化した施設の建替え実現。
- ・自治体の枠を超えた複合化、運営の連携・効率化により、新しいサービスの提供や読書環境・情報環境の充実を図る。

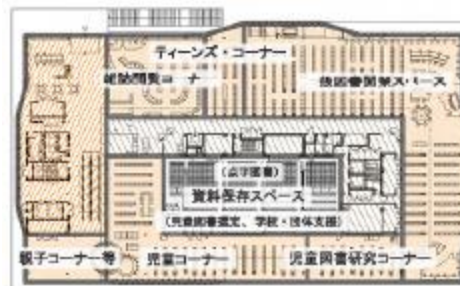
■施設イメージ

- ・延床面積15,000㎡
- ・開架・閲覧スペース5,700㎡
- ・書庫170万冊程度

資料：新図書館等複合施設整備基本計画（H23.7）



2F 新図書館



閲覧資料は、
県・市の区別なく、
分類別に配架

資料：基本設計概要パンフレットより抜粋

多摩六都：科学館の共同設置、管理運営①

事例の概要

■一部事務組合による教育文化施設の運営

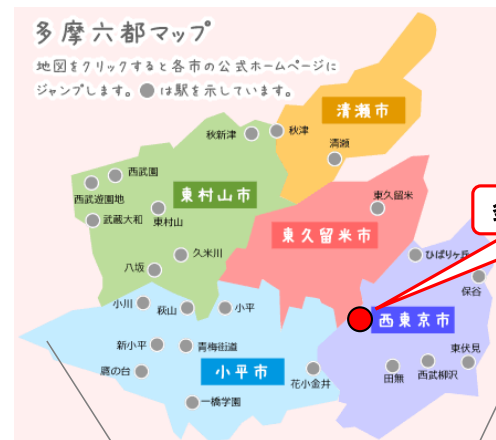
- ・ 小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西
東京市の5市※が共同で科学館を設置。

※多摩6市（西東京市は旧保谷市、旧田無市）は
S62より広域行政圏を
形成

- ・ 多摩六都科学館組合を設立（一部事務組合）
- 【業務】多摩六都科学館の設置、管理及び運営
の事務を共同処理
- 【目的】圏域住民の生涯学習の推進、文化振興。
- ・ 平成24年度より指定管理者制度を導入。

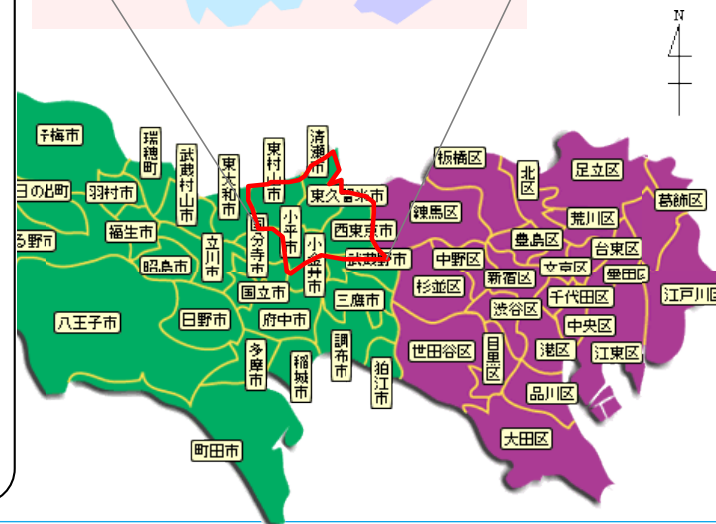


資料：多摩六都科学館の概要（多摩六都科学組合）



多摩六都科学館

資料：多摩北部都市広域
行政圏協議会HP
<http://www.tama6.jp/>



資料：東京都HP

多摩六都：科学館の共同設置、管理運営②

■検討の経緯

- S62. 1 小平市、東村山市、田無市、保谷市、清瀬市、東久留米市の6市によって、
多摩北部都市広域行政圏協議会を組織・設置
- S63.11 子供科学博物館の建設を構想
- H2.6 多摩六都科学組合設立
- H 6. 3 開館
- H24. 4 多摩六都科学館の管理運営に指定管理者制度を導入。

- ・ 圏域住民の生涯学習意欲の高まりに対応するため共同でサービスを提供。
- ・ 地方自治法第284条に規定する一部事務組合により社会教育施設を複数の自治体で運営。
(病院、ごみ処理、上下水道、消防、福祉以外では全国的にも珍しい事例)

■施設の概要

- ・敷地面積 約11,084m²
- ・延床面積 約16,860m²
- ・利用者数 約18万人
うち圏域市民利用42.6%
(平成24年度)

資料：多摩六都科学館の概要（多摩六都科学組合）

	概要
展示部門	第1～第5展示室
プラネタリウム	244席
学習部門	科学学習室、多目的室、実験ショーコーナー、図書コーナー、レクチャールーム、イベントホール
共通部門	ミュージアムショップ、カフェテリア、エントランスホール、休憩室、休憩コーナー

岡山市:土地の貸付による活用①

事例の概要

- 居住機能・福祉機能等を公民連携により集約整備
- 公共施設整備への財源確保
- ・旧出石小学校は統廃合により跡地活用が課題。
- ・J R岡山駅から約500mの中心市街地に位置。
- ・定住促進や地域活性化を目的として活用



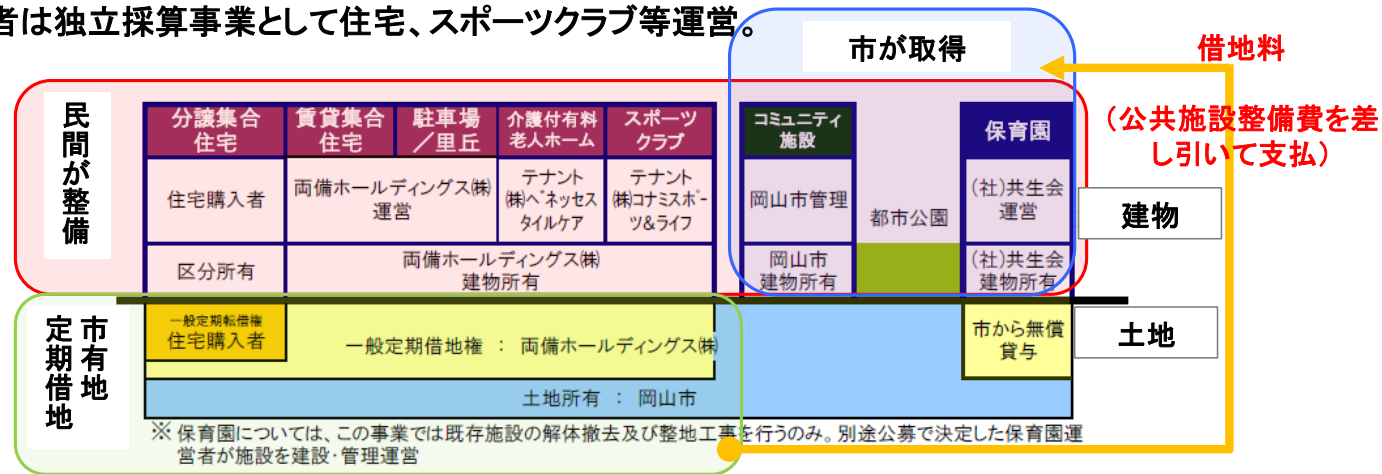
施設の内容

- (1)定期借地権付分譲マンション 66戸
 - (2)賃貸マンション 74戸
 - (3)屋上庭園付立体駐車場 178台
 - (4)介護付有料老人ホーム 54室
 - (5)スポーツクラブ
 - (6)公共整備工事 コミュニティ施設、公園
- ※ (1)から(5)までの施設が定期借地権設定区域内の施設。(6)の施設は事業者整備後に市に引き渡す。

岡山市:土地の貸付による活用②

■事業スキーム

- ・市は事業者に対し、定期借地方式により敷地貸付。
- ・市は事業者が整備する公共施設を整備終了時に購入。
- ・事業者は独立採算事業として住宅、スポーツクラブ等運営。



■特徴

中心市街地に必要な機能(居住、福祉等)を学校跡地を活用して公民連携により整備。

民間事業者が公共施設と民間施設を整備。

民間施設部分における定期借地料収入を公共施設整備の財源に充当。

住民が参加して議論を 進めている事例

さいたま市：取組の具体化

平成23年度
公共施設白書

平成24年度
公共施設マネジ
メント計画

分野別の方針

具体的な取り組み内容

①公共施設マネジメントの専担部署を設置し、トップマネジメントのもと計画を推進

- 「白書」を**毎年度更新**し、公共施設マネジメント計画の進行を管理
- 新規に施設を整備する際の**事前協議制度**(専担部署と所管課)

②市民と情報共有し、合意形成しながら計画を推進

- 出前説明会、わかりやすいリーフレットの作成・配布、シンポジウムの開催などによる**PR推進**
- 市民ワークショップ**による複合化のあり方検討などの市民意見の取り込み

【大方針】

「さいたま方式」の次世代型公共施設マネジメントの確立・発信

【5つの柱】

- ①中長期的な視点
- ②全庁を挙げた問題意識の共有と体制整備
- ③財政と連動した実効性
- ④施設の実態を踏まえた機能重視型、ネットワーク型への転換
- ⑤市民・民間事業者との問題意識の共有・協働

【全体目標】

- ①新規整備は原則として**行わない**(総量規制の範囲内で行う)
- ②施設の更新(建替)は**複合施設**とする
- ③施設総量(総床面積)を縮減する(40年間で**15%程度の縮減**が必要)

ハコモノ
三原則

インフラ
三原則

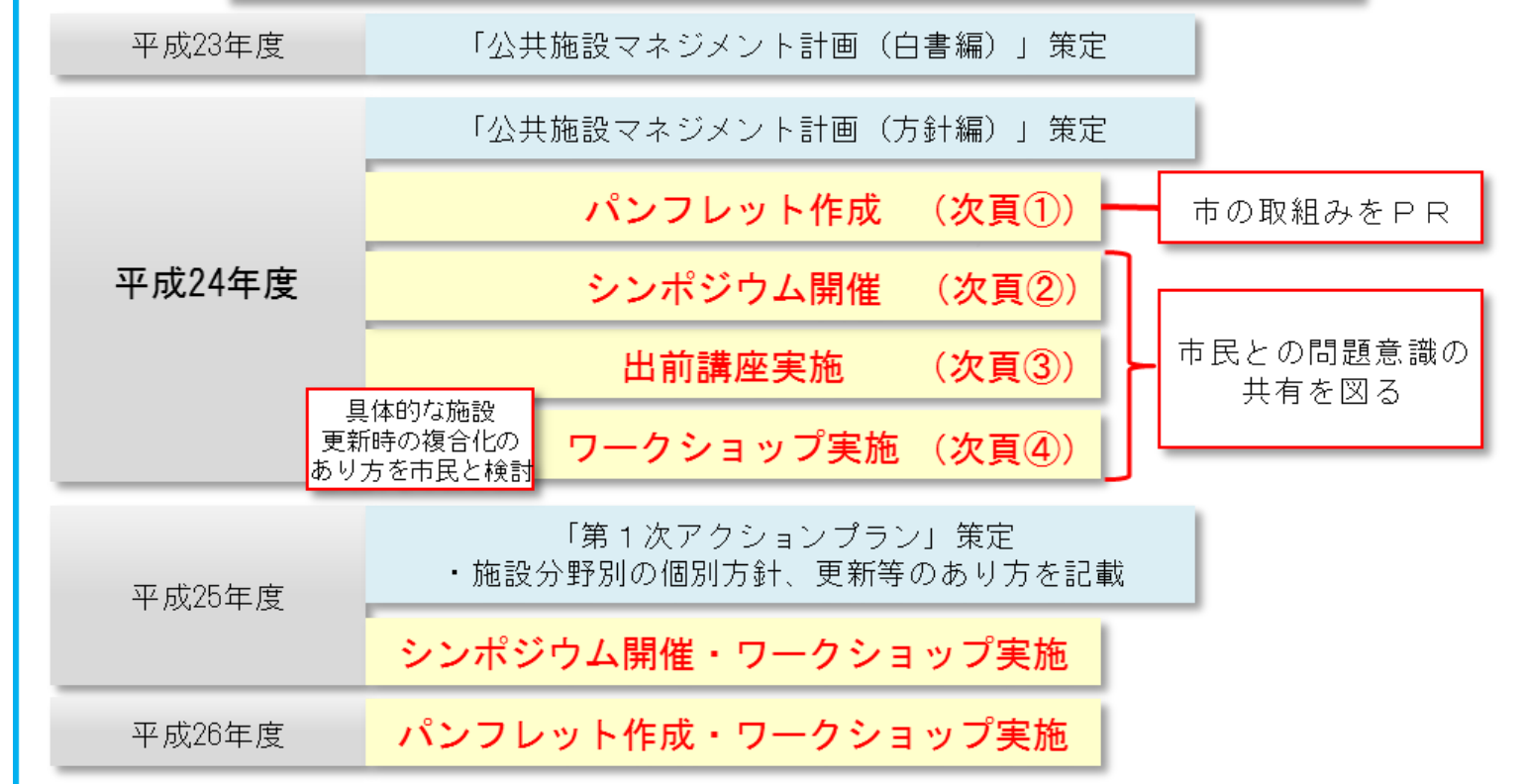
- ①現状の投資額(一般財源)を維持する
- ②ライフサイクルコストを縮減する
- ③効率的に新たなニーズに対応する



埼玉大学の漫画サークル等の協力により、漫画を用いたパンフレットを作成してPR

さいたま市:住民との合意形成①

さいたま市マネジメント推進フロー



さいたま市:住民との合意形成②

①パンフレット

- ・マンガやイラストを用いて、公共施設が抱える課題や基本方針の内容等をわかりやすくまとめる。
- ・各区情報公開コーナーに設置するほか、出前講座、各種説明会やシンポジウム等における説明資料として広く活用。



②シンポジウム

■テーマ
「市民とともに考えるこれからの公共施設」

■開催日 平成24年8月25日

- 内容
- ・市長による説明
 - ・有識者による基調講演
 - ・パネルディスカッション



③出前講座

市民の方々が開催する集会や会合等に市の職員が出向き、公共施設マネジメントについて説明。

④ワークショップ

■テーマ 公共施設の複合化
■参加者 20名（うち公募市民11人）

■開催数 平成24年度は4回開催
■内容 1グループ10人程度でテーマにそって意見を出し合う

第1回

ワークショップの目的等をレクチャーし、共通理解・親睦を深めた。



第2回

志木小学校、馬宮コミュニティセンターを視察。それぞれの施設の良かった点等について話し合い。



第3回

三橋小学校の建替えを想定して、周辺にある老朽化が進む公共施設との複合化による新しい施設づくりの検討等を行った。



第4回

今後、市民と協働で公共施設の再編を行っていくために、4回のワークショップの内容を取りまとめた「手引き」について意見交換。



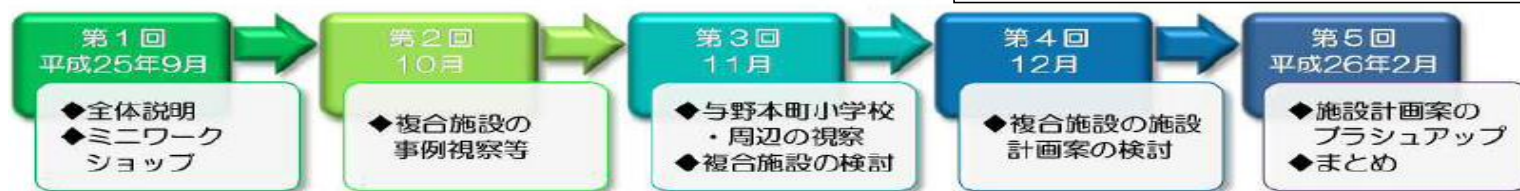
さいたま市：住民ワークショップ

■特徴

- ・開催前に公共施設マネジメントのパンフレット、計画概要版を配布し、参加者が問題意識や前提条件を共有。
- ・計画への住民意見の反映方法等の決定等、ワークショップの位置づけを定義。
- ・ファシリテーターを選定（専門家等への依頼も検討）。
- ・ワークショップ内容の開示、傍聴の促進等、広報活用により参加者以外の住民へも周知。

WSの成果を手引きとしてとりまとめ→
今後の再編を進める際に各所管課でも対応できるよう工夫。

↓WSにおける各回の検討内容

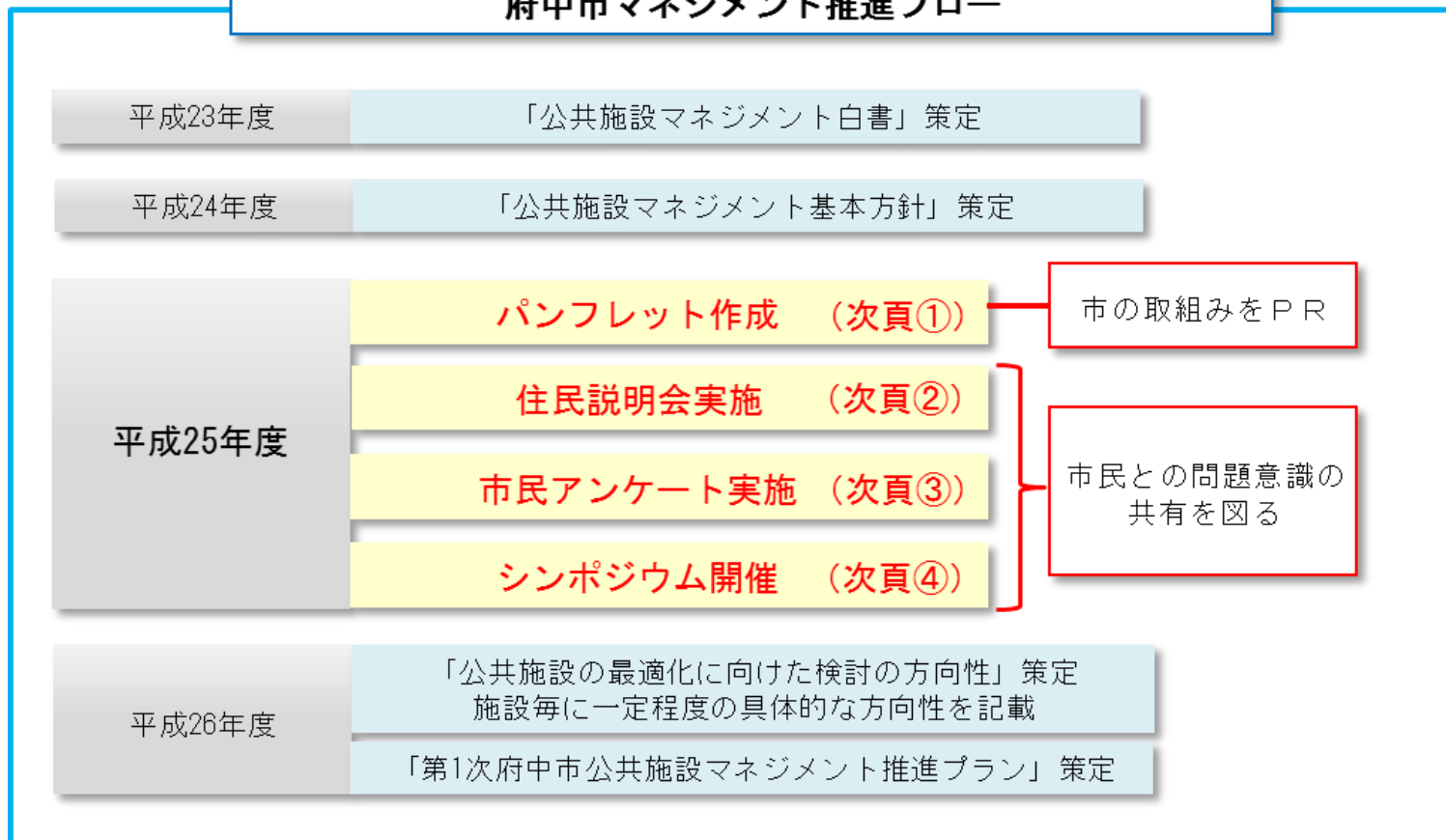


《全体構成》

I 公共施設再編の検討を進める際のポイント	1
体制について	3
プロセス・進め方について	6
II ワークショップの運営	9
1. 検討体制の構築	11
(1)参加者	11
(2)ファシリテーター	11
(3)スタッフ	12
2. 検討の進め方	13
(1)全体スケジュール	13
(2)基本的な進め方	15
①ワークショップ実施前	15
②ワークショップ実施時	19
③ワークショップ実施後	20
3. プログラム	21
(1)キックオフ・アイスブレイク	22
(2)先達事例の視察(フィールドワーク)	31
(3)対象施設での検討(デザインゲーム)	40
(4)施設計画の共有	58
III 広報（PR）の推進	65

府中市:住民との合意形成の取組①

府中市マネジメント推進フロー



府中市：住民との合意形成の取組②

①パンフレット

- ・マンガや図でわかりやすく
府中市公共施設マネジメントの
取組みの概要を説明



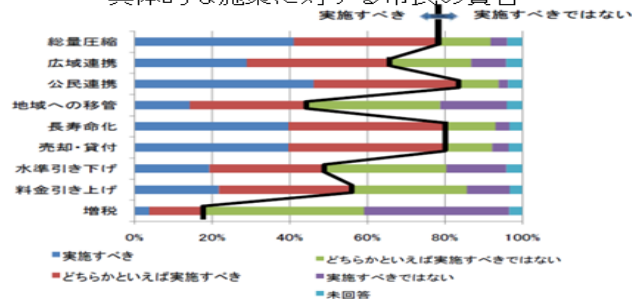
③市民アンケート

■質問内容

- ・各公共施設の利用状況
- ・公共施設の現状、課題の関心について
- ・白書、基本方針の周知度について
- ・公共施設マネジメントの今後の取組みについて等

- 対象 無作為抽出した満20歳以上の市民3,000人
- 方法 郵送による配布、回収
- 期間 平成25年9月21日から平成25年10月11日
- 回答者数 1,146人（回答率38.2%）

設問例：公共施設マネジメントの取組として、
具体的な施策に対する市民の賛否



②住民説明会

- 説明会名
【公共施設マネジメント入門講座】
(平成25年5月から8月まで計6回
市職員が地域の住民に対し、
各地域の文化センターにて実施)

■概要

府中市の公共施設の課題とは何か、
「公共施設マネジメント」とはどうい
うものを、市職員が説明し、市民
との意見交換を行う。

■主な内容

- ・公共施設、人口、財政の現状について
- ・基本方針の概要
- ・公共施設の今後の課題提示 等

④シンポジウム

■テーマ

「府中市の公共施設はいま？」

- 開催日 平成25年11月4日

■内容

- ・市長による説明
- ・有識者による基調講演
- ・パネルディスカッション



出所) 府中市HP